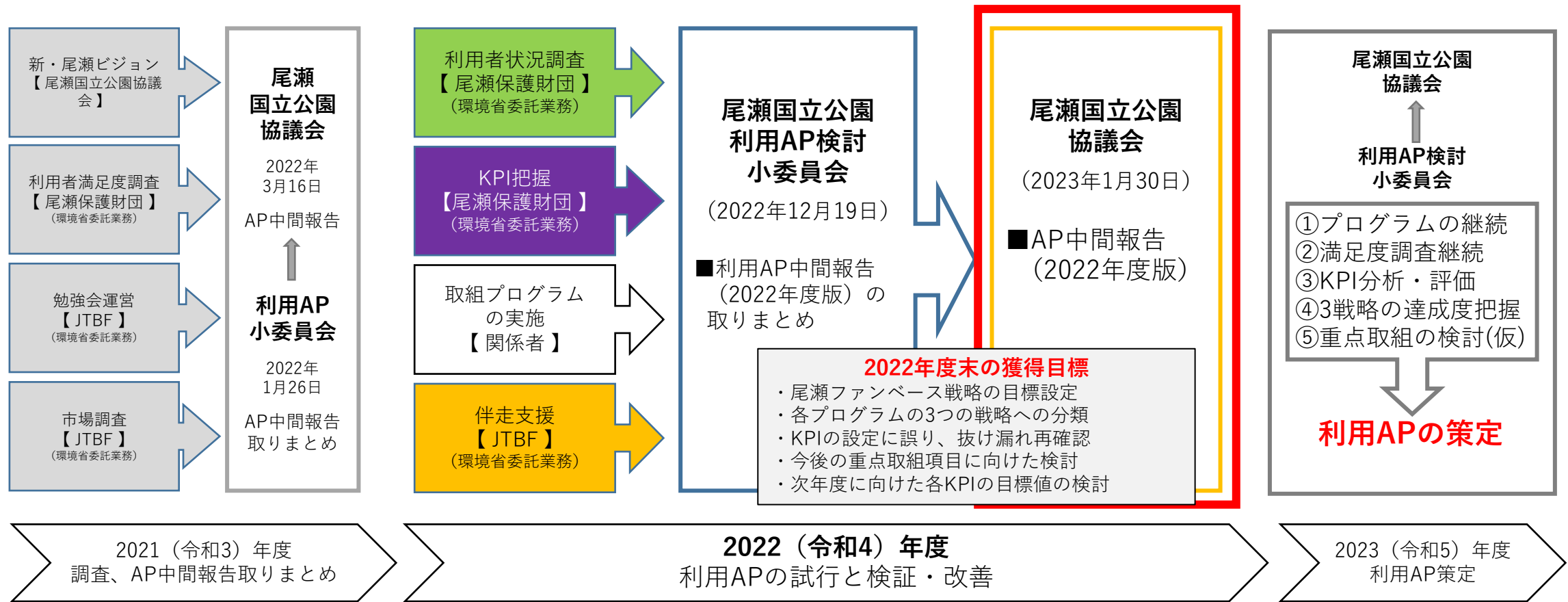


尾瀬国立公園 利用アクションプラン（利用AP）策定スケジュール



- AP概要
- 策定主体：尾瀬国立公園協議会（利用AP検討小委員会）
 - 試行期間：3ヶ年（実行性を優先するため、1年目に目標・指標の設定を行い、2・3年目はプログラムの試行を行い、その検証と改善を行い策定する）
 - 策定後の取扱：利用AP検討小委員会は解散。2024年度からはKPIの達成度把握を行いつつ、尾瀬の利用促進を考える場として新たな会議体を検討。

尾瀬国立公園利用アクションプラン (素案)

2023(令和5)年1月30日

尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会

本案は検討中のものであり、今後、内容を変更する可能性があります。

尾瀬国立公園利用アクションプラン（素案）

目次

1. はじめに	1
2. 尾瀬がめざす姿、利用 AP のコンセプト	3
3. 現状分析	5
(1) 活かしたい尾瀬の強み	5
(2) 尾瀬の利用状況	7
(3) 尾瀬の利用における課題	21
4. 利用 AP の戦略	23
5. 指標設定	24
6. 取組（プログラム）の実施	26
(1) 魅力向上プログラム	29
(2) 滞在・周遊促進プログラム	35
(3) 魅力的プロモーション実施プログラム	42
(4) 尾瀬ファン創出プログラム	50
(5) シビックプライド形成プログラム	52
(6) 脱炭素・循環型公園プログラム	56
7. 進捗状況評価と必要に応じた利用 AP の改訂	58
(1) 進捗状況の評価	58
(2) 必要に応じた利用 AP の改訂	58

(参考資料)

- ・尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会 設置要綱
- ・検討記録（勉強会、小委員会、協議会）
- ・尾瀬利用状況調査（尾瀬利用者、山小屋宿泊者）
- ・旅行市場における尾瀬の利用に関する調査
- ・尾瀬利用関連トピック（R4）

1. はじめに

(策定の背景)

- ・ 尾瀬国立公園は日本最大の山岳湿原である尾瀬ヶ原の湿原景観を中心に、長い年月によって育まれた多様な植物相を持ち、日本の自然保護運動が始まった象徴的な地域でもあります。
- ・ 本公園では、2007（平成 19）年に尾瀬関係者からなる尾瀬国立公園協議会が設置され、「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」を基本理念とする『尾瀬ビジョン』に基づいて国立公園の協働型管理が進められてきました。
- ・ 2018（平成 30）年には、同ビジョンが改訂された『新・尾瀬ビジョン「あなた」と創る「みんな」の尾瀬』に基づいて現在は取組が進められています。
- ・ 2019（令和元）年度からは『新・尾瀬ビジョン』を踏まえた**国立公園の管理運営を進めるための検討が始まり、2022（令和 4）年には、尾瀬国立公園の魅力向上と質の高い利用の方向が示した『尾瀬国立公園管理運営計画書』が作成されました。**
- ・ その間、新型コロナウイルス**感染症**の発生により、尾瀬を取り巻く社会的な環境が大きく変化し、尾瀬では**依然として**入山者数は大幅に減少しています。
- ・ その結果、これまで地域が担ってきた利用施設の維持管理が困難となる状況も一部で生じ始めています。このままでは近い将来、尾瀬全体の管理水準が著しく低下し、国立公園としての適正な利用環境を利用者に提供できなくなることも考えられます。
- ・ **そのため、尾瀬の利用状況を把握・分析することで尾瀬が抱える利用面の課題を整理し、その課題の解決に向けて、尾瀬の利用や管理に携わる地域の関係者が一丸となり、尾瀬国立公園の保護と利用の好循環を生み出す取組を実施していくことが必要となっています。**

(策定の目的と位置づけ)

- ・ 以上の背景を踏まえて、尾瀬国立公園の魅力向上と質の高い利用を実現するために、『尾瀬国立公園利用アクションプラン（以下「利用 AP」という）』を策定します。
- ・ 利用 AP は『新・尾瀬ビジョン』が掲げる「尾瀬がめざす姿」の**実現に利用面から寄与するために作成するプランであり、行動理念に基づく具体的なアクションも示しています。**
- ・ 利用 AP では、利用形態である**楽しむ活動と守る活動の相乗効果を図る戦略（通称：尾瀬ファンベース戦略）の実現に向けて、利用者を 3 つ（ビギナー、リピーター、ファン*）に分け、各利用者層に応じた取組（プログラム）を実施します（詳細は後述）。**

*ビギナー＝尾瀬利用回数 1 回、リピーター＝尾瀬利用回数 2 回以上、ファン＝**守る活動への参加**

(検討体制と検討プロセス)

- ・ 利用 AP は 2021（令和 3）年度から 2023（令和 5）年度の 3 ヶ年を検討・試行期間とし、検討・試行期間終了後に策定される予定です。
- ・ 試行期間の 1 年目（2021（令和 3）年度）は、目標や指標の設定を行い、2・3 年目（2022～2023（令和 4～5）年度）は取組（プログラム）の試行を行い、その検証と改善後に策定されます。
- ・ 尾瀬国立公園協議会の下部に「尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会」を設置し、**小委員会**や尾瀬国立公園利用アクションプラン検討に向けた勉強会（ウェブ会議、現地視察）等を開催して意見交換を行いつつ、利用 AP の検討を進めていきます。

2. 尾瀬がめざす姿、利用 AP のコンセプト

- ・ 利用 AP は『新・尾瀬ビジョン』が掲げる「尾瀬がめざす姿」の**実現に利用面から寄与するために作成するプラン**であり、その行動理念に基づく**具体的なアクションを示すもの**です。
- ・ 『新・尾瀬ビジョン』では、自身や次代を担う子どもにとって、20年後の尾瀬がどうあってほしいかを考え、「尾瀬がめざす姿」を以下のように定めています。

尾瀬がめざす姿

みんなの財産である尾瀬をこれからも守り続けていくため、活かしたい尾瀬の強みを高めながら、3つの視点を大切に「**みんなに愛され続ける尾瀬**」を目指しましょう。

1. 「生きもの」の視点 尾瀬本来の生きものがあるままに生きている
2. 「利用者」の視点 いつ来ても楽しく誰もがわくわくできる
3. 「地域」の視点 地域の人々が誇りを持っていきいきできる

- ・ そして、『新・尾瀬ビジョン』では、尾瀬がめざす姿を実現するために、以下の行動理念に基づき行動することを定めています。

行動理念

「みんなの尾瀬を みんなで守り みんなで楽しむ」

1. みんなの尾瀬
尾瀬の普遍の価値を広く発信し、尾瀬を愛する輪を広げていきましょう。
2. みんなで守る
かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、しっかりと次代に引き継いでいきましょう。
3. みんなで楽しむ
自然を損なわない楽しみ方を考えながら、みんなが訪れたくなる尾瀬にしましょう。

- ・ また、『新・尾瀬ビジョン』では「尾瀬の今後の方向性・必要な取組」について以下のようにまとめられています（内容一部抜粋）。

1. みんなの尾瀬

- 視点① 愛される尾瀬づくり（尾瀬のファンづくり、尾瀬で学ぶ機会の拡大）
- 視点② モデルとなる尾瀬づくり（先進的な取組の推進）
- 視点③ 尾瀬を育てる仕組みづくり
（多様な主体の参加と連携促進、担い手の育成、資金的サポートの呼びかけ）
- 視点④ 情報の効果的・効率的な発信（認知度の向上、情報の共有）
- 視点⑤ 尾瀬の現状把握（基本情報の収集）

2. みんなで守る

- 視点① 自然豊かな尾瀬づくり
（これまでの取組の継承、貴重な自然環境の保護、植生の荒廃対策、外来植物対策）
- 視点② 歴史・伝統・文化が息づく尾瀬づくり
（歴史・伝統・文化の保全、新しい歴史・伝統・文化の創造）
- 視点③ 野生動物との軋轢の解消
（ニホンジカによる被害の低減、ツキノワグマとの共存、新たな獣害への対応）
- 視点④ 科学的知見に基づく保全（調査研究の促進）

3. みんなで楽しむ

- 視点① 魅力あふれる尾瀬づくり（尾瀬の魅力向上）
- 視点② 幅広い楽しみ方の検討
（多様な利用方法の検討、エコツーリズムの推進、地域における利用の役割分担、
滞在型・周遊型利用の促進）
- 視点③ 楽しむための土台づくり
（安全対策、施設の整備、ルール・マナーの検討、普及啓発、
望ましい交通アクセスの検討）

- ・ 以上を踏まえて、利用 AP のコンセプト（全体を通した基本的な考え方）を以下に定めます。

利用 AP のコンセプト

「尾瀬を知り、楽しむことを通して、守ることへの協力をうながす」

3. 現状分析

- ・ ここでは、『尾瀬国立公園利用アクションプラン』のコンセプト「尾瀬を楽しむことを通して、守ることへの協力をうながす」に沿って行動するために、現状分析を行い、尾瀬の強みを活かすための対応課題を整理します。

(1) 活かしたい尾瀬の強み

- ・ 『新・尾瀬ビジョン』では、活かしたい尾瀬の強みとして、以下の7つがあげられています（内容抜粋、一部集約整理）。

1) 歴史・伝統・文化の魅力

- ・ 尾瀬には、長い歴史の中で息づいてきた伝統・文化が多くあります。
- ・ 新潟県魚沼市には、平安時代に旧湯之谷村で最期をとげたと言われる尾瀬中納言三郎の立像があり、昔から尾瀬との関わりがあったことがうかがえます。
- ・ 福島県檜枝岐村と群馬県片品村は、尾瀬を挟んで旅人が行き交う会津沼田街道の途中にあり、江戸時代には物資を運ぶ交易路となっていました。また、戊辰戦争の際に会津軍が築いた土塁跡が大江湿原に今も残っており、片品村戸倉には、会津軍と新政府軍が交戦した記録が残されています。
- ・ この他にも、尾瀬と結びついた歴史・伝統・文化に基づくストーリー（独自の神話、地名の由来など）が数多くあり、これらは今後磨き上げて発信していきたい尾瀬の魅力です。

2) 尾瀬が持つ普遍の価値

- ・ 雄大で豊かな自然が残る尾瀬は、見る人に美しさや心地よさ、くつろぎを感じさせてくれるなど、「みんな」にとって価値のあるものです。
- ・ 尾瀬は、寒冷な気温と豊かな降水量によって、変化に富んだ山岳地形がかたちづくられ、川や森、湿原など豊かな自然が見られます。
- ・ 8千年という長い年月をかけてつくられた湿原の泥炭には、過去の気候変動や浅間山や榛名山、遠くは九州の火山活動が保存記録されているなど、自然の博物館としても貴重な存在です。このように、自然的・文化的に特に価値が高いものとして特別天然記念物にも指定されています。
- ・ 2005（平成17）年には、「特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約（ラムサール条約）」に登録されるなど、様々な生きものが織りなす生態系も価値あるものです。

3) 自然保護の原点

- ・ 尾瀬はこれまで、度重なる開発の波にさらされてきました。1903（明治36）年、尾瀬にダムを建設する計画が初めて発表されてから、水力発電を進める国策と尾瀬の保存を求める考えの間で、長期にわたる議論がありました。1948（昭和23）年に尾瀬ヶ原全体をダム化する計画が持ち上がると、1949（昭和24）年には学者・文化人・登山家たちが、「尾瀬保存期成同盟」（今の「公益財団法人日本自然保護協会」）を結成し、日本の自然保護運動の先

駆けとなりました。

- ・ 尾瀬周辺の道路についても、1940（昭和 15）年に日光国立公園利用計画に会津沼田街道の車道化が位置付けられてから議論が続けられました。計画変更を経て、福島・群馬の両県による工事が進められましたが、全国的に自然保護の世論が高まり、尾瀬では 1971（昭和 46）年に平野長靖氏が環境庁（当時）長官に訴え、また「尾瀬の自然を守る会」が結成されるなどして道路計画の中止につながりました。
- ・ このように、今でも美しい尾瀬の魅力を私たちが感じるができるのは、先人たちの想いと取組があったからです。

4) ごみ持ち帰り運動発祥の地

- ・ 1972（昭和 47）年に、地元団体、山小屋組合などの関係機関、登山者有志や国立公園協会の提案によって環境省・地元 3 県（福島・群馬・新潟）・関係機関による「ごみ持ち帰り運動」が始まり、30 年以上もごみ持ち帰りの呼びかけが地道に行われています。
- ・ 尾瀬に関わる人々の協力と努力によって、一時期はごみであふれていた尾瀬も、今は美しい自然を保っています。

5) 多様な主体が参加できる「仕組み」の存在

- ・ 国立公園では、優れた自然風景を後世まで残していくこと（保護）と、様々な人がその素晴らしさを楽しむこと（適正な利用）のバランスをとっていくことが必要です。そのためには地域住民や利用者、土地所有者、行政機関、自然保護団体などの多様な主体が一体となって取り組む「仕組み」が重要です。
- ・ 尾瀬では、2008（平成 20）年から「尾瀬国立公園協議会」が開催され、全国に先駆けて多様な主体による尾瀬国立公園の管理運営が進められてきました。尾瀬では多様な主体が参加できる「仕組み」が先進的に作られています。

6) 一級の自然の中で歩き、学び、宿泊できる特別感

- ・ 国立公園では、保護と適正な利用のバランスをとるために一定の行為が規制されており、規制の強い順に特別保護地区、特別地域、普通地域に区分されています。
- ・ 尾瀬国立公園の中心部は、特別保護地区であり、特に優れた自然風景や生態系を有している場所です。それでありながら歩道やサービスの充実した山小屋が整備されていることで、優れた自然の中を歩くだけでなく、環境学習のフィールドとして利用できています。さらに、宿泊することで朝もや、白い虹、夕焼け、星空、ホタルが飛ぶ情景など、宿泊した者だけが体験できる特別な魅力を尾瀬は持っています。

7) 受け入れることができる利用者層の幅広さ

- ・ 尾瀬は、2 千メートル級の山々で登山を楽しめる場所でありながら、国立公園の中心部は木道が整備されており、様々な世代が一緒に楽しめる場所になっています。複数の登山口やルートが存在するだけでなく、歴史・伝統・文化の魅力も有していることで、幅広い利用者層を受け入れることができることが特徴であり、利用者はニーズ、体力に合わせて多様な楽しみ方ができます。

(2) 尾瀬の利用状況

1) 全般

●入山者数の推移

- 尾瀬国立公園への入山者数は、1996（平成8）年の65万人をピークに30万人以下となっています。近年は、入山者数の微減傾向が続いています（国立公園全体は、2011（平成23）年以降増加傾向にあります）。

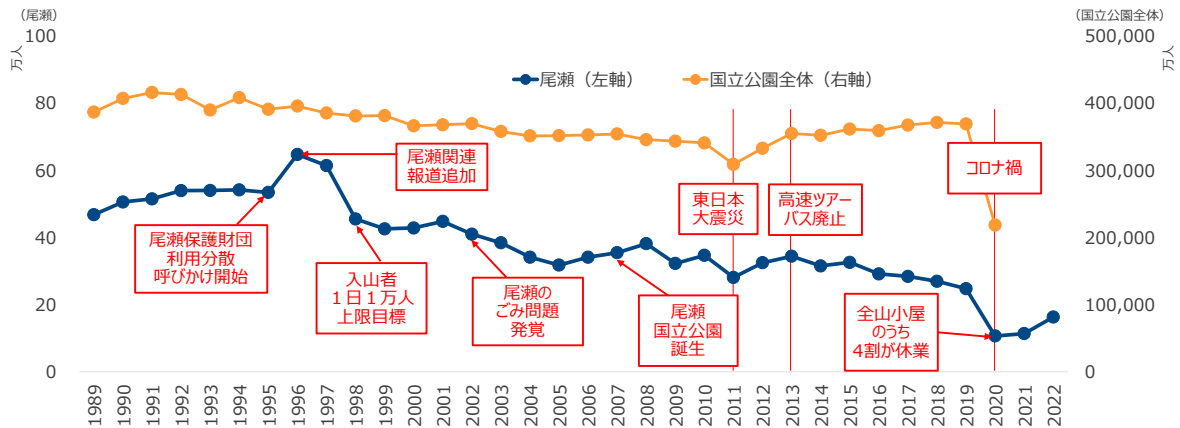


図1 尾瀬国立公園と国立公園全体の入山者数

出典：環境省

●入山口別入山者数及びその構成比

- 入山口別に見ると、1989（平成元）年から2019（令和元）年の間では、鳩待峠口と比べて沼山峠口及び大清水口の減少幅が大きくなっています。
- 主要入山口の利用割合を見ると、鳩待峠口への集中が続いています。2020（令和2）年、2021（令和3）年においては、御池口、大清水口の利用割合が増加しています。

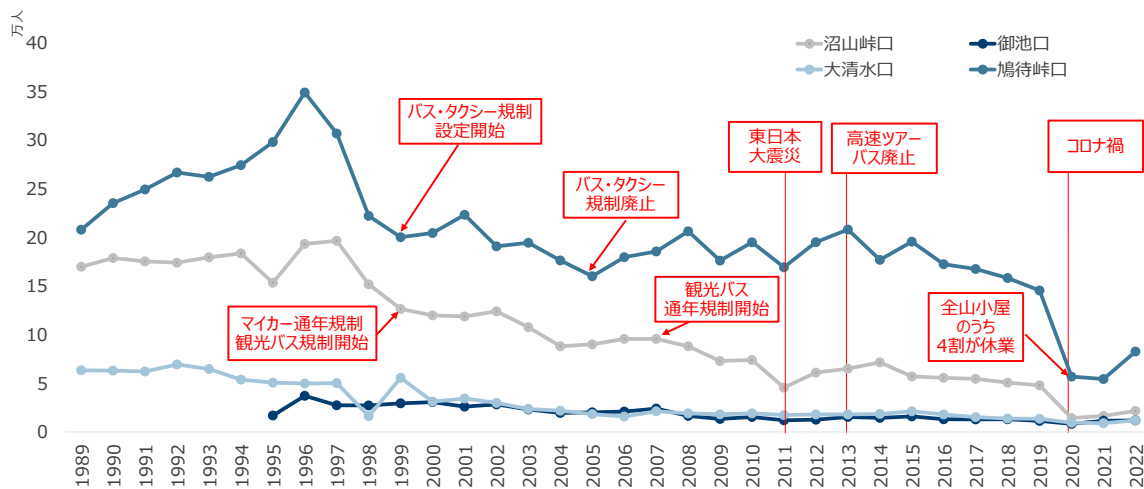


図2 入山口別の入山者数

出典：環境省

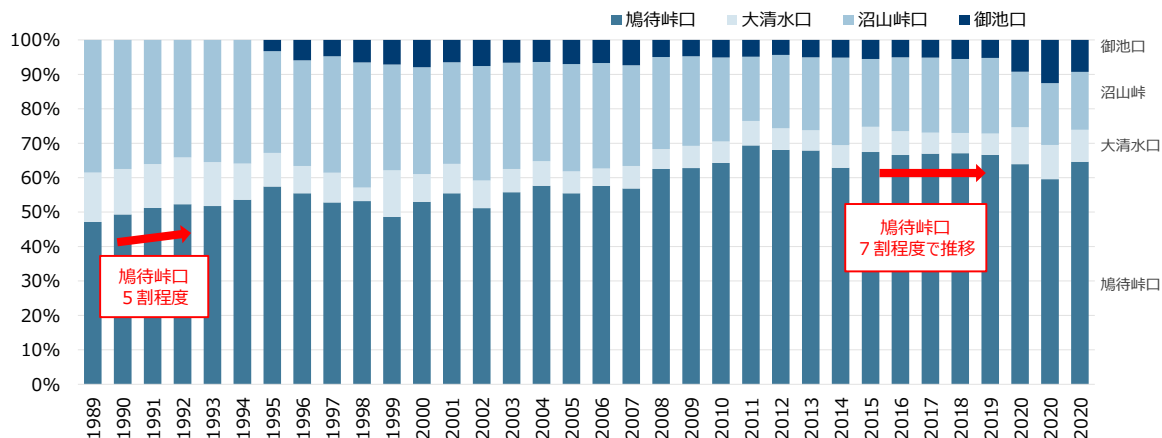


図3 入山口別の入山者割合

注：1989年～1994年の「御池口」は「その他」に含まれるため割愛しています。

出典：環境省

●月別入山者数

- ・ 尾瀬入山者数は、6月、7月の減少が大きいです。
- ・ 全体としては、季節利用は平準化してきています。

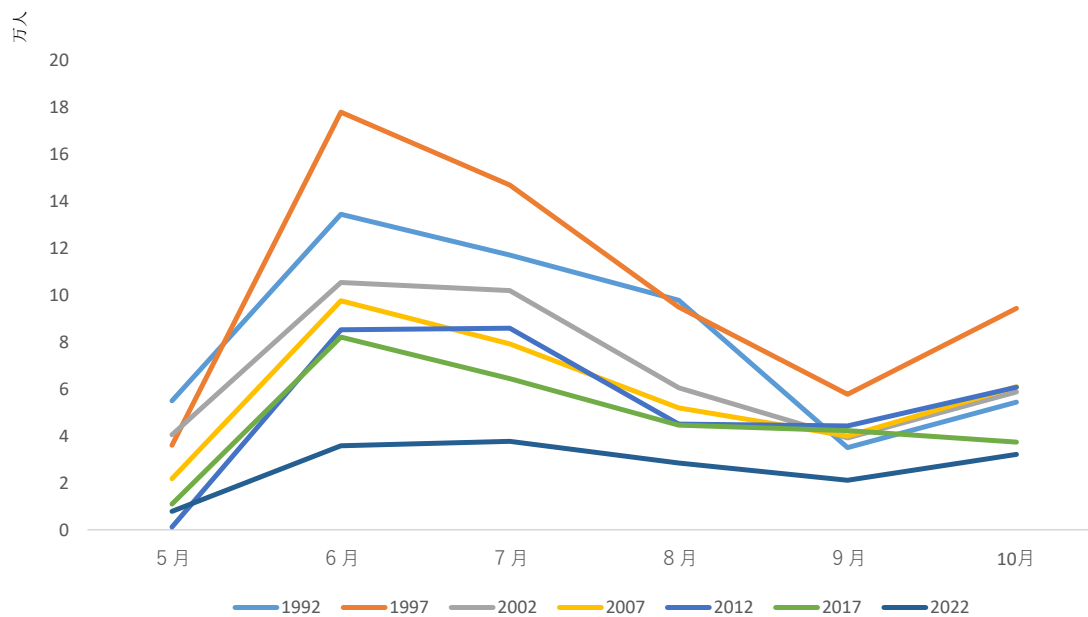


図4 月別入山者数

出典：環境省

●ビッグデータを用いた国内利用者数

- ・ ビッグデータを用いた尾瀬国立公園の国内利用者数は、2019（令和元）年度は約 24 万人と推計されています。
- ・ 性・年代別に見ると、男女ともに 60 代が最も多く、利用者の約 25%を占めます。34 国立公園全体の性・年代別利用者数の構成比と比べて、尾瀬国立公園は 60 代の占める割合が高くなっています。
- ・ 次に四半期別に利用者数を見ると、4-6 月は約 7 万 7,000 人、7-9 月は約 10 万 4,000 人、10-12 月期は、3 万 1,000 人となります。いずれの四半期においても 60 代が最も多くなっています。
- ・ 居住地別に利用者数を見ると、関東居住者の利用者数が最も多く、いずれの四半期においても 7 割以上を占めます。四半期によって構成比は異なるが、東北、中部、関西の利用者も 10%前後を占める期があります。
- ・ 都道府県別の利用者数は、上位 5 つは、東京都、埼玉県、群馬県、神奈川県、千葉県となります。上位 5 都県で全体の 6 割、上位 8 都県で全体の 8 割を占めます。
- ・ 市町村別の利用者数は、上位 5 つは、前橋市、高崎市、宇都宮市、会津若松市、郡山市です。

表 1 年間国内利用者数（総数、性・年代別）_2019（令和元）年

	尾瀬						34国立公園					
	男性		女性		全体		男性		女性		全体	
	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%	人	%
総数	139,659	100.0	100,263	100.0	239,922	100.0	57,366,917	100.0	48,550,417	100.0	105,917,334	100.0
80歳代	3,895	2.8	2,964	3.0	6,859	2.9	1,678,871	2.9	2,182,178	4.5	3,861,049	3.6
70歳代	21,789	15.6	17,510	17.5	39,299	16.4	5,650,130	9.8	5,808,274	12.0	11,458,404	10.8
60歳代	34,752	24.9	26,708	26.6	61,460	25.6	8,718,932	15.2	7,548,830	15.5	16,267,762	15.4
50歳代	24,247	17.4	17,271	17.2	41,518	17.3	9,080,789	15.8	6,983,162	14.4	16,063,951	15.2
40歳代	22,668	16.2	14,822	14.8	37,490	15.6	11,051,531	19.3	8,106,324	16.7	19,157,855	18.1
30歳代	14,324	10.3	9,442	9.4	23,766	9.9	8,989,483	15.7	7,281,079	15.0	16,270,562	15.4
20歳代	13,525	9.7	8,619	8.6	22,144	9.2	9,097,133	15.9	8,053,021	16.6	17,150,154	16.2
10歳代	4,459	3.2	2,927	2.9	7,386	3.1	3,100,048	5.4	2,587,549	5.3	5,687,597	5.4

注：尾瀬は 2019（令和元）年度（2019（令和元）年 4 月～2020（令和 2）年 3 月）のデータを使用
 出典：令和 2 年度 国立公園満喫プロジェクト推進業務（環境省）より作成

調査の概要：位置情報ビッグデータを用いた推計結果

- ・ 携帯電話会社が保有する携帯電話の基地局位置情報を用いて算出した人口統計
- ・ 国内居住者については、国内契約者数約 8,000 万台*から普及率を加味して拡大推計したもの
 (*2020 年（令和 2）年 3 月現在）
- 対象エリア：国立公園エリア内（国立公園区域にかかる 1 km メッシュを合算したエリア。陸上のみ）
- 集計方法：
 - ・ 調査対象期間に国立公園内に 1 時間以上滞在した、期間ユニーク人数、同一の人が複数日にまたがって滞在しても 1 カウント
- 対象者：国内に居住する 15～89 歳の男女、かつ、観光客*
 *観光庁が規定する「旅行の定義」に則り、通勤・通学でない移動

のうち、片道移動距離が 80km 以上もしくは所要時間 8 時間以上の移動（隣接市町村居住者を除く）を抽出

- 対象期間
 - ・ 2019（令和元）年 1～12 月 ※一部公園は 2019（令和元）年 4 月～2020（令和 2）年 3 月
- 属性
 - ・ 総数 ・ 性年代別（10 歳階） ・ 居住地別（都道府県・市区町村）（留意事項）
 - ・ 海上移動や山岳利用等で長時間の電波断絶が想定される公園については、基地局位置情報が取得できないことから過小推計になる可能性があるため、代替手法にて分析を行う（尾瀬、小笠原、南アルプス、白山）
 - ・ なお、外国人実施の場合は、性年代別分析、代替手法は実施不可

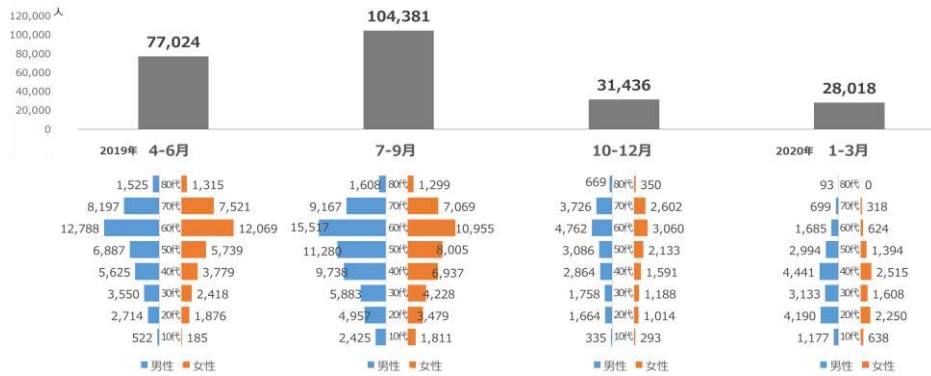


図5 四半期別国内利用者数（総数、性・年代別）_尾瀬国立公園_2019（令和元）年度

注：位置情報ビッグデータを用いた国内利用者数国立公園区域にかかる1 kmメッシュを合算したエリアを対象としているため、冬期の尾瀬利用ではなく、近隣のスキー場利用を反映していると思われる。

出典：令和2年度 国立公園満喫プロジェクト推進業務（環境省）より作成

表2 居住地別国内利用者数_尾瀬国立公園_2019（令和元）年度

	2019年			2020年	計	都道府県		市区町村			
	4-6月	7-9月	10-12月	1-3月		利用者数(人)	構成比(%)	利用者数(人)	構成比(%)		
利用者数(人)	148	199	0	29	376	東京都	44,909	18.6	群馬県 前橋市	5,082	2.1
北海道	6,137	12,782	4,001	1,496	24,416	埼玉県	35,766	14.8	群馬県 高崎市	4,655	1.9
東北	54,032	75,561	23,479	25,387	178,459	群馬県	25,289	10.5	栃木県 宇都宮市	4,410	1.8
関東	7,201	9,345	2,390	538	19,474	神奈川県	24,392	10.1	福島県 会津若松市	3,509	1.5
中部	5,954	3,839	755	0	10,548	千葉県	20,046	8.3	福島県 郡山市	3,320	1.4
関西	1,513	1,308	0	0	2,821	福島県	18,909	7.9	東京都 世田谷区	3,118	1.3
中国・四国	1,274	838	123	0	2,235	栃木県	15,382	6.4	東京都 練馬区	2,957	1.2
九州・沖縄	0.2	0.2	0.0	0.1	0.2	茨城県	12,675	5.3	福島県 福島市	2,315	1.0
構成比(%)	8.0	12.2	12.7	5.3	10.1	新潟県	6,340	2.6	群馬県 沼田市	2,256	0.9
北海道	70.1	72.4	74.7	90.6	74.1	大阪府	4,176	1.7	東京都 板橋区	2,214	0.9
東北	9.3	9.0	7.6	1.9	8.1	愛知県	3,760	1.6	東京都 足立区	2,179	0.9
関東	7.7	3.7	2.4	0.0	4.4	静岡県	3,340	1.4	群馬県 伊勢崎市	2,145	0.9
中部	2.0	1.3	0.0	0.0	1.2	宮城県	3,124	1.3	東京都 大田区	2,109	0.9
関西	0.8	0.4	0.0	0.0	0.9	兵庫県	2,611	1.1	千葉県 船橋市	2,033	0.8
中国・四国	0.2	0.2	0.0	0.0	0.2	長野県	2,380	1.0	群馬県 太田市	1,982	0.8
九州・沖縄	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0						

注：不明を含むため、合計は100%にならない（左表）。

出典：令和2年度 国立公園満喫プロジェクト推進業務（環境省）より作成

●訪日外国人利用者数_2019（令和元）年度

- 訪日外国人利用者数は、尾瀬国立公園は、約0.1万人（参考値）です。

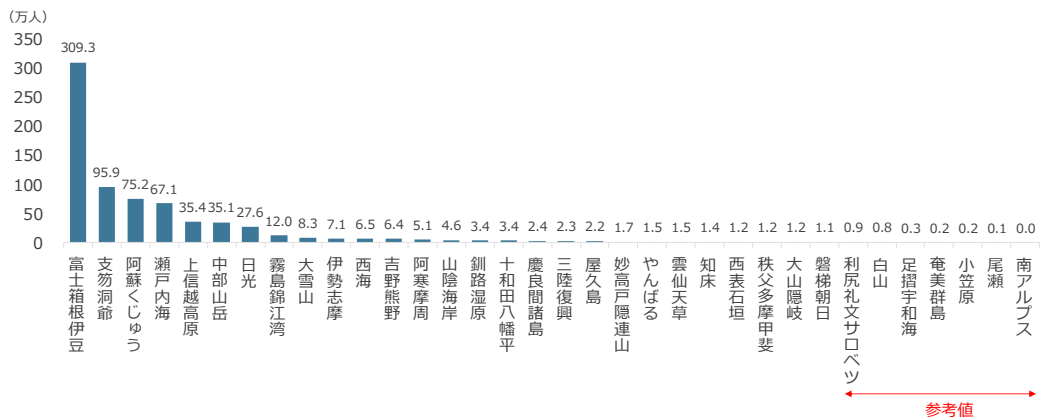


図6 国立公園の訪日外国人利用者数の推計（2019（令和元）年度）

出典：国立公園満喫プロジェクト第14回有識者会議資料（環境省）

●山小屋宿泊者数

- 山小屋宿泊者数は、昭和 50 年代から減少傾向が続いています。
- 入山者数に占める山小屋宿泊者数は、長年 20%前半で推移しています。

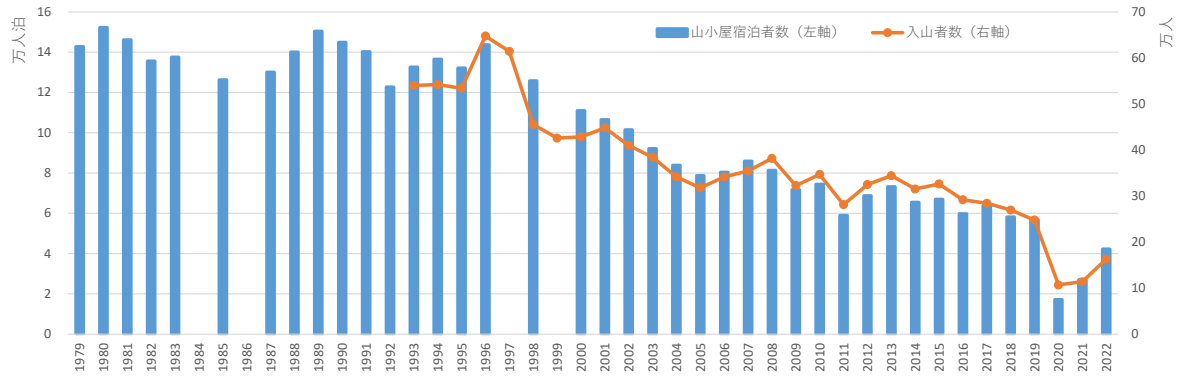


図 7 山小屋宿泊者数と入山者数

注：1979年～1988年/1990年～2000年は、一部データの欠損あり。1984年、1986年、1997年、1999年は欠損が多いため割愛。
1993年元湯山荘休業、2012年～物見小屋休業、2016年～富士見小屋・渋沢温泉小屋廃業
出典：環境省

●野営場利用者数

- 野営場利用者数は、2019（令和元）年までは増加傾向が続いていました。
- 2020（令和2）年は、野営場利用者数は、前年比約6割でした（入山者数は前年比約4割）が、2022（令和4）年は、9割まで回復しました。

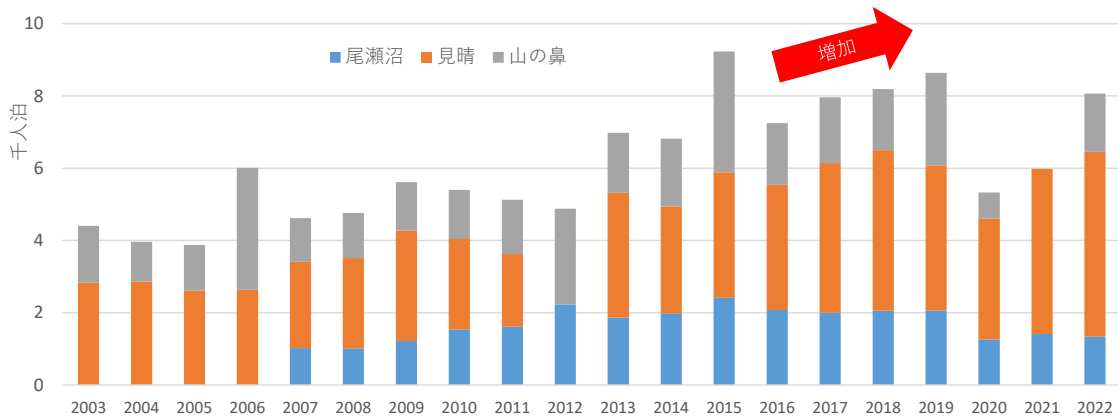


図 8 野営場利用者数

注：2003年～2006年尾瀬沼野営場休止、2012年見晴野営場休止、2021年山の鼻野営場休止。

出典：環境省

●尾瀬認定ガイド利用者数

- 尾瀬認定ガイド利用者数は、2013（平成 25）年以降増加傾向にありましたが、近年は頭打ちの状態です。

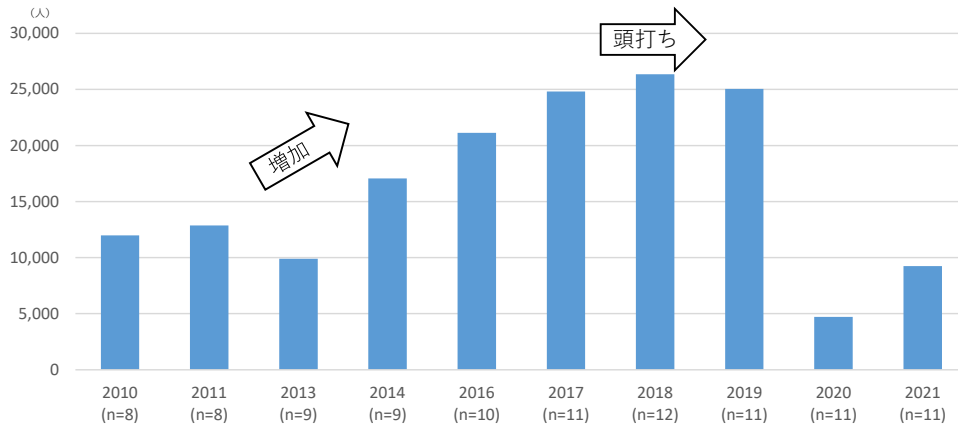


図9 ガイド実績人数

注：「n」は回答のあったガイド団体数。

出典：尾瀬ガイド協会

2) 利用者の属性

●来訪目的

- 尾瀬来訪の目的では風景鑑賞が最も多く、次いでトレッキング・ハイキングが多いです。

表3 来訪目的（入山口別、2022（令和4）年）(n=1525)

訪問目的	風景鑑賞	自然とのふれあい	動植物を観察する	トレッキング・ハイキング	登山	写真撮影	ゆったりのおんびりする	ストレスからの解放	挑戦	おいしいものを食べる	家族・友人との交流	ツアー	尾瀬関係者との交流	環境保全活動	環境学習	その他	なし	無回答	
鳩待峠 (N=686)	77%	57%	35%	72%	35%	30%	28%	33%	8%	7%	31%	8%	0%	2%	1%	2%	2%	0%	0%
大清水 (N=252)	77%	66%	36%	82%	24%	37%	32%	31%	5%	2%	29%	4%	0%	3%	0%	2%	3%	0%	1%
沼山峠 (N=268)	79%	66%	38%	79%	21%	37%	31%	31%	9%	7%	35%	10%	0%	1%	0%	1%	1%	0%	0%
御池 (N=166)	75%	56%	34%	63%	40%	36%	28%	33%	11%	8%	32%	1%	0%	2%	1%	1%	1%	0%	0%
滝沢 (N=67)	49%	45%	22%	36%	90%	24%	15%	19%	16%	7%	15%	0%	0%	0%	0%	0%	3%	0%	0%
猿倉 (N=49)	55%	51%	31%	45%	67%	22%	24%	24%	6%	6%	24%	0%	0%	2%	6%	2%	6%	0%	0%
馬坂峠 (N=9)	56%	33%	33%	44%	33%	11%	11%	22%	11%	0%	33%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
その他 (N=7)	71%	14%	0%	57%	29%	43%	29%	43%	14%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
無回答 (N=21)	57%	48%	29%	71%	33%	29%	33%	38%	5%	5%	29%	10%	0%	0%	0%	0%	5%	0%	0%
計 (N=1525)	75%	59%	34%	71%	35%	32%	29%	31%	9%	6%	30%	6%	0%	2%	1%	2%	2%	0%	0%

出典：環境省

●宿泊の有無

- ・ 「宿泊なし」は、主要な入山口（ここでは、鳩待峠、大清水、御池）では約3割、その他の入山口では4割以上を占めます。
- ・ 山小屋宿泊者の割合が最も高いのは、大清水（46%）で、鳩待峠（33%）、御池（33%）が次ぎます。

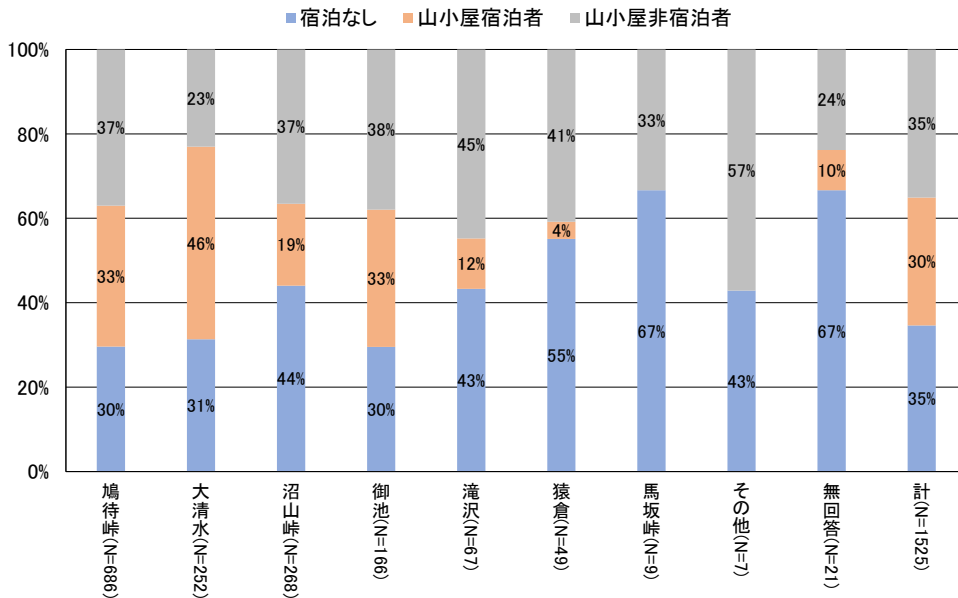


図 10 宿泊の有無（入山口別、令和4（2022）年）（n=1525）

出典：環境省

●1人あたり旅行消費額

- ・ 旅行全体の消費額の平均は18,040円、尾瀬内旅行消費額の平均は7,989円でした。
- ・ 費目別にみると、自然体験・アクティビティ費は80円、買い物・お土産代は921円と少ないです。

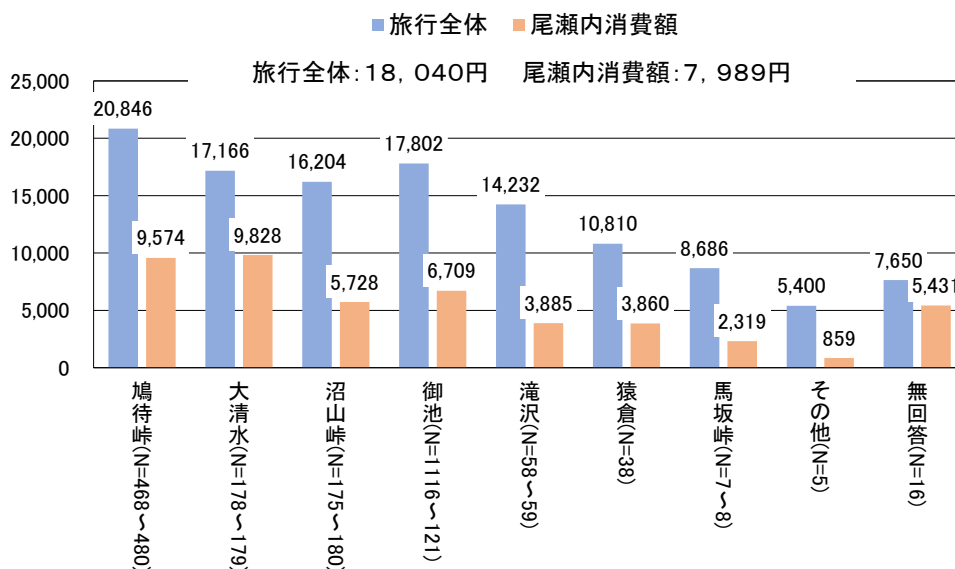


図 11 1人あたり旅行消費額（入山口別、2022（令和4）年）（n=1525）

出典：環境省

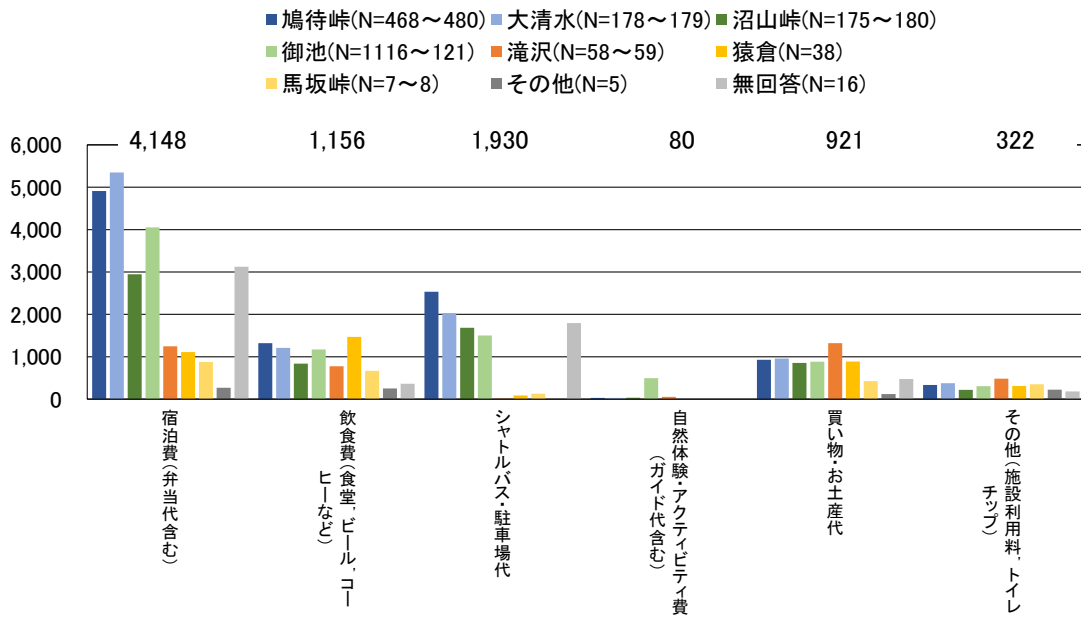


図 12 項目別 1 人あたりの尾瀬地域内旅行消費額（入山口別、2022（令和 4）年）(n=1525)

出典：環境省

●満足度

- 尾瀬の「滞在全体」の満足度は、6.34 でした。個別満足度は、「自然景観・雰囲気」が最も高く 6.60 でした。登山道・ベンチの整備が最も低く 5.19 ですが、いずれの項目も肯定的に評価されています。

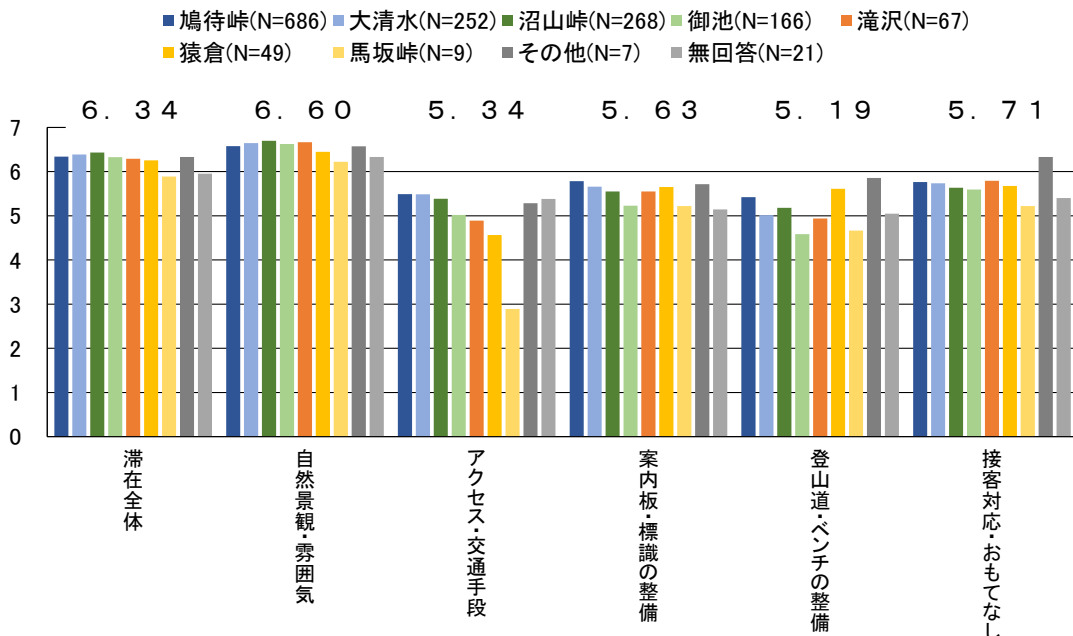


図 13 満足度（入山口別、2022（令和 4）年）(n=1525)

注：グラフ上の数字は各項目の平均値

出典：環境省

●満足理由と改善提案

- ・ 満足点の上位3つは、自然景観、木道・登山道の整備、トイレ整備でした。
- ・ 改善理提案の上位3つは、木道・登山道の整備、トイレの新設・開放、案内・標識でした。

表4 満足理由と改善提案（2022（令和4）年）（n=958）

満足点	具体的には	人	改善提案	具体的には	人
自然・景観	素晴らしい景観・景色、美しい など	142	木道・登山道の整備	福島県側、燧ヶ岳、至仏山、三平下 など	248
木道・登山道の整備	よく整備されている、感謝 など	104	トイレの新設・開放	トイレを増やして欲しい、開いていなかった など	51
トイレ整備	きれい、あつてよかった など	45	案内・標識	案内板更新、目的地までの距離 など	46
管理・保全活動	よく守られている、感謝 など	31	利用者のマナー	登山マナー、禁煙希望、ゴミ多い など	42
おもてなし	山小屋、スタッフ、運転手 など	28	その他	土産不足、ガスコンロ使用可能場所不足、アブ、クマ など	35
宿泊・滞在	山小屋、ビジターセンター など	26	アクセス・道路整備	尾瀬遠い、林道の舗装 など	32
全て・満足	とても満足、最高、素晴らしい など	26	情報発信	啓発強化、情報取得の不便さ など	30
天候	天気に恵まれた など	23	その他施設・設備	登山口等施設、山小屋の設備 など	29
バス・タクシー	頻度、乗り換えスムーズ など	15	バス・タクシー	密、運転荒い、頻度、最終時間 など	27
利用者のマナー	ごみが少ない、マナーがいい など	15	休憩施設	ベンチを増やして欲しい など	27
その他	人少ない、救助活動 など	12	費用高額	シャトルバス代、駐車場代 など	25
ガイド・ビジターセンター	ガイドツアー、VCイベント など	10	自然資源を享受できなかった	ニホンジカによる食害、花の減少 など	16
情報発信	ビジターセンターブログ など	3	おもてなし	山小屋、運転手の対応 など	11
登山・ハイキング	ハイキングできて満足 など	2	電波状況	圏外、キャリア拡大 など	10
			行きすぎた開発	環境整いすぎ、観光地化 など	4

出典：環境省

●再来訪意向

- ・ 再来訪意向は、6.47 と高いです。

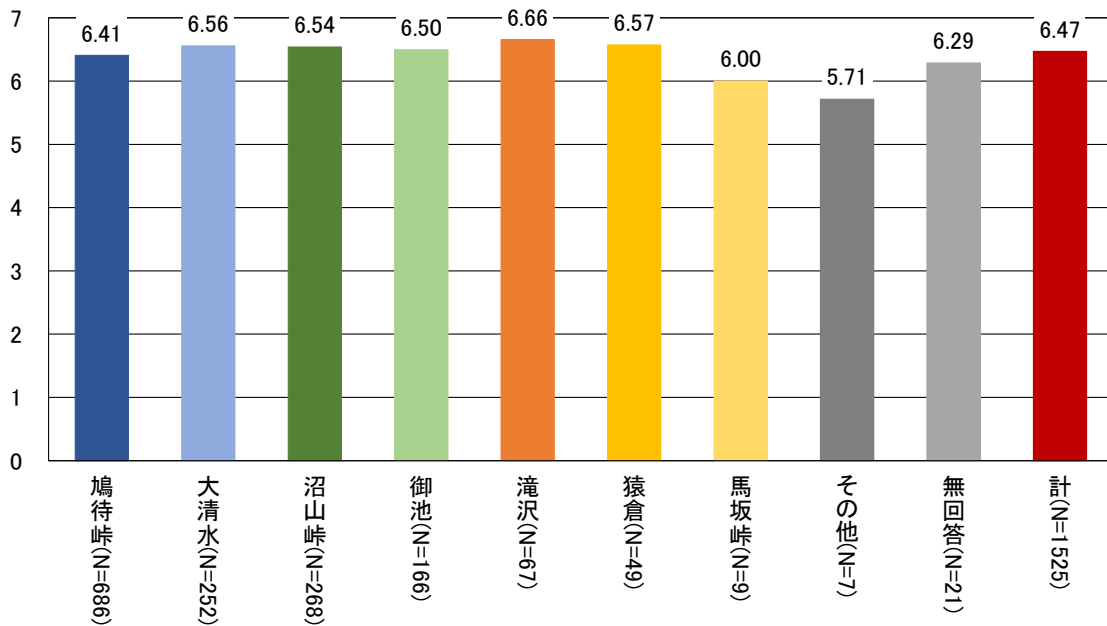


図14 再来訪意向（入山口別、2022（令和4）年）（n=1525）

出典：環境省

●リピート率

- 過去のアンケート調査から、尾瀬の訪問回数をまとめると、2回目以上の訪問者は70%前後で推移しています。訪問回数が6回以上の利用者が20%台で推移しています。

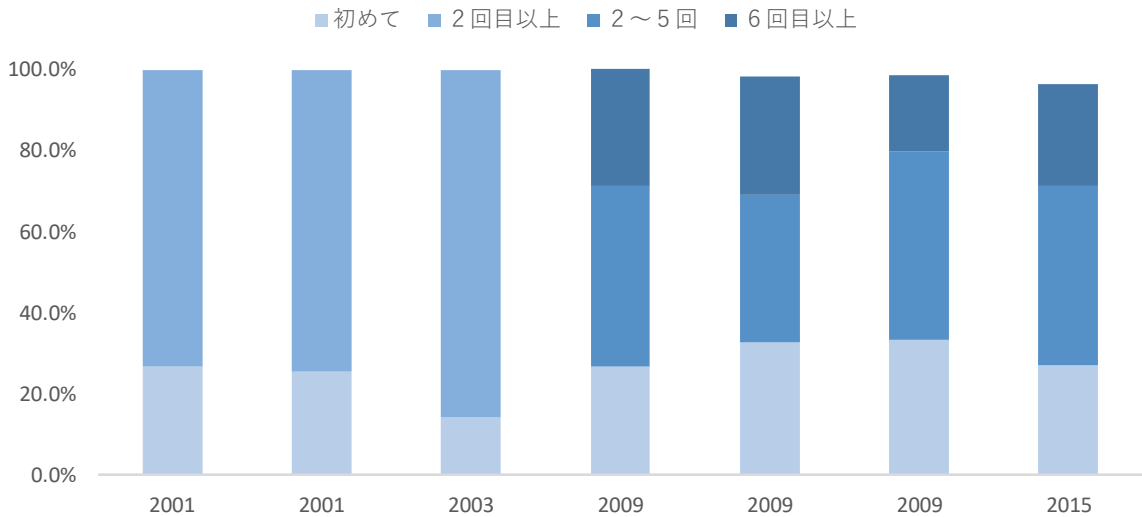


図15 リピート率

注：2003年以前のアンケート設問では、訪問回数の区切りが不統一であり、「2回目以上」としてまとめています。

出典：環境省

●情報源・決め手となった情報源

- 情報源として「以前来訪した際の自身の経験」が他の項目に比べて非常に高く、65%でした。
- 決め手となった情報源としては、「以前来訪した際の自身の経験」が他の項目に比べて非常に高く（45%前後）、「家族が友人知人からの紹介・推奨」が次ぎます。

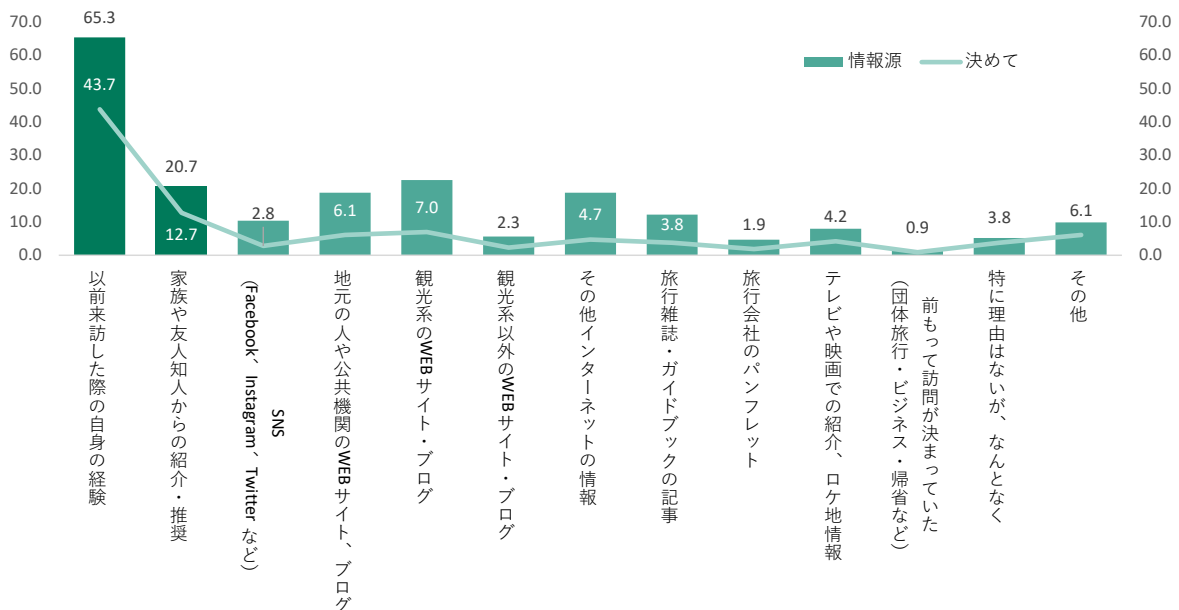


図16 情報源・決め手となった情報源

出典：環境省

●尾瀬保全活動に対する関心・理解・参加意欲の変化度

- ・ 関心・理解・参加意欲のうち、関心の変化度が最も高く 5.74、参加意欲の変化度が最も低く 5.39 でした。

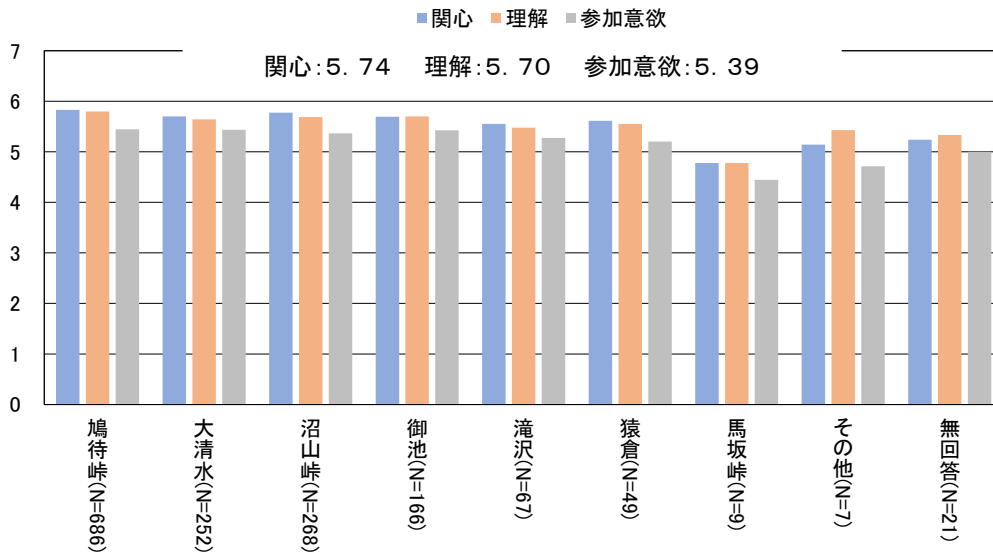


図 17 尾瀬保全活動に対する関心・理解・参加意欲の変化度
(入山口別、2022 (令和 4) 年) (n=1525)

出典：環境省

●尾瀬保全活動に対する関心・理解・参加意欲の変化のきっかけ

- ・ 変化のきっかけとしては、「素晴らしい自然を体感して」が 78% で最も多く、次いで「尾瀬をまもる取組を見て」が多いです。

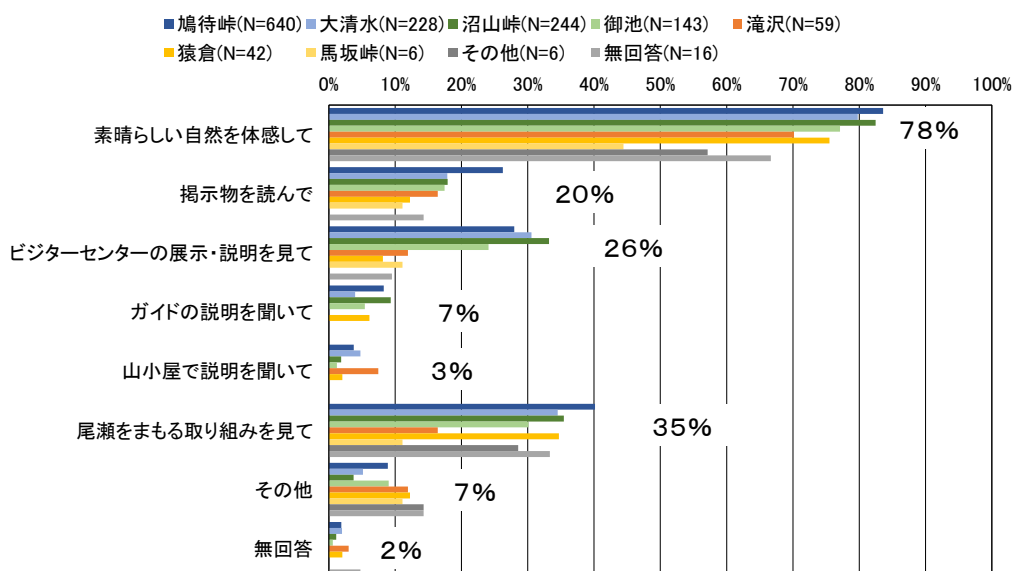


図 18 尾瀬保全活動に対する関心・理解・参加意欲の変化のきっかけ
(入山口別、2022 (令和 4) 年) (n=1525)

出典：環境省

3) 認知度・来訪経験率・来訪意向・利用に関するイメージ

●認知度

- 尾瀬の認知度は、70.8%です。年代別には、40代未満と40代以上で差があり、40代以上は7割以上の認知度、40代未満は、5割以下の認知度となっています。
- 居住地別では、関東が最も高く認知度は84.4%です。

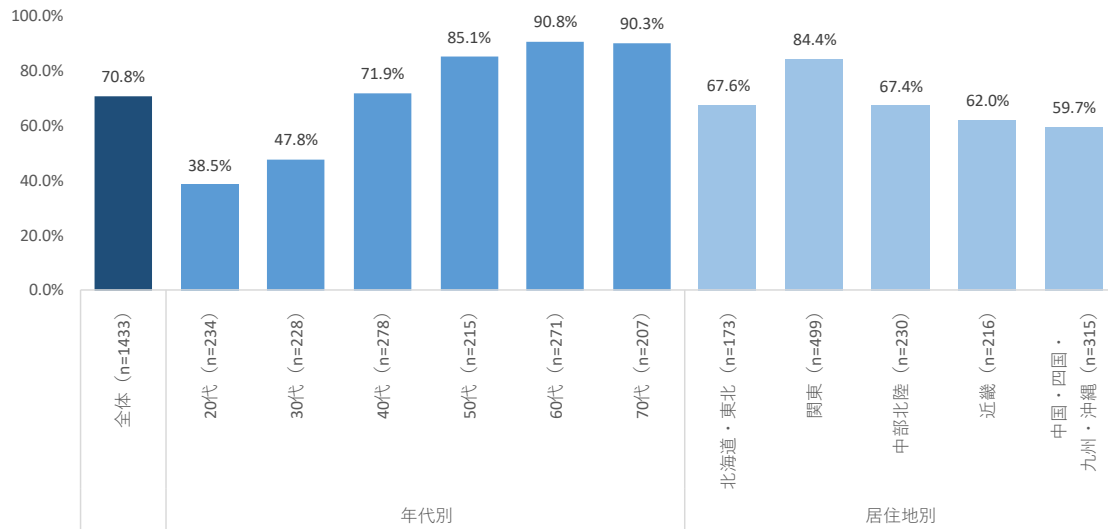


図 19 尾瀬の認知度 (2021 (令和3) 年) (n=1433)

注：上記では、無回答を除いて集計している。20代には18,19歳を含む。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021 (5月) 調査」(公財) 日本交通公社

●来訪経験率

- 尾瀬の来訪経験率は、18.8%、年代別には、年代が上がるほど来訪経験率も高くなっています。居住地別には、関東が最も高く32.5%が尾瀬に来訪しています。

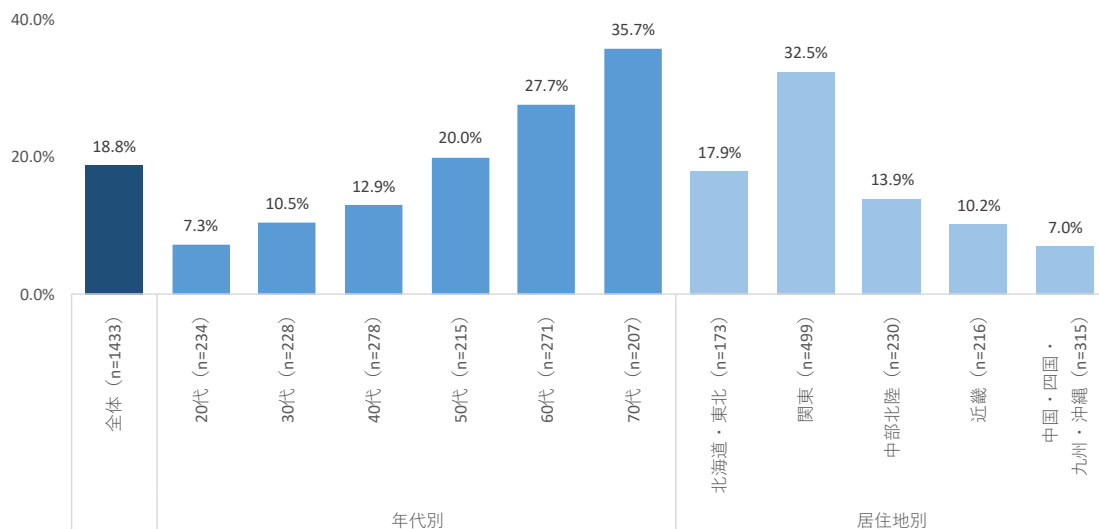


図 20 尾瀬の来訪経験率 (2021 (令和3) 年) (n=1433)

注：上記では、無回答を除いて集計している。20代には18,19歳を含む。

認知と経験に関する設問では、3つの選択肢「(1)知らない」「(2)行ったことはないが知っている」「(3)行ったことがある」を提示。ここでは、(3)の回答数が全回答数に占める割合を「来訪経験率」としている。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021 (5月) 調査」(公財) 日本交通公社

●来訪意向

- 尾瀬への来訪意向について、「行きたい（「ぜひ行きたい」＋「行きたい」の合計）」は70.6%です。

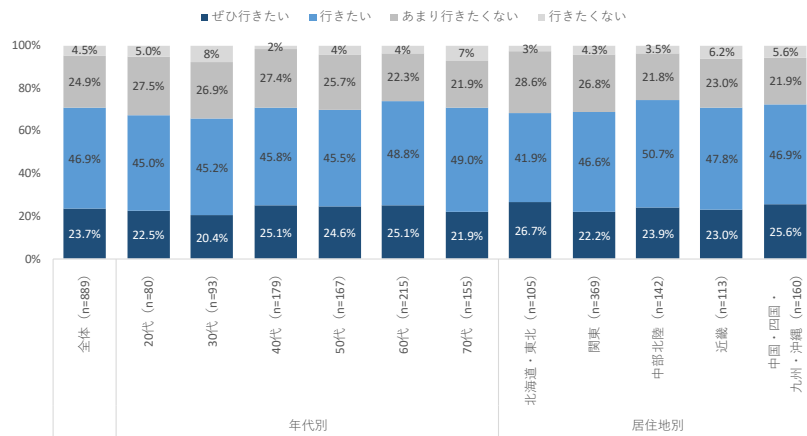


図 21 尾瀬の再来訪意向（2021（令和3）年）（n=889）

注：上記では、無回答を除いて集計している。20代には18,19歳を含む。

今後の希望に関する設問では、4つの選択肢「(1)ぜひ行きたい」「(2)行きたい」「(3)あまり行きたくない」「(4)行きたくない」を提示。回答者は、尾瀬を認知している人。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021（5月）調査」（公財）日本交通公社

●利用に関するイメージ

- 尾瀬の「過ごし方」イメージについては、訪問経験の有無に関わらず、上位3つ（「動植物の観察が楽しめる」「トレッキングが楽しめる」「写真撮影が楽しめる」）は同じですが、その選択率には10%以上の差があります。一方、「のんびりゆっくり滞在できる」については、訪問経験のある人、ない人、ともに約25%の選択率でした。
- 尾瀬の「情報案内、施設、サービス」のイメージについては、訪問経験の有無に関わらず、「木道・歩道が充実している」の選択率が最も高くなっています。それ以外の項目については、訪問経験がある人においても選択率が低くなっています。
- 尾瀬の「利用者」イメージについては、訪問経験の有無に関わらず、上位2つ（「高齢者（概ね60歳以上）が充実した時間を過ごせる」、「大人（概ね40～50代）が充実した時間が過ごせる」（「いずれもあてはまらない／特にイメージはない」は除く）は同じでした。

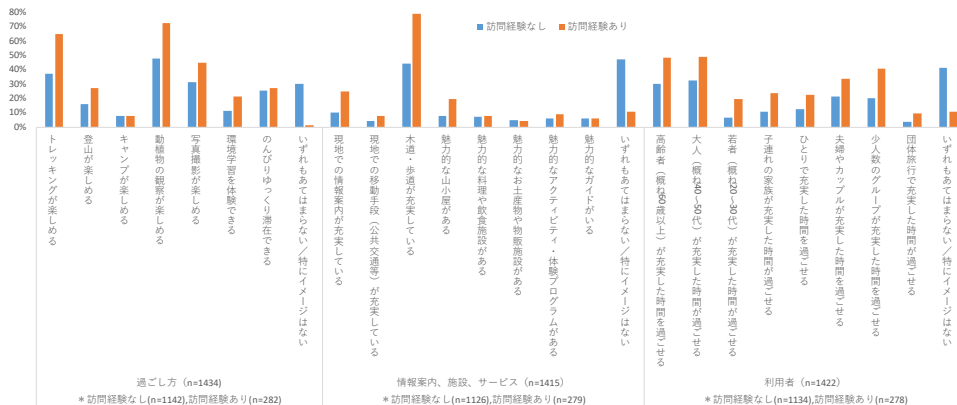


図 22 尾瀬の利用に関するイメージ（2021（令和3）年）

注：「過ごし方」「情報案内、施設、サービス」「利用者」、それぞれの結果を一つのグラフに集約。無回答を除いて集計。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021（12月）調査」（公財）日本交通公社

4) 他の山岳地の状況－上高地

●関心度

- ・ 尾瀬は、上高地と比べてウェブ検索が減少傾向にあります。

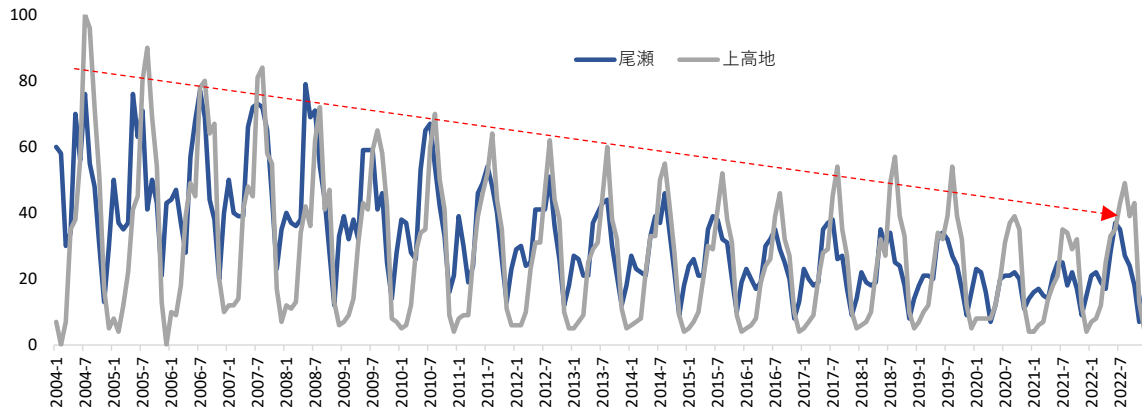


図 23 Google Trends における「尾瀬」「上高地」ウェブ検索関心度推移（カテゴリ「旅行」）

注：Google Trends の定義：データ期間（2004 年（平成 16）4 月～2022（令和 4）年 12 月）のうち、最も検索の多かったキーワード（ここでは「上高地」）・期間（ここでは 2004（平成 16）年 7 月）を「100」とした時に、相対的な変化を示したもの。「検索されている」⇔「興味・関心を持たれている」とし、「関心度」と表現。

●認知度・来訪経験率・来訪意向

- ・ 認知度、来訪経験率、来訪意向のいずれも、上高地が尾瀬より高いです。
- ・ 特に、来訪経験率については、上高地は 34.6%ですが、尾瀬は 18.8%と 15.8%も低いです。

表 5 上高地と尾瀬の認知度・来訪経験率・来訪意向（2021（令和 3）年）

	尾瀬		上高地	
	n	%	n	%
【認知度】 (=1+2の合計)	1015	70.8%	1129	78.7%
【来訪経験率】 (=1)	269	18.8%	496	34.6%
全体	1433	100.0%	1434	100.0%
1.行ったことがある	269	18.8%	496	34.6%
2.行ったことはないが知っている	746	52.1%	633	44.1%
3.知らない	418	29.2%	305	21.3%
【来訪意向】 (=1+2の合計)	628	70.6%	747	76.1%
全体	889	100.0%	981	100.0%
1.ぜひ行きたい	211	23.7%	284	29.0%
2.行きたい	417	46.9%	463	47.2%
3.あまり行きたくない	221	24.9%	206	21.0%
4.行きたくない	40	4.5%	28	2.9%

注：上記では、無回答は除いて集計している。

出典：「JTBF 旅行意識調査 2021（5 月）調査」（公財）日本交通公社

（3）尾瀬の利用における課題

- ・ 以上の現状分析を踏まえて、尾瀬の利用における主要な課題は以下の7つです。

課題1. 各利用者層のニーズに応じた細やかな対応

- ・ 尾瀬は、受け入れることができる利用者層の幅広さが強みですが、若年層の利用者の減少に伴う高齢化が見られます。
- ・ リピート率に大きな変動はないものの、入山者数（絶対数）が新型コロナウイルスの影響もあり大幅に落ち込んでいる状況下においては、利用者の再来訪を促すとともに、将来のリピーターとなるビギナーも確保しておくことが必要となります。
- ・ 今後は、引き続き幅広い利用者層を意識するとともに、利用者層毎のニーズ等を意識して、それぞれに対してより細やかな対応する必要があります。

課題2. 利用者の動線に応じた観光・サービスの提供

- ・ 尾瀬国立公園は、自家用車から公共交通に乗り換え入山するなど、自然環境が守られている国立公園であることを利用者が意識できる公園であり、その自然環境を存分に享受できる公園です。
- ・ しかし、利用者が求めている、交通アクセスに関する情報や各地区での情報・サービスの提供などは十分ではありません。
- ・ 今後は、利用者の動線を意識し、それぞれの場面（入山前、入山中、入山後）や、それぞれの場面の連動を意識した環境づくりや利用サービスの提供が必要となります。そのためには、各地区の受入事業者が連携するための恒常的な体制整備も必要となります。

課題3. 尾瀬ならではの魅力を体感・体験できる仕組み・プログラムの拡充

- ・ 尾瀬には、複数の登山口やルート、利用拠点が存在することから、利用者は、周遊利用や滞在利用することで尾瀬の多様な魅力を体感・体験できるとともに、自身の関心、体力等に合わせて多様な楽しみ方を選択できることも特徴です。
- ・ また、尾瀬は、宿泊することで、朝もや、白い虹、夕焼け、星空、ホテルが飛ぶ情景など、宿泊利用者のみが体感・体験できる特別な魅力も有しています。さらに尾瀬は、歴史・伝統・文化の魅力も有しており、多様な楽しみ方を伝えるプログラムづくりが近年進められています。
- ・ 今後は、尾瀬ならではの魅力を体感・体験できる周遊利用や滞在利用の促進、そして、より体験を奥深いものとするプログラムの拡充、そして、それらを提供する受入事業者の連携強化、仕組みの確立を進めていく必要があります。

課題4. 尾瀬の魅力を訴求するプロモーションの強化

- ・ 雄大で豊かな自然が残る尾瀬は、見る人に美しさや心地よさ、くつろぎを感じさせてくれるなどの価値を有しており、現状、首都圏をはじめ全国から利用者が来訪しているものの、国内旅行市場全体では、尾瀬の認知度、来訪経験率、再来訪意向のいずれもが低下傾向にあり、尾瀬の普遍的価値を知る人自体が少なくなっています。
- ・ また、尾瀬には、3つのアプローチ（3県からのアプローチ、3つの最寄り駅、3つの移動手段（自家用車・バス・遊覧船））、2つのゲートタウン（片品村・檜枝岐村）、6つの主

な入山口や様々な登山道、さらに宿泊・立ち寄り利用できる複数の山小屋や2つのビジター、利用施設が集積する複数の地区があります。

- ・ しかし、現状では、尾瀬全体としての魅力の発信が十分ではなく、また、それぞれの持つ個性、特徴など尾瀬が有する多様な利用の魅力をも十分に伝えられていない状況にあります。
- ・ 今後は、尾瀬全体の魅力を構成するこれらの個性化をさらに進め、特徴をより明確にしていくことで、尾瀬の魅力の本質を訴求するプロモーション強化が必要となります。

課題5. 利用から保全につなげるプログラム・仕組みの充実

- ・ 利用者に感動を与える尾瀬の自然環境は、尾瀬に関わる人々の協力と努力によってこれまで守られてきました。自然保護運動やごみ持ち帰り運動は、尾瀬の代名詞の一つにもなっています。また利用者も、尾瀬の自然環境が良好に保たれている状態を望んで来訪しています。
- ・ しかし、自然保護に関わる人々（担い手）や自然の素晴らしさを伝える人材の不足や高齢化が進んでいます。また、利用者からは保全活動に協力したいが、どのように協力したら良いか分からないという意見などが聞かれています。
- ・ 今後は、かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、次代に引き継いでいくために、利用者が保全活動に関わるプログラムや仕組みを充実させていく必要があります。

課題6 尾瀬に愛着や誇りを持てるような機会の提供

- ・ 尾瀬の自然環境の保全や、持続可能な利用環境を維持していくためには、尾瀬を知り、体験する機会を充実させることで、尾瀬に対する理解を深め、愛着や誇りを醸成することが求められます。
- ・ 地元では小さいころから環境学習などで尾瀬に触れる機会がありますが、大人になってからは、尾瀬について学んだり触れたりする機会や、外（利用者）の目線を通じて尾瀬の価値を見なおし、再認識する機会などは十分ではありません。
- ・ 今後は、地元の方々が尾瀬を知り、尾瀬の環境保全活動も含めて体験し、愛着を持ってもらうとともに、自分自身が関わって尾瀬を良くしていこうという誇りを持てるような機会を提供していくことが必要になります。

課題7 尾瀬を成立させている寒冷な自然環境の持続

- ・ 尾瀬の自然環境は、気温が低く湿度が高い寒冷な環境下で成り立っています。高層湿原は、枯れた植物が分解されず泥炭として積もり広がったものです。
- ・ 多雪・寒冷な環境下で成立した生態系は、気候変動の影響を大きく受けると考えられています。また、大雨に伴う湿原への土砂の流入は、湿原の荒廃を促進させるだけでなく、登山道の荒廃やアクセスルートの遮断につながるおそれもあります。
- ・ 今後も尾瀬を成立させている寒冷な自然環境を持続していくためには、地球規模の課題である気候変動を尾瀬の存続に関わる問題として再認識し、利用者の理解、協力も得ながら、脱炭素や環境保全に配慮した循環型社会の形成に関わる取組を積極的に行うことが求められます。

4. 利用 AP の戦略

- ・ 利用 AP は、利用 AP のコンセプト及び利用における課題を踏まえて、尾瀬の利用形態である楽しむ活動と守る活動の相乗効果を図る戦略を掲げます。戦略の具体化に向けて、尾瀬の利用者を3つ（ビギナー、リピーター、ファン*）に分け、各利用者層の充実を図ります。
- ・ 尾瀬の利用者は、利用回数や尾瀬とのかかわり方によって以下のように分けられます。
 - **ビギナー** : 尾瀬利用回数 1 回
 - **リピーター** : 尾瀬利用回数 2 回以上
 - **ファン** : 守る活動への参加
- ・ 各利用者層の充実を図るための戦略ごとの目標は、以下の通りです。
 - **ビギナー戦略** : 尾瀬を認知し、実際に訪問してくれる人を増やす
 - **リピーター戦略** : 尾瀬ビギナーを再訪につなげる
 - **ファン戦略** : 尾瀬を想う人を増やし、尾瀬の守り手に巻き込む
- ・ 取組（プログラム）（後述）は、各利用者層に応じて実施され、潜在利用者も含めて尾瀬の利用者の楽しむ活動の質を向上させるとともに、守る活動への参加の促進するための行動を指します。
- ・ 以上を踏まえて、利用 AP の戦略を「尾瀬ファンベース戦略」と名付けます。

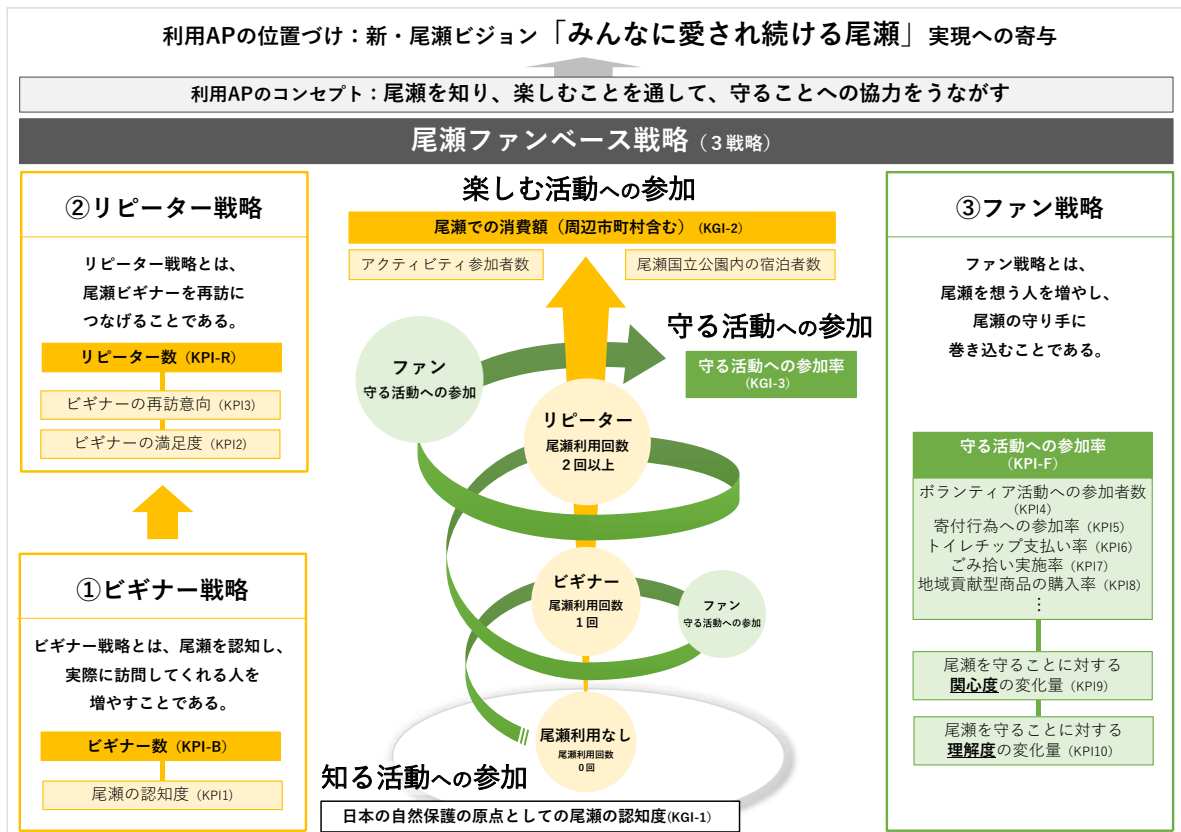


図 24 尾瀬ファンベース戦略の全体イメージ

5. 指標設定

- 利用 AP では、尾瀬ファンベース戦略の目標の達成状況と取組（プログラム）の成果を把握するために以下の指標を設定します。

表 6 指標

把握区分	指標	測定調査
● 尾瀬ファンベース戦略全体		
尾瀬の認知度の把握	KGI-1	日本の自然保護の原点としての尾瀬の認知度 利用状況調査（日本の自然保護の原点として尾瀬を認知している人の割合）
尾瀬旅行消費額の把握	KGI-2	尾瀬での消費額（周辺市町村含む） 利用状況調査（尾瀬での消費額）
		アクティビティ参加者数（VCのプログラム参加者数、尾瀬ガイド協会ツアー参加者数） 尾瀬ガイド協会アンケート、VC活動報告書
		尾瀬国立公園内の宿泊者数（山小屋、キャンプ場） 事業施設利用者数報告書
尾瀬を守る活動への参加状況の把握	KGI-3	守る活動への参加率 利用状況調査（尾瀬を守る活動のうち一つ以上に参加した人数（割合））
● 戦略別		
ビギナー戦略の動向把握	KPI-B	ビギナーの数 利用状況調査（来訪回数初めての人数）
		日本の自然保護の原点としての尾瀬の認知度 利用状況調査（日本の自然保護の原点として尾瀬を認知している人の割合）
リピーター戦略の動向把握	KPI-R	リピーター数 利用状況調査（来訪回数2回以上の人数）
		ビギナーの再訪意向 利用状況調査（来訪回数初めての人の再訪意向）
		ビギナーの満足度 利用状況調査（来訪回数初めての人の満足度）
ファン戦略の動向把握	KPI-F	守る活動への参加率 利用状況調査（尾瀬を守る活動のうち一つ以上に参加した人数（割合））
		ボランティア活動への参加者数 ボランティア活動を主催している自治体や団体への照会を主とした情報収集
		寄付行為への参加率 利用状況調査（活動に参加した人数（割合））
		トイレチップ支払い率 利用状況調査（活動に参加した人数（割合））
		ごみ拾い実施率 利用状況調査（活動に参加した人数（割合））
		地域貢献型商品の購入率 利用状況調査（活動に参加した人数（割合））
		・・・ ・・・
	尾瀬を守ることに 対する関心度の変化量 利用状況調査（これまでの尾瀬での体験によって、その自然環境と景観を維持したい気持ちにどれだけ変化があったか）	
	尾瀬を守ることに 対する理解度の変化量 利用状況調査（これまでの尾瀬での体験によって、その自然環境と景観を維持するのに必要な事への理解がどれだけ深まったか）	

- ・ なお、2021（令和3）年度の利用 AP（素案）で設定した各指標の測定結果は以下の通りです。

表7 （参考）各指標（KPI）の測定結果（2022（令和3）年）

把握区分	指標(KPI)		測定結果
ビギナー戦略の 動向把握	指標1	ビギナーの数	R4:28.2%→46,029人 R3:26.8%→30,497人
リピーター戦略の 動向把握	指標2	ビギナーの満足度	R4:滞在全体 6.34 R3:滞在全体 6.32
	指標3	ビギナーの再訪意向	R4:6.35 R3:6.32
ファン戦略の 動向把握	指標4	尾瀬を守ることに 関心度の変化量	全体平均:5.75 日帰り平均:5.65 宿泊平均:5.80
	指標5	尾瀬を守ることに 理解度の変化量	全体平均:5.71 日帰り平均:5.61 宿泊平均:5.76
	指標6	ボランティア活動への 参加者数	386人(個人・企業含む)
尾瀬旅行消費額の 把握 (ステージ共通)	指標7	尾瀬での消費額 (周辺市町村含む)	全体平均:7,989円 日帰り平均:3,941円 宿泊平均:10,455円
尾瀬国立公園内 滞在時間の把握 (ステージ共通)	指標8	アクティビティ参加者数 (VCのプログラム参加者 数、尾瀬ガイド協会ツア ー参加者数)	①VCプログラム 沼VC 1,634名(昨対241%) 山VC 1,007名(昨対1,481%) ②尾瀬ガイド協会ツア ー9,237名(R3実績)(R2対196%) ※R4実績はR5年4月調査予定
	指標9	尾瀬国立公園内の宿泊 者数 (山小屋、キャンプ場)	山小屋 42,281人泊(昨対157%) キャンプ場 8,068人泊(昨対135%)

*：指標2～5の評価点は7点満点中のポイント数

6. 取組（プログラム）の実施

- ・ 3. 現状分析（3）尾瀬の利用における課題をもとに、本章では具体的な取組を6種類の取組（プログラム）として作成しました。
- ・ 各取組の目的と内容は、下記の通りです。

（1）魅力向上プログラム

- ・ 尾瀬の豊かな自然環境の中で美しさや心地よさ、くつろぎを感じられるよう、情報案内機能の向上や滞在空間の上質化を進めます。

（2）滞在・周遊促進プログラム

- ・ 尾瀬ならではの魅力を体感・体験できるよう、周遊利用や滞在利用を促進するとともに、より本質的な価値に触れられるよう、奥深い体験ができるプログラムの充実を図ります。

（3）魅力的プロモーション実施プログラム

- ・ 尾瀬の普遍的価値を広く発信するために、PR手段等の改善を図りながら、尾瀬全体の魅力や各施設の個性、特徴を発信するプロモーションを実施します。

（4）尾瀬ファン創出プログラム

- ・ 尾瀬を愛する輪を広げ、尾瀬を次代に引き継ぐために、尾瀬ファンとの交流の場づくりや尾瀬の守る活動に参加する仕組みづくりを行います。

（5）シビックプライド形成プログラム

- ・ 地元の方々の尾瀬に対する愛着を醸成し、自身関わって尾瀬を良くしていこうという誇りを持てるよう、尾瀬を知り、体験できる機会、場を提供します。

（6）脱炭素・循環型公園プログラム

- ・ 尾瀬を成立させている寒冷な自然環境を持続していくために、脱炭素や環境保全に配慮した循環型公園の形成に資する取組を行います。

- ・ 上記に基づき、現在実施している取組、そして、今後実施予定の取組（直近1～2か年[2023年、2024年]）として次の51の取組が挙がっています（**継続、新規の合計**）。

表8 取組一覧表（現在実施中の取組、2023-2024年度に実施予定の取組）

(1) 魅力向上プログラム

No.	テーマ	取組名称	実施主体	状況
1	情報案内機能の向上	尾瀬環境学習支援セルフガイドの活用	(公財)尾瀬保護財団	継続
2		尾瀬ハイキングガイドの頒布	(公財)尾瀬保護財団	継続
3		尾瀬パンフレットの作成・配布	環境省	継続
4	誘導標識・解説標識等の整備・更新	尾瀬ルート沿線地域活性化事業	尾瀬ルート活性化委員会	継続
5		魚沼から行く尾瀬ルート国道352号道標整備事業	新潟県魚沼地域振興局	完了
6		魚沼から行く尾瀬ルート国道352号洗い越し改築事業	新潟県魚沼地域振興局	継続
7		誘導標識の作成・設置	環境省	完了
8		解説標識の作成・設置	環境省	継続
9	滞在空間の上質化	鳩待峠の施設改築における外観整備	東京パワーテクノロジー株式会社、環境事業部 尾瀬林業事業所	継続
10		鳩待峠の外構における植栽整備	東京パワーテクノロジー株式会社、環境事業部 尾瀬林業事業所	継続
11		鳩待峠の公衆無線LAN環境整備	東京パワーテクノロジー株式会社、環境事業部 尾瀬林業事業所	継続
12		国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業	片品村	継続
13		尾瀬設備クオリティアップ事業	群馬県	継続
14	保全活動の強化	ニホンジカによる植生被害対策	環境省	継続

(2) 周遊・滞在促進プログラム

No.	テーマ	取組名称	実施主体	状況
1	モデルコース・プラン等の作成	シャトルタクシープラン（最寄り駅から登山口までの送迎）	みなみあいづ観光（株式会社みなみあいづ）	継続
2		会津と上州を結ぶ歴史の道「会津沼田街道」滞在型利用促進事業	檜枝岐村	継続
3		尾瀬国立公園のモデルコースと体験アクティビティの紹介	環境省	継続
13		滞在・周遊利用促進パンフレット	環境省	新規
14		尾瀬ガイドダンの開催	環境省	新規
4	山小屋の魅力向上	宿泊者に対するスライドショー	尾瀬山小屋	継続
5		客室の改修	尾瀬沼ヒュッテ	継続
6		B&Bスタイルの宿泊施設へと転換	尾瀬御池ロッジ	継続
7		食事の充実と部屋の個室利用	山の鼻小屋	継続
8	体験アクティビティの利用促進	片品村内でe-bikeツアー	NPO法人片品・山と森の学校	継続
9		星空観察会の定期開催	(公財)尾瀬保護財団	継続
10		尾瀬国立公園のナイトタイムコンテンツ充実	環境省	継続
11	交流イベントの開催	山・音楽・食・地元文化をミックスしたイベントの開催	尾瀬小屋	継続
12		アウトドア好きな人々の交流創出	尾瀬小屋	継続

(3) 魅力的プロモーション実施プログラム

No.	テーマ	取組名称	実施主体	状況
1	尾瀬のイメージの発信	グルメを通じた国立公園の魅力発信	尾瀬小屋	継続
2		片品・檜枝岐・魚沼・南会津共同の登山口でのPR活動事業	一般社団法人片品村観光協会	協議中
3		Instagramキャンペーン（フォトコンテスト）	(公財)尾瀬保護財団	未定
4		スタートアップふくしま尾瀬事業（情報発信事業）	福島県	継続
5		ふくしま尾瀬魅力発信強化事業	福島県	完了予定
6		尾瀬国立公園のフォトスポット紹介	環境省	継続
16		尾瀬国立公園ブランドデザイン（仮称）	環境省	新規
7	Webページ、SNSの活用	SNSを活用した魅力発信	尾瀬小屋	継続
8		南会津町観光物産協会SNSアカウントでの情報発信及び近隣施設への情報発信	南会津町観光物産協会（館岩支部）	継続
9		個人客獲得のためのWebページの改善	NPO法人片品・山と森の学校	完了予定
10		Instagram（尾瀬公式アカウント）の活用	(公財)尾瀬保護財団	継続
11		片品村むらづくり観光課公式YouTube動画配信	片品村	継続
12	外部企業・人材との連携によるPR	ポストコロナインバウンド誘客事業	一般社団法人片品村観光協会	継続
13		人気YouTuberと連携した尾瀬の魅力広報	(公財)尾瀬保護財団	継続
14		モンベル会員雑誌 フレンドエリアの登録	片品村	協議中
15		著名人とのタイアップによるプロモーション	環境省	完了
17		尾瀬歩荷の魅力発信事業	尾瀬小屋	新規
18		サッカー業界への尾瀬の発信	尾瀬小屋	新規

表8 取組一覧表（現在実施中の取組、2023-2024年度に実施予定の取組）〔続き〕

(4) 尾瀬ファン創出プログラム

No.	テーマ	取組名称	実施主体	状況
1	環境保全に資する行動の普及・啓発	至仏山の登山マナー啓発	至仏山保全対策会議	継続
2		財団HPでの情報提供及び電話での問い合わせ対応	(公財)尾瀬保護財団	継続
3	ボランティア活動の充実	尾瀬ボランティア活動支援	(公財)尾瀬保護財団	継続
4		企業ボランティア活動支援	(公財)尾瀬保護財団	継続
5	尾瀬ファンとの交流	尾瀬ファンとの交流会	環境省	完了

(5) シビックプライド形成プログラム

No.	テーマ	取組名称	実施主体	状況
1	尾瀬での共同作業の実施	移入植物の駆除（オオハングソウ、ハルザキヤマガラシ）	(公財)尾瀬保護財団	継続
2	尾瀬を学ぶ場の機会の充実	子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動	尾瀬小屋	継続
3		「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進事業	「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会	完了
4		尾瀬ネイチャーガイド養成事業	「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会	継続
5		尾瀬サステナブルプラン（尾瀬シーズンスクール・尾瀬ネイチャーラーニング）	群馬県	継続
6		尾瀬環境学習推進	群馬県	継続
7		ふくしま子ども自然環境学習推進事業	尾瀬環境学習推進協議会事務局 (檜枝岐村)	新規

(6) 脱炭素・循環型公園プログラム

No.	テーマ	取組名称	実施主体	状況
1	ゼロカーボン実現に向けた取組	「尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク」アクションプログラム	東京電力ホールディングス株式会社、東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	継続
2		ゼロカーボンシティ表明とゼロカーボンパークの登録	片品村	継続
3	資源循環に関する取組	鹿の食害問題の訴求	尾瀬小屋	継続

(1) 魅力向上プログラム

- 本取組テーマでは、情報案内機能の向上、誘導標識・解説標識等の整備・更新、滞在空間の上質化、保全活動の強化の4区分で、計12の取組を実施します。

○情報案内機能の向上

- 利用者が尾瀬で充実した時間を過ごし、尾瀬の魅力を享受できるように、尾瀬の魅力やアクセス、過ごし方等を学ぶために、既存の情報媒体の改訂や有効活用を図ります。

1. 尾瀬環境学習支援セルフガイド等の活用				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団		連携先	—
目的と概要	2021年度に環境省からの受託事業によって作成したセルフガイド等を尾瀬沼ビジターセンターに設置して、尾瀬訪問者や学校団体等の学習支援に活用する。			
主な該当戦略	リピーター戦略		ターゲット	国内、小中学生(尾瀬沼地区)
取組	状況	実施中	期間	複数年(2022年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺](尾瀬沼ビジターセンター)、情報媒体(財団HP)		
	2022年度	セルフガイド等(セルフガイド2種、おぜぬまビンゴ3種)を財団HPに掲載。また、尾瀬沼ビジターセンターにおいて、これらを活用したイベントを実施した。		
	2023年度	セルフガイド等のHP掲載を継続。イベントについては未定。		

2. 尾瀬ハイキングガイドの頒布				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団		連携先	—
目的と概要	尾瀬国立公園の快適な利用をサポートするため、尾瀬の概要、ルール、アクセス等が入った地図を作成し、利用者に対して頒布している。			
主な該当戦略	ビギナー戦略		ターゲット	国内外、その他は特になし
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺](尾瀬山の鼻ビジターセンター、尾瀬沼ビジターセンター(協力金)、尾瀬外(各種イベント会場(無料))、情報媒体(尾瀬保護財団HP(無料))		
	実施済	尾瀬山の鼻ビジターセンター及び尾瀬沼ビジターセンターにおいて配布、財団HPに掲載		
	2022年度	同上		
	2023年度	継続実施		

3. 尾瀬パンフレットの作成・配布				継続
実施主体	環境省		連携先	—
目的と概要	尾瀬国立公園を利用するにあたってのマナーや注意点、および地図についてまとめたパンフレットを作成し、利用方法だけでなく魅力や過ごし方について説明することで、尾瀬国立公園の適正な保護及び利用の推進を図ることを目的とする。			
主な該当戦略	リピーター戦略		ターゲット	尾瀬に初めて来ている利用者(特に行動計画を立てずに尾瀬へ来訪した利用者)
取組	状況	実施中	期間	複数年(2007年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、尾瀬外、情報媒体(2020年度から尾瀬国立公園サイトにも掲載)		
	実施中	2020年度に、これまでの「尾瀬国立公園インフォメーションマップ」を大幅改訂し、各コースの利用方針を分類・明記するとともに、尾瀬の利用方法だけでなく、楽しみ方・過ごし方を明記した。		

	2022年度	楽しみ方・過ごし方の提案を強化するため、尾瀬国立公園コンテンツ集とフォトスポットを紹介するQRコードを追加した。	
	2023年度	尾瀬を取り巻く4つの観光協会（片品、檜枝岐、南会津、魚沼）について、主にアクセスを主眼においた分かりやすいパンフを制作する。	
目標値	期限	（いつまでに）	2022年3月末に
	項目	（何を）	インフォメーションマップの改訂版を
	数値	（どうするか）	増刷した（35,000部）

○誘導標識・解説標識等の整備・更新

- ・ 利用者が戸惑うことなく目的地への道順や、目的地やその途中での尾瀬の楽しみ方感じ取ってもらえるよう、誘導標識・解説標識等の整備・更新を行います。

4. 尾瀬ルート沿線地域活性化事業				継続
実施主体	尾瀬ルート活性化委員会		連携先	新潟県、魚沼市、民間事業体
目的と概要	新潟県から尾瀬までの魚沼ルートで最も近い登山道である小沢平（こぞうだいら）ルートを利用者が安全に通行できるよう、簡易橋の設置や登山道の草刈り等の登山道整備を実施する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略		ターゲット	－
取組	状況	実施中	期間	複数年（2009年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（小沢平登山道）		
	実施済	高石沢に簡易橋を設置。 登山道の草刈り等実施。		
	2022年度	トクサ沢、高石沢に簡易橋を設置。 登山道の草刈り等実施。		

5. 魚沼から行く尾瀬ルート国道352号道標整備事業				完了
実施主体	新潟県魚沼地域振興局		連携先	尾瀬ルート活性化委員会
目的と概要	尾瀬へ向かう旅行者に安心感や期待感を与えるため、尾瀬までの距離を知らせる既設道標を更新・増設する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略		ターゲット	－
取組	状況	完了	期間	複数年（2018年～2021年）
	場所	尾瀬外（国道352号）		
	実施済	国道352号の既設道標を更新・増設。		
	2022年度	終了		

6. 魚沼から行く尾瀬ルート 国道352号洗い越し改築事業				継続
実施主体	新潟県魚沼地域振興局		連携先	－
目的と概要	国道352号の安全性向上とバスの運行確保を図るため、洗い越しの段差解消を目的とした改築工事（5箇所）を実施する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略		ターゲット	－
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020年～2023年）
	場所	尾瀬外（国道352号）		
	実施済	洗い越しの改築工事（2箇所）を実施。		
	2022年度	洗い越しの改築工事（2箇所）を実施。		
	2023年度			

7. 誘導標識の作成・設置				完了
実施主体	環境省	連携先	—	
目的と概要	環境省直轄歩道について、誘導標識が少なく、利用者の安全性・利便性の点で不十分な状態であると考えられる区間に対して、簡易な誘導標識（現在地入・英語併記）を作成・設置し、公園利用上の安全性、利便性を高める。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット	尾瀬に初めて来ている利用者（特に登山等の経験が浅い利用者）	
取組	状況	完了	期間	複数年（2020年～2022年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（赤法華鳩待峠線、尾瀬沼南岸線）		
	実施中	<ul style="list-style-type: none"> 赤法華鳩待峠線について簡易誘導標識（19枚・箇所）を作成して設置。 尾瀬沼南岸線について簡易誘導標識（5枚）を設置。 		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> 尾瀬沼南岸線について簡易誘導標識（5箇所）を設置（2022年度で事業終了） 		
目標値	期限	（いつまでに）	2022年7月に	
	項目	（何を）	簡易誘導標識を尾瀬沼南岸線に	
	数値	（どうするか）	5箇所設置済	

8. 解説標識の作成・設置				継続
実施主体	環境省	連携先	—	
目的と概要	探勝エリア・コースは自然探勝を目的に、ハイカーなどに幅広く利用され、自然環境学習の場として利用を積極的に推進していくエリアやコースだが、赤法華鳩待峠線の探勝エリア・コース（山ノ鼻～竜宮十字路～見晴間、沼尻～大江湿原～沼山峠間）では、解説標識が全くなく、利用者の利便性の点で不十分な状態であるため、解説標識を作成・設置する。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット	尾瀬に初めて来ている利用者	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（赤法華鳩待峠線の探勝エリア・コース）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> 解説標識を作成（13基）、尾瀬ヶ原に設置（3基）。 		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> 赤法華鳩待峠線の探勝エリア・コース（尾瀬ヶ原）に、解説標識3基を仮設した。また、冬季の雪圧の影響について把握する。 		
	2023年度	<ul style="list-style-type: none"> 当該地の冬季雪圧の影響把握を行った上で、解説標識10基の増設を行う（尾瀬ヶ原エリア4箇所、尾瀬沼エリア6箇所を想定）。 		
目標値	期限	（いつまでに）	2022年10月下旬までに	
	項目	（何を）	解説標識を	
	数値	（どうするか）	3箇所に設置済	

○滞在空間の上質化

- ・ 利用者が尾瀬で快適かつ豊かな時間を過ごし、尾瀬ならではの魅力を存分に感じられるように、利用拠点の施設等の環境を整備し、滞在空間の上質化を図ります。

9. 鳩待峠の施設改築における外観整備				継続
実施主体	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他	
目的と概要	鳩待山荘建替えに伴い、至仏山が眺望できるウッドデッキ等を設置し、この場所に来ないと見ることのできない環境を整備することで、滞在者を含めた利用者の促進を図る。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	若年層～ベテラン層	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022年～2024年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（鳩待峠）		
	実施済	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。		
	2022年度	今後、鳩待山荘の建替え計画と連動させながら施設整備の検討を進めていく予定。		
2023年度	鳩待山荘の建替え計画を完了し整備に向けた準備工事を行う。			
目標値	期限	（いつまでに）	2024年度内に	
	項目	（何を）	ウッドデッキ等を	
	数値	（どうするか）	設置する	

10. 鳩待峠の外構における植栽整備				継続
実施主体	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他	
目的と概要	鳩待峠は尾瀬国立公園内で最も利用者が多い入山口であるため、施設広場の砂利敷きに周囲の植生に合わせた植物を植栽し、訪れる利用者に尾瀬の自然を感じてもらうことで魅力向上を図る。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	若年層～ベテラン層	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022年～2024年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（鳩待峠）		
	実施済	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。		
	2022年度	今後、鳩待山荘の建替え計画と連動させながら施設整備の検討を進めていく予定。		
2023年度	鳩待山荘の建替え計画を完了し整備に向けた準備工事を行う。			
目標値	期限	（いつまでに）	2024年度内に	
	項目	（何を）	周囲の植生に合わせた植物を	
	数値	（どうするか）	植栽する	

11. 鳩待峠の公衆無線 LAN 環境整備				継続
実施主体	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	連携先	片品村他	
目的と概要	鳩待峠は尾瀬国立公園内で最も利用者が多いエリアであるため、若年層やインバウンドの増加が見込まれる。鳩待山荘建替え計画に合わせ施設内の公衆無線 LAN 環境を整備することで若年層やインバウンド利用者の利便性向上を図る。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	若年層、インバウンド	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～2024 年）
	場所	公園内[公園内+周辺]（鳩待峠）		
	実施済	国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業（環境省）における、尾瀬国立公園群馬県側利用拠点計画検討協議会（片品村）の一員として、本取組みを上質化事業メニューとして計画した。		
	2022 年度	今後、鳩待山荘の建替え計画と連動させながら通信会社とともに施設整備の検討を進めていく予定。		
2023 年度	鳩待山荘の建替計画を完了し整備に向けた準備工事を行う			
目標値	期限	（いつまでに）	2024 年度内に	
	項目	（何を）	公衆無線 LAN 環境を	
	数値	（どうするか）	整備する	

12. 国立公園利用拠点滞在環境等上質化事業				継続
実施主体	片品村	連携先	環境省、地元民間事業者等	
目的と概要	国立公園の利用拠点ではインバウンド対応や個人旅行など旅行ニーズの変化への対応力が遅れ、廃屋化した建物が自然の魅力を著しく妨げている。地元自治体が主となり環境省や地元民間事業者等と協議して利用拠点計画書を策定し、それに沿って補助事業を実施する。（多言語標識や景観の阻害や危険性のある廃屋の撤去等）			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	-	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済	利用拠点計画書を策定		
	2022 年度	富士見小屋（廃屋）の撤去（富士見峠地区）		
2023 年度	鳩待峠の看板整備（鳩待峠地区）（予定）			

13. 尾瀬設備クオリティアップ事業				継続
実施主体	群馬県	連携先	-	
目的と概要	年齢・体力の異なる幅広い層の利用者や外国人利用者が安心、安全、快適に尾瀬を楽しめるよう、県有施設の設備整備等を行います。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	入山者全般（国内／国外）	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園内の県有施設）		
	実施済	2021 年度は、大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事を実施した。		
	2022 年度	大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事 実施中		
2023 年度	大清水尾瀬沼線道路（歩道）再整備工事（予定） 入山口案内看板再整備（検討中）			

○保全活動の強化

- ・ 尾瀬の生態系を維持回復させ、尾瀬本来の姿を取り戻していくために、保全活動を行います。

14. ニホンジカによる植生被害対策				継続
実施主体	環境省	連携先	群馬県立尾瀬高等学校	
目的と概要	ニッコウキスゲを始めとする湿原植物等へのニホンジカによる植生被害対策のため、植生保護柵を設置して被害防除を行うとともに、植物の自然回復をはかる。			
主な該当戦略	リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	尾瀬来訪者全般	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬ヶ原（ヨッピ川南岸、下ノ大堀川、竜宮等））		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 植生保護柵の設置及び維持管理。 ・ 植生保護柵の効果検証及び植生の回復状況を把握するためのモニタリング。 ・ 植生保護柵の設置・撤去作業を群馬県立尾瀬高等学校と共同で実施（2021年～）。 		
	2022年度	※同上取組を継続 ※設置箇所として燧ヶ岳山頂周辺を追加（福島県と共同管理）		
	2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ・ 同上取組を継続 ・ 笠ヶ岳に植生保護柵を新規設置（片品村、環境省が連携管理） 		

(2) 周遊・滞在促進プログラム

- 本取組テーマでは、モデルコース・プランの作成、山小屋の魅力向上、体験アクティビティの利用促進、交流イベントの開催の4区分で、計11の取組を実施します。

○モデルコース・プラン等の作成

- 利用者自身の目的や関心、体力等に応じてコースを選択肢し、尾瀬ならではの多様な魅力を体感・体験できるよう、周遊利用や滞在利用のモデルコース・プランを提示します。

1. シャトルタクシープラン（最寄り駅から登山口までの送迎）				継続
実施主体	みなみあいづ観光 (株式会社みなみあいづ)		連携先	—
目的と概要	尾瀬国立公園内の田代山、帝釈山へは直通のバス等がないため、電車等でお越しいただくお客様のために予約制のシャトルタクシーを配車し、利便性の向上を図っています。 最寄り駅から登山口、周辺宿泊施設から登山口の4コースを設定しています。			
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園内の猿倉登山口、馬坂登山口）		
	実施済	電車等でお越しいただくお客様のために予約制のシャトルタクシーを配車しています。		
	2022年度	合計利用実績 124件 277名		
	2023年度	継続予定		

2. 会津と上州を結ぶ歴史の道「会津沼田街道」滞在型利用促進事業				継続
実施主体	檜枝岐村		連携先	尾瀬檜枝岐温泉観光協会
目的と概要	福島県檜枝岐村と群馬県片品村を結ぶ唯一の古道「会津沼田街道」（群馬県片品村戸倉（大清水）～福島県檜枝岐村七入）は、江戸時代から交易路として利用されていた。 これまであまり知られてこなかった街道の魅力を発信し、少しでも尾瀬の滞在者を増加させると共に、村内宿泊施設利用者を増加させることを目的とする。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略		ターゲット	1人旅をする若年層。 代表的な尾瀬（尾瀬沼や尾瀬ヶ原等）を経験済みのリピーター。
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～2023年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園内（会津沼田街道））、 情報媒体（WEB：尾瀬檜枝岐温泉観光協会のSNS（YouTube等））		
	実施中	<ul style="list-style-type: none"> 街道に残る文化や自然を幅広く発信するためのプロモーション動画（初夏 Ver.）を制作し、YouTube等で情報発信を行った。 街道でのモニターツアー（夏と初秋）を実施し、結果を分析した。 		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> 街道に残る文化や自然を幅広く発信するためのプロモーション動画（秋 Ver.）を制作し、YouTube等で情報発信を行う。 街道でのモニターツアー（新緑）を実施し、結果を分析した。 		
	2023年度	<ul style="list-style-type: none"> 過去2年間で撮影した動画を編集及び追加した配信用動画を制作し、YouTubeによる広告配信を行う。 街道のプロモーションに特化したランディングページを制作し、観光協会ホームページにもリンクさせながら、Googleによる広告配信を行う。 過去2年間で撮影したプロモーション素材を活用し、街道の魅力を十分に盛り込んだ新たなガイドマップを作成する。 		
目	期限	(いつまでに)	2022年	2022年

標 値	項目	(何を)	モニターツアーの 参加者	七入地区設置 カウンター数	村内宿泊者数
	数値	(どうするか)	9人(実績)	1,500人(目標)	18,000人(目標)

3. 尾瀬国立公園のモデルコースと体験アクティビティの紹介					継続
実施主体	環境省		連携先	尾瀬のガイド事業者	
目的と概要	尾瀬国立公園を満喫するための、モデルコースやツアーについて、「尾瀬国立公園コンテンツ集」やビジターセンターの展示物としてとりまとめて紹介する。				
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略		ターゲット	国内・海外、尾瀬未経験者（特に登山等の経験が浅い利用者）	
取 組	状況	実施中		期間	複数年（2020年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、尾瀬外、情報媒体（Web）			
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬沼ビジターセンターにガイド事業者紹介パネルを作成・設置 ・尾瀬国立公園コンテンツ集（2021-2022年版）の作成と配布。 ・同様にツーリズム EXPO 等で国内外の商談会に資料として利用。 ・環境省尾瀬国立公園のウェブサイトに掲載。 			
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬国立公園コンテンツ集をツーリズム EXPO 等で配布済。 ・同コンテンツ集を「環境省_尾瀬国立公園」サイトに掲載済。 			
2023年度	・尾瀬国立公園モデルコースを作成し、「国立公園に、行ってみよう！」サイトで紹介予定。				
目 標 値	期限	(いつまでに)	2023年1月までに		
	項目	(何を)	尾瀬国立公園モデルコースを		
	数値	(どうするか)	作成し、「国立公園に、行ってみよう！」サイトで紹介予定		

13. 滞在・周遊利用促進パンフレット（名称は今後変わる可能性あり）					新規
実施主体	環境省		連携先	地元4観光協会	
目的と概要	尾瀬国立公園の周遊利用と滞在利用の促進に関するパンフレットの作成を行い、尾瀬国立公園の適正な保護及び利用を図ることを目的とするもの。				
主な該当戦略	ビギナー戦略		ターゲット	国内、尾瀬来訪計画を検討している若者男女（尾瀬に興味を持っている潜在層）、複数日に跨る山行に挑戦したいが山小屋泊に抵抗があるライト層	
取 組	状況	今後実施予定		期間	2022年度内
	場所	-			
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊利用を目的に広域でのアクセスマップを作成予定。 ・滞在利用を目的に山小屋利用を促進するパンフレットを作成予定。 			
	2023年度	・上記で作成したパンフレットを2023年4月から配布予定。			
目 標 値	期限	(いつまでに)	2022年度内に		
	項目	(何を)	周遊・滞在利用を促進するパンフレット2種を		
	数値	(どうするか)	作成する		

14. 尾瀬ガイドスの開催（名称は今後変わる可能性あり）				新規
実施主体	地元4観光協会、JATA、環境省	連携先	-	
目的と概要	冬期に都内で尾瀬セミナーを開催し、サステナブルツーリズムを目的とした商談会を行うとともに、滞在・周遊利用について、地元観光協会と旅行会社とが相互協力を図ることで、尾瀬国立公園の適正利用を促進する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内、旅行代理店	
取組	状況	今後実施予定	期間	2022年度内
	場所	都内		
	2022年度	・都内で尾瀬セミナーを開催し、サステナブルツーリズムを目的とした商談会を開催する。		
目標値	期限	(いつまでに)	2023年2月頃までに	
	項目	(何を)	尾瀬ガイドス（仮称）を	
	数値	(どうするか)	4観光協会とJATAとの共催で開催する	

○山小屋の魅力向上

- ・ 尾瀬の利用拠点となる山小屋において、利用者が快適に過ごせるよう、施設（食堂利用や売店、休憩所等）の改修やサービス形態等の変革を進めるとともに、各小屋の個性やウリ、提供するサービスの充実を図ります。

4. 宿泊者に対するスライドショー				継続
実施主体	尾瀬山小屋組合	連携先	一部山小屋	
目的と概要	宿泊者に対し座学として尾瀬の歴史や風景等を、スライドを使用し説明。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	宿泊するお客さま	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（オープンスペース他）		
	実施済	尾瀬の風景写真等を活用して更なる尾瀬の魅力を宿泊されたお客様にお伝えしていく。		
	2022年度	一部の山小屋で実施		
2023年度	HP、ブログ等で開花状況等の情報を発信			

5. 客室の改修				継続
実施主体	尾瀬沼ヒュッテ	連携先	-	
目的と概要	2020年度より館内の一部をカプセル型の宿泊施設に変更し、運用を図っている。カプセル型ユニットを導入した経緯としては、尾瀬の宿泊単位が個人または夫婦単位での宿泊が増え、旅行エージェントの利用も少なくなってきたことから10畳以上の大部屋をカプセルユニットに切り替え、稼働率を上げることを目的として実施している。現在のところ新型コロナウイルス感染症拡大により、宿泊客が減少しており予想した稼働率には到達していないものの、今後の需要は存在するものと見込んでいる。また、土日祝祭日に宿泊が集中しており、平日分散化を図る観点から平日料金を導入している。			
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼ヒュッテ）		
	実施中	カプセル型ユニットの運用と今度の改修の検討		

6. B&B スタイルの宿泊施設へと転換				継続
実施主体	尾瀬御池ロッジ	連携先	—	
目的と概要	<p>2022 度より新たに B&B スタイルの宿泊施設へと転換を図り運営していく予定である（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、2020～2021 年度まで休館）。</p> <p>B&B へ変更する理由としては、現在尾瀬を含め、北アルプスなどの大半の山小屋では1万円を切る宿泊施設が存在しなくなっている。加えて、登山者を取り巻く状況は、給与が上がらず物価上昇を招くいわゆるデフレ現象が発生している。更に登山者の多くは年金受給者であり、1泊1万円以上の山小屋に宿泊したくてもできない状況が垣間見られ、今後益々山小屋の経営状況は厳しくなると予想される。この様な状況から、安価に宿泊できゆったりと尾瀬の四季の魅力を堪能できる機会を設けること、そして、お客様により多くの選択肢を与え、より多くの方々に尾瀬に足を向けていただくことが必要と考える。</p> <p>また新型コロナウイルスの影響によりアルバイトの応募が少なくなり、経営に支障を来している状況にある。宿泊施設で最も人手を必要とするのが食事であり、夕食をなくし、朝食を軽朝食にすることで人手が軽減できるようになる。</p> <p>これまでの旅行形態としては、非日常的な雰囲気の中で贅沢をするという概念が一般的であったと思われるが、『贅沢』を『セルフ』に代えることで安価で個々の楽しみが増えることへと繋がり、新たな山の旅行スタイルへと転換できるものと期待する。</p>			
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内+周辺〕（尾瀬御池ロッジ）		
	2022 年度	B&B スタイルの宿泊施設へと転換		

7. 食事の充実と部屋の個室利用				継続
実施主体	山の鼻小屋	連携先	—	
目的と概要	<p>お客様に快適に過ごしていただくために、食事の充実と個室利用をしていただくことで、コロナの時代でも安心して利用してもらい、リピーターを増やす。</p> <p>お客様に対して丁寧な対応を心掛ける。</p>			
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022 年～）
	場所	尾瀬内〔公園内+周辺〕（山の鼻小屋）		
	2022 年度	<p>調査結果（入山者アンケート）から尾瀬そのものがどのような所なのか特に不便なことなどがまだまだ知られていないことに気付いた。この事がお客様の不満につながっていると考え。これらをふまえて、まず尾瀬の魅力を周知するとともに、尾瀬の不便さ、山小屋の不便さも広く周知する必要があると考える。</p> <p>安心を得るために SNS やホームページでの細かな配信などを利用し新しいお客様の獲得を図り継続して快適性も追求する。</p>		

○体験アクティビティの利用促進

- 尾瀬ならではの魅力を体験を通じて感じ取ってもらうために、ガイドやインタープリターが提供する体験アクティビティのメニューの充実を図ります。

8. 片品村内で e-bike ツアー				継続
実施主体	NPO 法人片品・山と森の学校	連携先	—	
目的と概要	<p>尾瀬国立公園は日帰りの利用客が多い。そこで、尾瀬国立公園の麓である片品村でのお客様の滞在時間を増やすため、村内を周遊する e-bike ツアーを造成する。このツアーを造成す</p>			

		ることで、日帰りではなく宿に泊まって尾瀬を楽しむことで、地域の経済が活性化されることを目指す。		
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～2023年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（群馬県利根郡片品村）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・e-bikeを購入し、ツアーのモデルコースを策定した。 ・片品村でのe-bikeツアーを紹介する、インバウンド向けのオンラインツアーを実施した。 		
	2022年度	・e-bikeツアーについて「尾瀬の日フェア」でPRを実施した。		
	2023年度	（2023年度内容については未定）		
目標値	期限	（いつまでに）	2022年度末までに	
	項目	（何を）	e-bikeツアーの周知を	
	数値	（どうするか）	多方面に行う	

9. 星空観察会の定期開催				継続
実施主体	尾瀬沼ビジターセンター （環境省からの受託事業）		連携先	（公財）尾瀬保護財団
目的と概要	尾瀬シーズン中の6～10月、週末・祝日の前後の夜を中心に星空観察会を開催。星座解説等を行うことによって利用者満足度を向上し、宿泊者限定のコンテンツで尾瀬の魅力をアピールする。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット	国内、尾瀬沼地区宿泊者（子供含む）	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2017年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼ビジターセンター（内・周辺））		
	実施済	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を開催した。（無料）		
	2022年度	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を開催（2022年は23回開催）。		
	2023年度	尾瀬シーズン中の6～10月に定期的に複数回の星空観察会を開催予定（尾瀬沼ビジターセンター運営業務を受託した場合）		

10. 尾瀬国立公園のナイトタイムコンテンツ充実				継続
実施主体	環境省		連携先	（公財）尾瀬保護財団
目的と概要	尾瀬国立公園のナイトタイムにおける適切な自然資源活用を進め、インバウンドをはじめとした利用者満足度の向上を図る事を目的に、尾瀬ならではの魅力ある自然・文化・歴史を楽しむ夜の自然体験プログラム（ナイトタイムコンテンツ）を造成し、尾瀬の宿泊利用を促進する。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット	国内、尾瀬沼地区宿泊者（子供含む）	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼ビジターセンター）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・星空観察会の開催（環境学習支援の一環として学校団体を対象に実施、2021年は2回開催）。 ・ナイトハイクの開催（2021年は2回開催）。 ・山小屋支配人を招いてのトークショーを開催（2021年は1回開催）。 		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ・星空観察会を継続実施（2022年は23回開催）。 ・ナイトハイクを継続実施（2022年は3回開催）。 ・夜のスライドショーを継続実施（2022年は38回開催）。 		

○交流イベントの開催

- ・ 尾瀬の自然環境を活かして、尾瀬の自然・歴史・文化を伝え、交流するイベントを開催する。

11. 山・音楽・食・地元文化をミックスしたイベントの開催				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先	下記参照	
目的と概要	<p>国立公園内及び隣地のスキー場やキャンプ場を活用し、アーティストや著名人・YouTuber・山小屋・アウトドアメーカー・地元商店や行政機関などを誘致し、影響力ある人たちの力を借りながら、国立公園の魅力や地元地域の伝統文化PRを目的としたイベントを開催。新型コロナウイルスにより影響を受けた地元観光業・宿泊事業所の入客斡旋も兼ね添える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の名産物だけでなく、協賛企業のキッチンカーを誘致し、地元の方々にも全国の食の楽しみを味わって頂けるようなグルメブースを設置する。 ・ アウトドアメーカーに参画頂き、テント泊が体験出来るプランの設置、登山装備の講習や歩行指導などが体験出来る参加型ブースも設置。 ・ 環境省及び国立公園のレンジャーや、保全団体・ボランティア団体にも参画頂き、国立公園の植生保護やゴミ問題、その他国立公園が抱える、様々な課題や問題点を来場者に直接伝える事ができる場所を提案。 ・ 収益の一部を国立公園や自然保護・地元行政などの活動費用に還元出来る仕組みとする。 			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	20代～30代男女	
取組	状況	今後実施予定	期間	—
	場所	尾瀬内[公園内+周辺] (国立公園内及び隣地のスキー場やキャンプ場)		
	2022年度	<p>①2022年10月9日(日)</p> <p>■尾瀬国立公園：見晴地区原の小屋ゲストハウスにて、歩荷感謝祭を企画実施。環境省協力のもと、下記のゲストを招致。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 安仁屋円香 (ランドネ副編集長 ※ゲスト出演) ・ 上田絢加 (サロモンアスリート、スカイランニング選手権日本代表 ※ゲスト出演) <p>■尾瀬・歩荷文化の認知、理解を深める機会と歩荷さんへ金銭的還元を目標に実施。下記の内容でイベントを進行した。</p> <p>【1】歩荷トークショー 【2】歩荷体験 【3】写真撮影 【4】秘蔵写真展 【5】参加特典の提供 (フレンチトースト、日本酒等の提供) 【6】歩荷さん交流時間</p> <p>■売上金14万円を全額歩荷さんに還元した。</p> <p>②2022年8月28日(日)</p> <p>かたしな道の駅にて行われた尾瀬の日フェアにて、山小屋グルメとしてキッチンカーを出店。グルメを通して尾瀬の魅力を発信。</p>		
	2023年度	尾瀬国立公園内外でのイベント開催。2022年のイベント内容を継続開催。		

12. アウトドア好きな人々の交流創出

継続

実施主体	尾瀬小屋	連携先	—	
目的と概要	<p>同じ趣味同士だから発展率も高く、大自然の中に身を置く事で、非日常的なロケーションから開放的な気持ちになる。また、普通の街コンとは違い『登山やアウトドアが好き』という共通の話題がある事で、自然と心の距離は近くなるものと考えられる。</p> <p>そこで、出会うだけではなく『国立公園』をもっと好きになり、やがては思い出の場所として、何度も訪れて貰える様な場所として本企画を推進する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自社の尾瀬小屋はもちろん、全国の国立公園の宿泊地を使用する事で、地域も限定されず気軽に参加可能。また地域毎の特色を活かした、伝統や文化、歴史などを感じる事で利用した地域に愛着を持って頂く事を目標とする。 ・尾瀬においては高低差もほとんどない為、初心者でも気軽に参加が可能。また、山小屋を利用する事で、最低限の荷物で参加が可能。かつ国立公園内での滞在時間を長める事が可能。 ・ターゲットは老若男女問わず受け入れる事が出来ます。企画催行は、年齢層別に組む事で汎用出来、参加人数やイベント規模に応じて、観光バス、マイクロバス、ハイエース車両など全ての車両で登山口までアプローチが可能。 ・空室の多い期間の売上補強になりうる案件でもあり、国立公園の宿泊事業者との相乗効果も見込まれる。 			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	20代～30代男女	
取組	状況	今後実施予定	期間	—
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	2022年度	コロナ情勢を勘案し非開催。		
	2023年度	現段階で開催の予定なし。		

(3) 魅力的プロモーション実施プログラム

- 本取組テーマでは、尾瀬のイメージの発信、Web ページ、SNS の活用、外部企業・人材との連携による PR の 3 区分で、計 15 の取組を実施します。

○尾瀬のイメージの発信

- 尾瀬の多様な魅力、楽しみ方等について利用者に向けて情報発信を行います。

1. グルメを通じた国立公園の魅力発信				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先	—	
目的と概要	<p>尾瀬小屋は「食べる」というアクションを通して、国立公園の魅力や課題を発信していく取り組みをしている。</p> <p>【魅力発信】:「山でこんなご馳走が食べられるの?」そんな驚きと感動の料理 を低価格で楽しめる世界を国立公園内に 実現させた。また、地元の食材を料理に取り入れる事で、国立公園に隣接する地元の魅力発信の役割も兼ね備えている。</p> <p>【課題発信】: 尾瀬の山小屋への物資輸送は、ヘリコプターか歩荷 (ポッカ) と呼ばれる人力輸送のみとなる。しかし、相次ぐヘリコプター会社の山岳輸送撤退や若手のパイロット不足、運搬費用の高騰、歩荷さんの存続危機など、深刻な課題に直面している。そうした課題を食べ物を通して利用者に知ってもらい、一人一人が出来る事を考える事で、国立公園の持続可能な社会にする事を目標としている。</p> <p>【地域密着】尾瀬周辺地域は豊富な水に恵まれ、有名な酒造が点在する。2022 年は食材だけでなく、料理に合わせ美味しい地元のお酒を国立公園で味わい、更なる付加価値と非日常体験を造成する。</p> <p>【経済貢献】地元の酒造様と提携し、尾瀬国立公園オリジナルブランドもしくは希少性の高いお酒を提供いただき、体験価値を高めていただく。商品提供を頂いた返礼に、上記商品の売上は地元の酒造様に 100%返還とさせていただきます。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	20 代~30 代男女	
取組	状況	実施中	期間	複数年 (2021 年~)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺] (尾瀬小屋)、 情報媒体 (尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube)		
	2022 年度	<p>■2022 年山小屋グルメを 30 商品開発し提供。5 ヶ月間で約 2.6 万人が尾瀬小屋レストランを訪問した。TV 番組、ラジオ、雑誌、各メディアにも多く取り上げられた。</p> <p>■尾瀬の麓の酒造メーカー【土田酒造】様と協業し、尾瀬の麓の魅力をお酒を通して伝える取り組みを実施。山の中でこだわりのお酒を楽しみながら、群馬の魅力をセールスした。</p> <p>■2022 年 5 月~10 月まで尾瀬小屋に設置した募金箱には、合計 285,138 円もの寄付が集まり、7 万円は歩荷さんへ還元、残りの 215,138 円は福島県自然公園清掃協議会尾瀬支部へと寄付致しました。</p> <p>■尾瀬の物資輸送の課題解決に向け、川崎重工業様との意見交換会の実施、檜枝岐村にて山小屋関係者との会合開催、七入ヘリポートの視察を実施。</p>		
2023 年度	<p>■2023 年山小屋グルメ 20 の新商品リリースを目標。</p> <p>レストランだけでなく、宿泊者向けのメニューも都会スペックを目標とし、更なるグルメを活用した尾瀬の魅力を発信。来訪者 3 万人を目指す。</p> <p>■新潟のプロモーション強化の為、魚沼醸造株式会社様と協業し、マルコメ味噌を使用した絶品グルメを開発予定。</p> <p>■山小屋グルメを他公園の山小屋へ横展開。情報共有。</p>			

2. 片品・檜枝岐・魚沼・南会津共同の登山口での PR 活動事業				協議中
実施主体	一般社団法人片品村観光協会	連携先	—	
目的と概要	各登山口にて協同 PR 活動を実施する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	—	
取組	状況	今後実施予定	期間	単年（2022 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（各登山口）		
	2022 年度	概要内容を本年度実施。		
	2023 年度	協議中		

3. Instagram キャンペーン（フォトコンテスト）				未定
実施主体	（公財）尾瀬保護財団	連携先	—	
目的と概要	SNS を通じて尾瀬の認知拡大を図るため、四季折々の尾瀬の風景、尾瀬で出会った動植物、尾瀬で過ごす人々を捉えた写真を対象として、SNS 投稿キャンペーン（コンテスト）を行う。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	国内、若者、カメラ	
取組	状況	実施中	期間	単年（2022 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、情報媒体（Instagram 及び財団 HP）		
	実施済	投稿募集		
	2022 年度	シーズンを通じて尾瀬の Instagram 写真投稿を募集し、優れた作品を選出してホームページ等で発表し、四季折々の尾瀬の魅力を PR する。		
	2023 年度	未定		

4. スタートアップふくしま尾瀬事業（情報発信事業）				完了
実施主体	福島県	連携先	環境省、福島県檜枝岐村、南会津町	
目的と概要	福島県側の尾瀬とその玄関口となる檜枝岐村や南会津町の自然の素晴らしさや歴史、文化などの魅力を県内外に情報発信し、幅広い層に「ふくしま尾瀬」を拡散する。 「ふくしま尾瀬」の魅力を様々な切り口で丁寧に取材し、コラム記事や動画を作成、Web や SNS を活用して情報発信を行う。			
取組	状況	完了	期間	複数年（2020 年～2021 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）、情報媒体（ふくしま尾瀬 Web、SNS）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> ・2020 年度は、現地取材を基に自然や歴史、山小屋など「ふくしま尾瀬」ならではの魅力について、コラム記事や動画を作成し、Web、SNS 等により配信。 ・令和 3 年は、前年の取組に加え、テレビや Web での CM 配信や、ふくしま尾瀬のアフターコロナを見据えたインバウンド対応（英語化）を行うなど、情報発信の強化を行う。 		
目標値	期限	（いつまでに）	2021 度末	
	項目	（何を）	コラム記事、動画配信	
	数値	（どうするか）	22 回	

5. Fukushima 尾瀬魅力発信強化事業				継続
実施主体	福島県	連携先	環境省、檜枝岐村及び南会津町	
目的と概要	ふくしま尾瀬の魅力等を年間を通して情報発信するほか尾瀬での自然体験ツアーやフォトコンテストを開催し、「ふくしま尾瀬」に訪れるきっかけを創出する。			
主な該当戦略	リピーター戦略	ターゲット	SIT 層、シニア層、カメラ、登山者	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022 年～2024 年）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）、情報媒体（ふくしま尾瀬 Web、SNS 及び特設 Web）		
	2022 年度	<ul style="list-style-type: none"> 尾瀬での自然体験をメインとした著名人やガイドが案内するメディアツアーやプロカメラマン等が案内するフォトツアーを実施する。 ふくしま尾瀬フォトコンテストを開催し、入賞作品の公共施設等での展示等を行う。 既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の新着情報を発信する。 		
	2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> 尾瀬での自然体験をメインとした著名人やガイド等が案内するツアーや YouTuber 等が案内する尾瀬動画撮影教室ツアーを実施する。 ふくしま尾瀬フォトコンテストを開催し、入賞作品の公共施設等での展示等を行う。 既存のふくしま尾瀬の Web や SNS において、尾瀬の新着情報を発信する。 		
目標値	期限	（いつまでに）	2022 度末	
	項目	（何を）	尾瀬でのツアー	
	数値	（どうするか）	2 回	

6. 尾瀬国立公園のフォトスポット紹介				継続
実施主体	環境省	連携先	尾瀬ガイド協会	
目的と概要	尾瀬国立公園の魅力発信を目的に、尾瀬における写真映える場所（フォトスポット）について、定番スポットからあまり注目されていない穴場スポットを取りまとめ、パンフレットやアプリ等で紹介する。 なお、公園利用者がその場所を訪れたいよう働きかけるのが目的のため、利用上や安全上に支障のある場所は取り扱わない（例：厳冬期、木道を外れた場所、特別な許可を要するもの等）。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内、SNS で旅行情報を収集する若者男女	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2020 年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬国立公園全域）、情報媒体（Web）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> 尾瀬ガイド協会へ業務発注して、フォトスポットを選定（72 箇所、2020 年度）。 フォトスポットをグーグルマップ（マイマップ形式）に掲載（2021 年度）。 		
	2022 年度	<ul style="list-style-type: none"> フォトスポットをパンフレット（インフォメーションマップ）に QR コード掲載済。 フォトスポットを山と高原地図「尾瀬（アプリ版）」にスタンプラリー形式で掲載済。 		
2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> 上記フォトスポット情報を継続して掲載・発信予定。 			
目標値	期限	（いつまでに）	2022 年 3 月末に	
	項目	（何を）	フォトスポットが掲載されたマップの改訂版を	
	数値	（どうするか）	増刷した（35,000 部）	

16. 尾瀬国立公園ブランドデザイン（名称は今後変わる可能性あり）				新規
実施主体	環境省	連携先	—	
目的と概要	尾瀬国立公園の統一的なイメージを発信するため、主にステッカーやポスターなどの PR ツールとして、広く活用可能なデザインを作成する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内外、関東近郊在住の若者、登山アウトドア初心者、尾瀬の魅力未認知層	
取組	状況	今後実施予定	期間	2022-2023 年度
	場所	—		
	2022 年度	・尾瀬国立公園を象徴したイメージデザインを制作する。		
	2023 年度	・制作したデザインを、ステッカー等のノベルティとして作成し、地域関係者へ配布するほか、イベント等の記念品として頒布する。		
目標値	期限	(いつまでに)	2022 年度内に	
	項目	(何を)	尾瀬国立公園を象徴するイメージデザインを	
	数値	(どうするか)	制作する	

○Web ページ、SNS の活用

- ・ 尾瀬の多様な魅力、旬な情報を提供するために Web ページ、SNS の有効活用を図ります。

7. SNS を活用した魅力発信				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先	—	
目的と概要	尾瀬小屋の SNS は、2021 年より運用開始。営業開始から営業終了までの僅か5ヶ月で、多くのファンを獲得に成功。特に写真を多用して「尾瀬の今」を発信。文字よりも、説明よりも、写真で伝える事にこだわって配信を心掛けている。また、魅力だけでなく、冬期の小屋管理の大変さや山小屋が抱える課題なども率先して発信している。			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	20 代～50 代男女	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～）
	場所	情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済	2021 年より尾瀬小屋 SNS を運用開始		
	2022 年度	<ul style="list-style-type: none"> ■Twitter：2000 人→8400 人＝6400 人のフォロワー増加 ■Instagram：1000 人→5000 人＝4000 人のフォロワー増加 ■Facebook：6500 人→7500 人＝1000 人のフォロワー増加 ■ユーチューバーのかほさん、カブパパさんの尾瀬招致、動画撮影配信。 ■世界的映画監督の小島秀夫さんが尾瀬小屋と歩荷を応援し、Twitter で宣伝。 		
2023 年度	<ul style="list-style-type: none"> ■プロサッカー選手の尾瀬招致。 ■小島秀夫監督の尾瀬招致。 ■登山ユーチューバーの尾瀬招致。 			
目標値	期限	(いつまでに)	2023 年までに	
	項目	(何を)	獲得フォロワー数+1 万人	
	数値	(どうするか)	累計 3 万人を目指す	

8. 南会津町観光物産協会情報発信事業				継続
実施主体	南会津町観光物産協会（館岩支部）	連携先	—	
目的と概要	<p>① 田代山、帝釈山の魅力を登山者に伝えるため、南会津町観光物産協会のホームページ又は、SNS アカウント（Facebook、Instagram、Twitter）を活用して情報発信を行う。具体的には、花の様子、交通情報、イベント情報などを発信し、知名度向上、魅力向上を図っている。</p> <p>② ①の内容を南会津町館岩地域の観光施設、道の駅などに情報提供（FAX）を行い、各施設で情報が取得できるようにしている。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内、登山が趣味の方	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	情報媒体（南会津町観光物産協会の SNS アカウント）		
	実施済	SNS は、週 1～2 回を目安に情報発信ができるように努めている（6 月～10 月）。		
	2022 年度	継続実施		
	2023 年度	継続実施		

9. 個人客獲得のための Web ページの改善				完了予定
実施主体	NPO 法人片品・山と森の学校	連携先	—	
目的と概要	当団体で実施している尾瀬ツアーの予約数増加のため、主に Web ページの改善を行う。			
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021 年～2022 年）
	場所	情報媒体（NPO 法人片品・山と森の学校の Web ページ）		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> Google の検索に入るようなキーワードをページ内に埋め込む。 Web ページが閲覧者の PC やスマホ上で速やかに読み込めるよう、データ容量の軽量化を図る。 Web ページの閲覧数や流入経路の分析。 ツアー予約への誘導のための工夫を施す。 		
2022 年度	2021 年中に行ってきた Web ページの解析結果を分析し、改善点を洗い出す。洗い出した改善点を逐次実施する。			
目標値	期限	（いつまでに）	2022 年度末までに	2022 年度末までに
	項目	（何を）	Google 上の検索キーワード「尾瀬」と「ガイド」で	Web ページの訪問者がツアーの予約まで結びつく数を
	数値	（どうするか）	検索 1 位～2 位を目指す。 ※2022 年 11 月現在で 1 位	昨年度中から 15%増を目指す。

10. Instagram（尾瀬公式アカウント）の活用				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団		連携先	—
目的と概要	関係機関や公園利用者等を広く巻き込みながら、「みんな」で（まだ知られていない）尾瀬の多様な魅力を発信することで、尾瀬の認知度を高めるとともに魅力あふれる尾瀬を国内外に発信する目的で、令和元年度から「尾瀬公式 Instagram アカウント」を運用している。写真・記事の投稿の他、指定ハッシュタグ「#discoveroze」を付けた外部の投稿を再投稿している。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	国内、若者	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019年～）
	場所	情報媒体（Instagram 及び財団 HP トップページへの埋め込み）		
	実施済	次の情報等を不定期で発信する。 ・尾瀬の魅力を伝える記事、写真並びにこれに付随する情報 ・尾瀬で行われる取組 その他、指定ハッシュタグの付いた外部の投稿を選定して、再投稿している。		
	2022年度	同上		
	2023年度	継続実施		

11. 片品村むらづくり観光課公式YouTube 動画配信				継続
実施主体	片品村		連携先	—
目的と概要	尾瀬を含む片品村の状況を伝えるために、職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略	ターゲット	—	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]、情報媒体（YouTube）		
	実施済	2021年4月に片品村むらづくり観光課公式YouTubeを開設した。 職員が尾瀬を含め片品村の観光地に入り動画撮影して配信している（21本）。		
	2022年度	季節ごとに尾瀬に入りその状況を動画撮影し配信。（5月～10月）		
	2023年度	〃（予定）		

○外部企業・人材との連携による PR

- ・ 尾瀬の魅力を活用し、潜在利用者等に届けるために、外部企業・人材と連携して PR を行います。

12. ポストコロナインバウンド誘客事業				継続
実施主体	一般社団法人片品村観光協会	連携先	-	
目的と概要	<p>訪日外国人旅行者誘客による地域経済の活性化を図るため、認知度と、来訪意欲向上に向けた取り組みを進める。本事業では、「海外メディアの活用」、「インフルエンサーの招聘」「現地観光セミナー」を通じて、尾瀬をはじめとする本村の観光資源の魅力を海外（オーストラリア・台湾）に向けて発信するとともに、「外国人アドバイザーの招聘」を実施することで、観光資源の磨き上げを図る。</p> <p>①台湾看板広告：台湾 JTB とタイアップし、現地旅行番組等で尾瀬の紹介並びに台湾地下鉄駅看板展開を図る。</p> <p>②インフルエンサー招聘：海外インフルエンサー（ブロガー、Youtuber）を招聘及び商談会</p> <p>③外国人アドバイザー招聘：片品村の観光コンテンツをより魅力的なものとするため、外国人アドバイザーから、改善点等を抽出します。</p> <p>④台湾 ITF 参加：台湾世界旅行博出展。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	-	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年（2022年～2023年）
	場所	尾瀬外（村内、台湾）、情報媒体（Web）		
	2022年度	概要内容を本年度実施。		
	2023年度	2023年度も継続実施		

13. 人気 YouTuber と連携した尾瀬の魅力広報				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団	連携先	-	
目的と概要	<p>・「かほの登山日記」の人気 YouTuber かほさんに尾瀬登山（燧ヶ岳・至仏山）、動画撮影を依頼。</p> <p>・10代～30代に使用されている割合が大きい SNS の 1 つ、YouTube での動画配信によって、若者世代の尾瀬への興味・関心を高め、また登山マナーについても啓発する。</p> <p>・撮影された動画をイベント時やビジターセンターで公開。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内、若者、登山	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2022年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬山の鼻ビジターセンター、尾瀬沼ビジターセンター）、尾瀬外（広報イベント）、情報媒体（YouTube、尾瀬保護財団ウェブサイト）		
	2022年度	7月に動画撮影・YouTubeでの公開。また、ビジターセンターやショッピングモールのイベント会場でも公開した。		
	2023年度	制作した動画データの継続活用（新規制作は予定なし）		

14. モンベル会員雑誌 フレンドエリアの登録				協議中
実施主体	片品村	連携先	-	
目的と概要	誘客を目的として、モンベルフレンドエリアに片品村の観光情報を掲載する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	-	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	情報媒体（モンベル Web ページ及び雑誌）		

実施済	2021年12月以降、Webや雑誌に尾瀬の情報が掲載。
2022年度	モンパルのwebや情報雑誌に尾瀬の情報を掲載。
2023年度	検討中

15. 著名人とのタイアップによるプロモーション				完了
実施主体	環境省	連携先	片品村観光協会、 尾瀬檜枝岐温泉観光協会	
目的と概要	尾瀬国立公園の認知度向上を図り、潜在層へのPRを目的に、著名人とのタイアップによるプロモーションを行う。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内外、柴咲コウさんのファン層	
取組	状況	実施中	期間	単年(2021年)
	場所	情報媒体(Web:柴咲コウ「レトログラス」YouTubeチャンネル)		
	実施済	<ul style="list-style-type: none"> 環境省の環境特別広報大使である柴咲コウとタイアップし、尾瀬国立公園の美しい自然を、柴咲コウの楽曲に乗せた動画を作成(2021年6~8月)。 PR効果を高めるため、柴咲コウ「レトログラス」YouTubeチャンネルで尾瀬の日に配信開始(2021年8月30日)。(2021年度で事業終了) 		
目標値	期限	(いつまでに)	2021年10月までに	
	項目	(何を)	動画再生回数を	
	数値	(どうするか)	2万再生する(達成済) ※2022年10月末で3.9万再生	

17. 尾瀬歩荷の魅力発信事業				新規
実施主体	尾瀬小屋	連携先		
目的と概要	尾瀬歩荷の更なる理解と持続可能な労働として仕組みを見直す			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	30代~50代男女	
取組	状況	未実施	期間	2023年10月迄
	場所	尾瀬国立公園内		
	2023年度	以下、目標値参照。		
目標値	期限	(いつまでに)	2023年10月迄	
	項目	(何を)	歩荷さんの魅力や仕事内容を更なるターゲットに拡張する為	
	数値	(どうするか)	世界的映画監督である小島秀夫監督を尾瀬へ招致	

18. サッカー業界への尾瀬の発信				新規
実施主体	尾瀬小屋	連携先		
目的と概要	尾瀬の誘客			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	20代~30代男女	
取組	状況	未実施	期間	2023年10月迄
	場所	尾瀬国立公園内		
	2023年度	以下、目標値参照。		
目標値	期限	(いつまでに)	2023年10月迄	
	項目	(何を)	尾瀬全体の魅力発信を	
	数値	(どうするか)	プロサッカー選手を尾瀬へ招致しサッカー業界へ尾瀬を発信	

(4) 尾瀬ファン創出プログラム

- 本取組テーマでは、環境保全に資する行動の普及、啓発、ボランティア活動の充実、尾瀬ファンとの交流の3区分で、計4の取組を実施します。

○環境保全に資する行動の普及、啓発

- 尾瀬に来訪する利用者に環境保全に資する行動を取ってもらうために、入山時の注意やマナー等の普及、啓発を行います。

1. 至仏山の登山マナー啓発				継続
実施主体	至仏山保全対策会議	連携先	-	
目的と概要	至仏山登山者のマナーアップを図るため、至仏山マナーマップを作成してビジターセンターなどで配布するとともに、尾瀬保護財団のウェブサイトにも情報を掲載して啓発を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ ゴールデンウィーク中までの残雪期における入山についての注意事項周知 ・ 植生保護のための登山道閉鎖期間の設定（ゴールデンウィーク後～6月末まで） ・ 東面登山道の登り専用利用の徹底 ・ 携帯トイレの携行励行 ・ ストックキャップの使用励行 など 			
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬山の鼻ビジターセンター、尾瀬沼ビジターセンター）、情報媒体（尾瀬保護財団ウェブサイト）		
	実施済	配布物・掲示・財団HPを通じた啓発		
	2022年度	同上		
	2023年度	継続実施		

2. 財団HPでの情報提供及び電話での問い合わせ対応				継続
実施主体	(公財)尾瀬保護財団	連携先	-	
目的と概要	尾瀬への来訪を促進し、入山時の注意やマナーを啓発する為に、財団のホームページ上で、下記の情報を公開している。また、それに付随して、問合せ電話番号を公開し、尾瀬に関する情報提供を尾瀬山の鼻ビジターセンター、尾瀬沼ビジターセンター（以上シーズン中のみ）及び事務局で行っている。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路情報やアクセス情報等、尾瀬を訪問する際に必要な情報 ・ 尾瀬の歴史や取組等の尾瀬の知識を深める為の情報 ・ シーズン中の毎日の現地情報（ブログ）等 			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	国内、その他は特になし	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬山の鼻ビジターセンター、尾瀬沼ビジターセンター）、尾瀬外（尾瀬保護財団事務局）、情報媒体（尾瀬保護財団HP）		
	実施済	HP、電話での情報提供		
	2022年度	同上		
	2023年度	継続実施		

○ボランティア活動の充実

- ・ かけがえのない尾瀬をみんなで守り育て、次代に引き継いでいくために、利用者が保全活動に関われるプログラムや仕組みを充実させます。

3. 尾瀬ボランティア活動支援				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団	連携先	—	
目的と概要	財団が組織する尾瀬ボランティアの活動を支援する。 木道栈木打ち、移入植物駆除、シカ柵設置・撤去、巡回清掃、入山口啓発、定点解説、ボランティアガイド「尾瀬自然解説ガイド」など、入山マナー啓発や保護に関する取組を行っている。			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	国内、その他は特になし	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済	入山口啓発活動、移入植物駆除、シカ柵設置・撤去、巡回清掃		
	2022年度	同上		
	2023年度	継続実施		

4. 企業ボランティア活動支援				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団	連携先	関係企業	
目的と概要	巡回清掃、自治体等が整備するシカ柵の設置・撤去などに際し、企業からボランティア参加者を募っている。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、ファン戦略	ターゲット	国内、財団寄付者等	
取組	状況	実施中	期間	複数年
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]		
	実施済	巡回清掃、シカ柵設置・撤去作業		
	2022年度	同上		
	2023年度	継続実施		

○尾瀬ファンとの交流

- ・ 尾瀬関係者が尾瀬の価値を見なおし、再認識する機会として尾瀬ファンとの交流の場を設けます。

5. 尾瀬ファンとの交流				完了
実施主体	環境省	連携先	尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会	
目的と概要	尾瀬国立公園はリピート率や利用者満足度の高い公園であり、利用者ニーズの把握に向けた取り組みが実施され始めているが、山小屋やガイド以外の関係者が利用者と交流して意見交換を行う場が少なかった。そうした背景をもとに、これからの「みんなの尾瀬」を作っていくために、利用者との交流の場を設ける。			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	尾瀬の課題を認知しているものの地域関係者とのコネクションがなかったヘビーリピーター	
取組	状況	実施中	期間	単年 (2021年)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺] (片品村役場会議室)		
	実施済	尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会を対象において、尾瀬ファンとの交流会を開催して、ファンたちとの交流を図った。(2021年度で事業終了)		

(5) シビックプライド形成プログラム

- 本取組テーマでは、尾瀬での共同作業の実施、尾瀬を学ぶ場の機会の充実に関する取組の2区分で、計6の取組を実施します。

○尾瀬での共同作業の実施

- 尾瀬の自然環境を次代へ継承するために、ゼロカーボンの実現に向けた取組を行う。

1. 移入植物の駆除（オオハンゴンソウ、ハルザキヤマガラシ）				継続
実施主体	(公財) 尾瀬保護財団		連携先	尾瀬ボランティア、尾瀬ガイド協会、福島県、檜枝岐村、群馬県、片品村、環境省、会津森林管理署南会津支署など
目的と概要	特別保護地区を取り囲むエリアでは、車道沿いにおいて生態系に被害を及ぼすおそれのある移入植物の生育が確認されており、その対策を進める必要があることから、関係機関との連携のもと、特別保護地区を取り囲む登山口へ接続する車道沿いにおいて水際での侵入防止対策を行うことを目的とする。 具体的な種としては、オオハンゴンソウ及びハルザキヤマガラシについて対応を行う。			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	尾瀬地元関係者	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2014年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（小沢平登山口、津奈木一鳩待間の車道沿い、富士見下登山口手前の車道沿い ※いずれも国立公園特別保護区への接続域）		
	実施済	小沢平登山口に繁茂しているオオハンゴンソウについて、尾瀬ボランティア、尾瀬ガイド協会、福島県、檜枝岐村、環境省、会津森林管理署南会津支署などに御協力いただきながら駆除活動を継続中。 津奈木一鳩待間（ハルザキヤマガラシ）については、地元関係者と少人数での駆除活動を実施。富士見下登山口手前（オオハンゴンソウ）については、これまでの駆除活動の結果、繁茂を抑制できているため、経過観察を実施。		
	2022年度	同上		
2023年度	継続実施			

○尾瀬を学ぶ場の機会の充実

- ・ 尾瀬に対する理解を深め、愛着や誇りを醸成するために、自然体験や学習を通して、尾瀬を知り、体験する機会を充実させます。

2. 子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先	—	
目的と概要	<p>児童養護施設やフリースクールに通う子供たちに向けた国立公園の魅力発信と招待活動を行う。</p> <p>【魅力発信】四季折々の景色や動植物の生態、山小屋の生業、国立公園が抱える環境問題や保護への課題など、映像や写真を通して生徒様向けの講演活動や学校イベントに積極的に参加。</p> <p>【取組主旨】自身が児童養護施設で過ごした経験談や、不安定な心を登山や自然に身を置く事でコントロールしてきた経験談を公演。子供達の生活環境がハンデではないという事の意識付けや、過酷な環境下で働く先生たちの心のケアも含まれる。国立公園をリアルな教育現場そのものとし、五感で感じたものを日常生活に活かしてもらいたい。</p> <p>【体験造成】蛍・夜行性動物・星空観察などのナイトハイク。山岳地での夜間行動という非日常体験を味わう。夕焼けや朝焼けの観賞とヨガや体操。日本が誇る景色を見ながら、体を動かす楽しさを学ぶ。歩荷体験。重たい荷物を背負ってみる事で、恵まれた環境で過ごしている事を実感してもらおう。登山道整備。草刈りやゴミ拾いを通して、守られるべき自然やマナーを身に着ける。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	10代男女	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬小屋）、尾瀬外（社会福祉法人、学校等） 情報媒体（尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube）		
	実施済	社会福祉法人、学校の視察誘致、学生誘致に向けた活動を実施。2021年は新型コロナによる誘致断念。		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ■東京都社会福祉法人 福音寮にて施設長及び先生と対談。 ■福島県社会福祉法人 ゆめみの里先生視察誘致。 ■神奈川県一般社団法人 YUME スクールにて中学生向けの公演活動を実施。 ■学校法人松陰高等学校 川崎校にて高校生向け公演活動を実施。 ■ハッピーライフケア グローバルキッズメソッド小山駅東施設園長視察誘致。 ■camping with soul 社と港区児童支援センターと今後の取り組みを協議。 		
2023年度	■2022年同様、尾瀬への視察。誘致、施設への訪問を継続。新規10施設を目標とする。			

3. 「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進事業				完了
実施主体	「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会（新潟県魚沼地域振興局、魚沼市、（一社）魚沼市観光協会）		連携先	新潟県教育委員会、新潟市教育委員会等
目的と概要	新潟県魚沼地域振興局では、尾瀬での自然体験と奥只見開発の歴史学習を通して子どもたちの豊かな心と自然との調和を図るたくましい実践力を育成するため、2009年度に小中学生向けの「魚沼から行く尾瀬」環境学習プログラムを作成した。「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会は、県内（魚沼市を除く）小中学校での尾瀬を活用した環境学習の普及を推進している。			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	県内（魚沼市以外）の小中学校	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2009年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼他）		
	実施済	県内（魚沼市以外）の小学校1校が1泊2日で尾瀬沼に行き、自然体験学習を実施。		
	2022年度	廃止		

4. 尾瀬ネイチャーガイド養成事業				継続
実施主体	「魚沼から行く尾瀬」環境学習推進協議会（2023年度） * 「魚沼から行く尾瀬」誘客推進協議会（新潟県魚沼地域振興局、魚沼市、（一社）魚沼市観光協会）（2022年度）		連携先	奥只見郷ネイチャーガイド等
目的と概要	尾瀬⇄魚沼ルート利用者に対するガイド業務が継続的に行われるよう、後継者確保を目的に尾瀬ネイチャーガイドを養成する。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	トレッキング愛好家、環境保全に関心のある層（副業、第2の職業）	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2017年～）
	場所	尾瀬内[公園内+周辺]（尾瀬沼他）、尾瀬外（魚沼市インフォメーションセンター）		
	実施済	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施し、魚沼市内外から8名が受講。		
	2022年度	尾瀬ネイチャーガイド養成講座を実施し、魚沼市内外から5名が受講。		

5. 尾瀬サステイナブルプラン（尾瀬シーズンズスクール・尾瀬ネイチャーラーニング）				継続
実施主体	群馬県	連携先	—	
目的と概要	<p>尾瀬の魅力を生かし、実社会での課題解決に生かす教科横断的な教育であるSTEAM教育を展開します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・尾瀬シーズンズスクール：民間主体によるハイクオリティなSTEAM教育の事業化に向け、事業モデル（スキーム）を検討 ・尾瀬ネイチャーラーニング：入門的なSTEAM教育の題材として尾瀬を訪れた県内外の小中学校等にガイド代等を支援（補助） 			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	学校や社会教育関係団体、尾瀬での学習意欲のある学生・社会人	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2021年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬国立公園内、小中学校等（事前学習・事後学習））		
	実施済	尾瀬シーズンズスクール：2021年度は、モニター事業を実施した。 尾瀬ネイチャーラーニング：補助事業を実施した。		
	2022年度	尾瀬シーズンズスクール：2022年度は、モデル事業を実施した。 尾瀬ネイチャーラーニング：補助事業を実施した。		
	2023年度	継続予定		

6. 尾瀬環境学習推進				継続
実施主体	群馬県	連携先	—	
目的と概要	<p>環境学習の場としての尾瀬の利用を促進するため、山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー及び尾瀬ネイチャーラーニングの受け入れ協力を実施するとともに、県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座を開催します。</p>			
主な該当戦略	ビギナー戦略	ターゲット	入山者全般、小中学校・公民館	
取組	状況	実施中	期間	複数年（2019年～）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（尾瀬国立公園内）、尾瀬外（県内の小中学校、公民館等）		
	実施済	山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー 県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座		
	2022年度	山の鼻ビジターセンターにおいて、展示や環境学習ミニガイドツアー 実施済み 県内の小中学校や公民館等で移動尾瀬自然教室や出前講座 実施中		
	2023年度	継続予定		

7. ふくしま子ども自然環境学習推進事業				新規
実施主体	尾瀬環境学習推進協議会事務局（檜枝岐村）	連携先	福島県、檜枝岐村、南会津町	
目的と概要	<p>本県の子供達を対象に、尾瀬の優れた自然環境の中で行う質の高い環境学習を推進し、生物多様性に対する意識の醸成を図り、豊かな自然環境を次世代に継承する。</p>			
取組	状況	実施中	期間	複数年（2011年～2023年）
	場所	尾瀬内〔公園内＋周辺〕（福島県側の尾瀬国立公園と玄関口となる檜枝岐村及び南会津町）		
	2023年度	・県内の小中学校、特別支援学校が日帰り・1泊2日等で尾瀬に行き環境学習を実施。		
目標値	期限	（いつまでに）	2023年度末	
	項目	（何を）	環境学習参加者数	
	数値	（どうするか）	年間700名	

(6) 脱炭素・循環型公園プログラム

- 本取組テーマでは、ゼロカーボン実現に向けた取組、資源循環に関する取組の2区分で、計3の取組を実施します。

○ゼロカーボン実現に向けた取組

- 尾瀬の自然環境を次代へ継承するために、ゼロカーボンの実現に向けた取組を行う。

1. 「尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク」アクションプログラム				継続
実施主体	東京電力ホールディングス株式会社、東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所		連携先	片品村むらづくり観光課
目的と概要	環境省が登録認定を行う「ゼロカーボンパーク」の実効性を高めるため、2022年度～2030年度までの実行計画を策定。片品村が改訂を予定している「片品村地球温暖化防止実行計画」との連動により、尾瀬国立公園内の脱炭素化、および片品村村内の脱炭素化に向けたアクションプランプログラムの策定とPDCAを展開する。計画策定事務局は、片品村むらづくり観光課と東京電力ホールディングス株式会社 ESG推進室の共同事務局により実施予定。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	ターゲットは【脱炭素や自然環境保全保護を意識した尾瀬利用者】【再エネ利用住宅など、脱炭素を指向するIUターンの若者／子育て世代など新規片品村移住者】【既在住片品村村民の尾瀬自然環境保全活動の参加など尾瀬ボランティア化】等が特長	
取組	状況	実施中	期間	複数年(2022年～)
	場所	(尾瀬国立公園内、尾瀬の麓の集落)、尾瀬外(片品村内全域)、情報媒体(Web:片品村、東京電力ホールディングス(株)、東京パワーテクノロジー(株)尾瀬林業事業所他、その他実行委員会メンバーなど実施主体)		
	実施済	尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク登録に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【登録認定】尾瀬周辺市町村のゼロカーボンシティ宣言、尾瀬国立公園のゼロカーボンパーク宣言 ②【地産地消】尾瀬の木道にFSC認証を受けた地元カラマツ材使用 ③【リサイクル】尾瀬の木道リサイクルペーパーの積極的活用		
2022年度	2022年度尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク実装に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【実行委員会設立】ゼロカーボンパーク実行委員会を設立し、「脱炭素アクションプラン」のための重点実施事項を策定(2022年度3月末) ②【尾瀬の役割認知度向上】本州最大の高層湿原による炭素固定吸収の役割、地球温暖化が及ぼす尾瀬への影響 ③【電化、EV普及啓発】会津高原尾瀬口～御池でもEVバス運行、レンタサイクルをe-bike化と充電ステーション設置を検討 ④【リサイクル】山小屋での地元食材を使った料理提供(フードマイレージ)、マイバック・マイボトルの普及啓発、モバイルバッテリーレンタルサービス ⑤【サステナブルツーリズム×ゼロカーボン観光】脱炭素アクションを盛り込んだ首都圏中学校などの次世代層を対象にした「SDGs探求型スタディツアー」をモニター実施			
2023年度	2023年度尾瀬国立公園ゼロカーボンパーク実装に向けた「脱炭素アクションプラン」を実施 ①【山小屋の脱炭素化】高効率給湯器(エコキュート)導入、LED導入、鳩待山荘建替工事開始(再エネ電化)食事・お土産物の脱プラスチックへの取り組みを加速			

		②【村内の脱炭素化、再エネ導入】尾瀬片品小水力発電所の運転開始、移住定住促進住宅基本計画策定		
目標値	期限	(いつまでに)	2022年度までに	2023年度までに
	項目	(何を)	①、②、③のすべてを	①、②、③のすべてを
	数値	(どうするか)	実施済(実施率100%)	実施する(実施率100%)

2. ゼロカーボンシティ表明とゼロカーボンパークの登録				継続
実施主体	片品村	連携先	東京パワーテクノロジー株式会社 環境事業部 尾瀬林業事業所	
目的と概要	2022年2月22日に表明した、温室効果ガス排出量ゼロを目指すゼロカーボンシティ「片品村5つのゼロ宣言2050」に基づき、具体的な取組を推進していく。			
主な該当戦略	ビギナー戦略、リピーター戦略、ファン戦略	ターゲット	-	
取組	状況	実施中	期間	単年(2021年～)
	実施済	国立公園内における電気自動車の活用や利用施設における再生可能エネルギーの活用、地産地消等の取組を進め 脱プラスチックも含めて脱炭素の観光地を目指すため、ゼロカーボンパーク登録を行う(登録関係書類提出済み)。		
	2022年度	尾瀬かたしなゼロカーボンパーク実行委員会の設立 今後の取り組み等について委員会やワークショップの実施、今後は分科会を開催する予定。		
	2023年度	委員会での取り組み等		

○資源循環に関する取組

- 尾瀬の自然環境への負荷を低減するために、循環的な利用を促進するための取組を行う。

3. 鹿の食害問題の訴求				継続
実施主体	尾瀬小屋	連携先	-	
目的と概要	尾瀬小屋は、「食べる」というアクションを通して、国立公園が抱える鹿の食害問題を訴していく。 <ul style="list-style-type: none"> 尾瀬を身近に想う方々の間では、ミズバショウやニッコウキスゲがなければ、尾瀬が尾瀬でなくなってしまうという危機感が高まる半面、尾瀬を守るために奪われた鹿の命がある事、その鹿の命を大切に活かし、人の暮らしの中で役立て、命の尊さを感じてほしい。 尾瀬の鹿は利活用される事なく食用として提供する事も叶わない状況にあるが、人間が山を楽しむ背景にはこうした命のやり取りがある事を伝えるべく、尾瀬小屋はあえて出荷制限が解除された鹿を尾瀬で「食べる」事を実現し、尾瀬鹿の食害問題を訴求する。 			
主な該当戦略	ファン戦略	ターゲット	30代～50代男女	
取組	状況	今後実施予定	期間	複数年(2022年～)
	場所	尾瀬内[公園内+周辺](尾瀬小屋)、 情報媒体(尾瀬小屋 Instagram、Twitter、Facebook、YouTube)		
	2022年度	<ul style="list-style-type: none"> ■2022年尾瀬国立公園内にてジビエ料理の提供に成功。 ■ジビエ料理の収益の一部、5万円を尾瀬シカプロジェクトに寄付を行った。 ■川崎重工業様と駆除後の鹿の運搬について協議。 ■ノースフェイストップデザイナーの大貫達正氏と面談。 鹿革を利用した、アパレル商品への利活用を協議。事業計画立案に着手。 <ul style="list-style-type: none"> ■尾瀬小屋内に鹿のはく製及び、鹿の角を展示。身近で鹿に触れる機会を演出。 		
	2023年度	<ul style="list-style-type: none"> ■2022年同様、ジビエ料理の展開を行い、鹿の食害問題を訴求。 ■川崎重工業、他、関係機関と鹿の利活用の未来を協議・模索。 		

7. 進捗状況評価と必要に応じた利用 AP の改訂

本行動プランは、策定後に利用促進に関わる新たな会議体にて尾瀬の利用に関わる各主体が情報共有を図りながら各取組をそれぞれで実施します。

(1) 進捗状況の評価

- ・ 社会・経済環境の変化や利用状況の変化に対して、順応的な管理が行えるよう、毎年、取組毎に進捗状況やその効果と、KPI の達成状況について定期的に評価・検証を行います。
- ・ その評価を踏まえて、その後の取組や KPI を随時、改善します。

(2) 必要に応じた利用 AP の改訂

- ・ 利用 AP の見直しに当たっては、取組（プログラム）の実施状況や新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえながら、利用状況及び利用動態等に関するモニタリング情報等を反映し、利用状況や自然環境、社会状況の変化に対応した、順応的な改訂を図ります。

以上

尾瀨利用状況調査 (2022年度版)

※利用AP検討委員会資料抜粋

調査報告書 (入山口別)

環境省・尾瀨保護財団

協力：東京大学

東京大学大学院(農)

准教授 山本清龍



調査風景(10/2鳩待峠)

調査の目的と方法

1. 調査目的

- 尾瀬国立公園利用者の満足度と旅行消費額等の把握

2. 調査方法

主要登山口における協力依頼

(郵送による回答とGoogleフォームによる回答)

3. 調査期間

- 2022年 7/16(土)～11/15(火) ※終期は昨年度と統一

4. 調査実施者

- 環境省, 尾瀬保護財団 (協力: 東京大学)

各調査日の配布数, 回収数, 拒否率など(1)

■第1回調査: 7/16-17(土・日)

調査地	配布数	調査票 回収数(率)	Google 回答数(率)	拒否数(率)	回収数(率)
鳩待峠	1,100	315(28.6%)	111(10.1%)	46(4.2%)	426(38.7%)
大清水	243	79(32.5%)	25(10.3%)	12(4.9%)	104(42.8%)
御池・沼山峠	700	246(35.1%)	48(6.9%)	4(0.6%)	294(42.0%)
計	2,043	640(31.3%)	184(9.0%)	62(3.0%)	824(40.3%)

■第2回調査: 8/11(木・祝), 8/13-14(土・日), 9/17-18(土・日)

調査地	配布数	調査票 回収数(率)	Google 回答数(率)	拒否数(率)	回収数(率)
滝沢	174	47(27.0%)	29(16.7%)	4(2.3%)	76(43.7%)
猿倉・馬坂峠	135	55(40.7%)	11(8.1%)	0(0.0%)	66(48.9%)
計	309	102(33.0%)	40(12.9%)	4(1.3%)	142(46.0%)

各調査日の配布数, 回収数, 拒否率など(2)

■第3回調査: 10/1-2(土・日)

調査地	配布数	調査票 回収数(率)	Google 回答数(率)	拒否数(率)	回収数(率)
鳩待峠	597	228(38.2%)	59(9.9%)	41(6.9%)	287(48.1%)
大清水	344	118(34.3%)	42(12.2%)	16(4.7%)	160(46.5%)
御池・沼山峠	400	145(36.3%)	20(5.0%)	1(0.3%)	165(41.3%)
計	1341	491(36.6%)	121(9.0%)	58(4.3%)	612(45.6%)

下記回答のうち, 無回答項目が多かったものを除き,
1,525通を集計, 分析

■合計: 第1~第3回調査

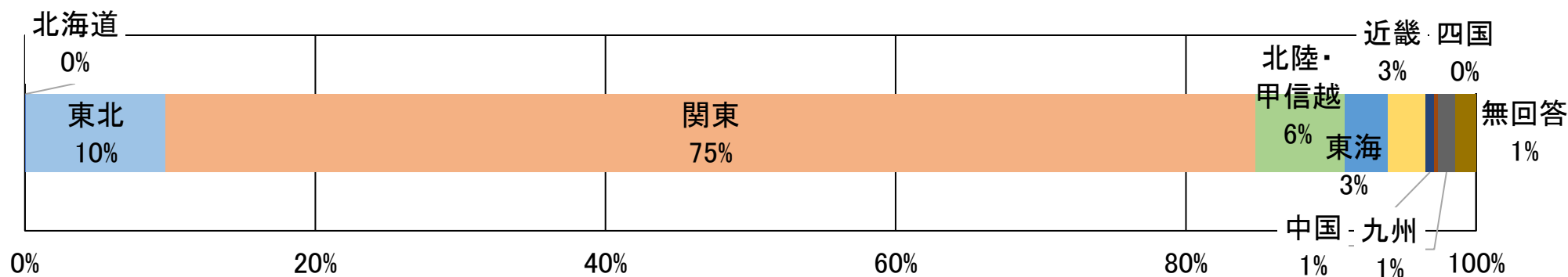
調査地	配布数	調査票 回収数(率)	Google 回答数(率)	拒否数(率)	回収数(率)
鳩待峠	1,697	543(32.0%)	170(10.0%)	87(5.1%)	713(42.0%)
大清水	587	197(33.6%)	67(11.4%)	28(4.8%)	264(45.0%)
御池・沼山峠	1,100	391(35.5%)	68(6.2%)	5(0.5%)	459(41.7%)
滝沢	174	47(27.0%)	29(16.7%)	4(2.3%)	76(43.7%)
猿倉・馬坂峠	135	55(40.7%)	11(8.1%)	0(0.0%)	66(48.9%)
計	3,693	1,233(33.4%)	345(9.3%)	124(3.4%)	1,578(42.7%)

入山口別回答者の基本属性(1)

年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	無回答	平均年齢	男性	女性	その他	回答しない	無回答
鳩待峠 (N=686)	0%	6%	7%	19%	30%	24%	12%	1%	0%	54.4	49%	49%	0%	0%	2%
大清水 (N=252)	0%	5%	15%	11%	23%	29%	15%	1%	0%	55.5	56%	44%	0%	0%	0%
沼山峠 (N=268)	0%	3%	6%	15%	27%	32%	13%	3%	0%	56.8	49%	49%	0%	1%	2%
御池 (N=166)	0%	4%	7%	14%	31%	32%	10%	1%	1%	55.9	51%	46%	0%	0%	3%
滝沢 (N=67)	0%	1%	13%	36%	25%	18%	4%	0%	1%	49.9	64%	34%	1%	0%	0%
猿倉 (N=49)	0%	4%	8%	10%	37%	22%	12%	6%	0%	57.4	65%	33%	0%	0%	2%
馬坂峠 (N=9)	0%	0%	22%	22%	33%	22%	0%	0%	0%	50.0	44%	56%	0%	0%	0%
その他 (N=7)	0%	0%	0%	29%	43%	14%	0%	14%	0%	56.1	86%	14%	0%	0%	0%
無回答 (N=21)	0%	0%	14%	10%	38%	29%	0%	5%	5%	55.0	38%	62%	0%	0%	0%
計 (N=1525)	0%	5%	8%	18%	29%	27%	12%	2%	1%	55.1	52%	47%	0%	0%	2%

入山口別回答者の基本属性(2)

交通手段	マイカー・レンタカー	公共交通(電車・バス)	ツアー	その他	無回答
鳩待峠(N=686)	61%	26%	18%	1%	0%
大清水(N=252)	65%	32%	10%	2%	1%
沼山峠(N=268)	58%	29%	18%	0%	3%
御池(N=166)	83%	20%	4%	1%	1%
滝沢(N=67)	94%	10%	0%	1%	0%
猿倉(N=49)	92%	0%	0%	2%	6%
馬坂峠(N=9)	100%	11%	0%	0%	0%
その他(N=7)	100%	0%	0%	14%	0%
無回答(N=21)	67%	24%	19%	5%	0%
計(N=1525)	66%	25%	14%	1%	1%



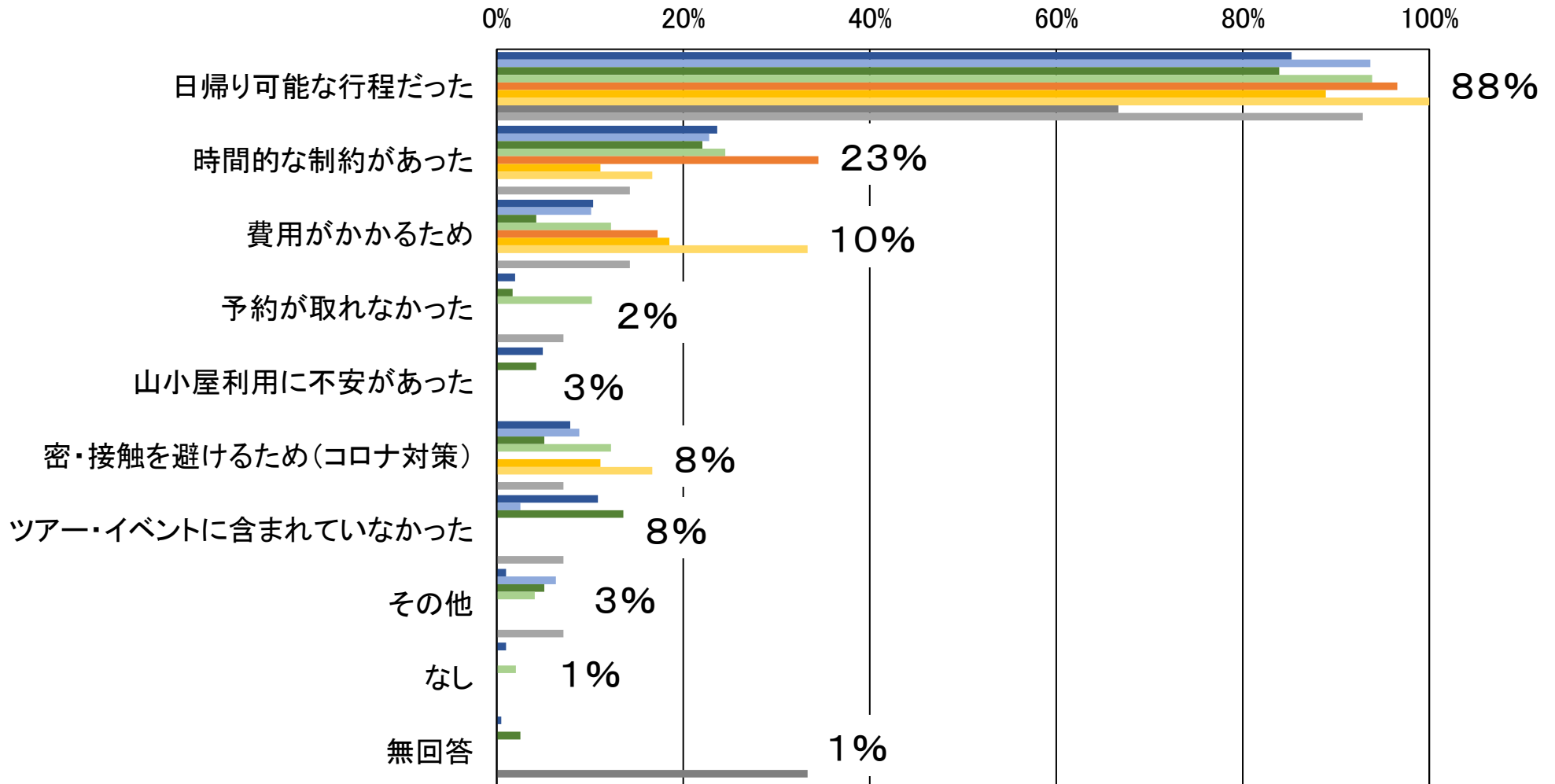
入山口別回答者の登山特性(来訪回数)

尾瀬来訪 経験	初めて	2回目	3~5 回目	6~9 回目	10~19 回目	20回 以上	無回答	年平均 来訪回数	0~2 回未満	2~3 回未満	3~4 回未満	4回 以上	無回答
鳩待峠 (N=686)	36%	20%	24%	10%	6%	3%	0%	鳩待峠 (N=686)	88%	4%	2%	1%	5%
大清水 (N=252)	22%	19%	26%	13%	11%	10%	0%	大清水 (N=252)	83%	7%	3%	4%	3%
沼山峠 (N=268)	26%	19%	24%	13%	11%	6%	1%	沼山峠 (N=268)	78%	7%	3%	1%	10%
御池 (N=166)	23%	23%	25%	14%	7%	6%	1%	御池 (N=166)	73%	10%	2%	3%	11%
滝沢 (N=67)	16%	15%	34%	16%	9%	9%	0%	滝沢 (N=67)	72%	9%	7%	7%	4%
猿倉 (N=49)	14%	12%	27%	10%	18%	18%	0%	猿倉 (N=49)	65%	20%	2%	12%	0%
馬坂峠 (N=9)	0%	33%	33%	11%	0%	22%	0%	馬坂峠 (N=9)	67%	22%	11%	0%	0%
その他 (N=7)	14%	0%	29%	29%	0%	14%	14%	その他 (N=7)	71%	14%	0%	0%	14%
無回答 (N=21)	24%	19%	19%	14%	10%	14%	0%	無回答 (N=21)	67%	10%	5%	5%	14%
計 (N=1525)	28%	20%	25%	12%	8%	6%	1%	計 (N=1525)	82%	7%	3%	2%	6%

入山口別回答者の登山特性(非宿泊の理由)

(N=528) 複数回答
 グラフの右は各項目の全体の値

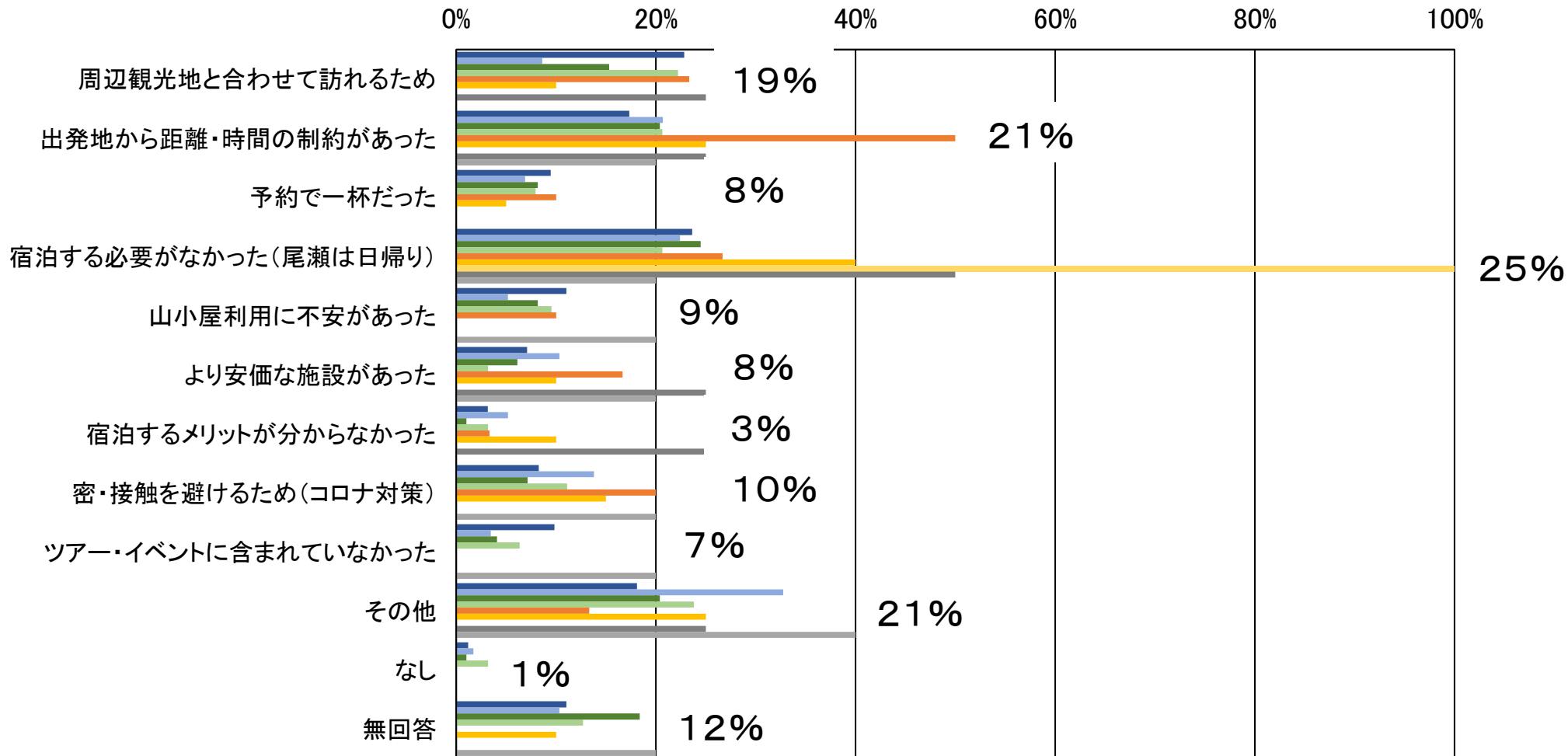
■ 鳩待峠(N=203) ■ 大清水(N=79) ■ 沼山峠(N=118) ■ 御池(N=49) ■ 滝沢(N=29)
 ■ 猿倉(N=27) ■ 馬坂峠(N=6) ■ その他(N=3) ■ 無回答(N=14)



入山口別回答者の登山特性(山小屋非宿泊理由)

(N=535) 複数回答
グラフの右は各項目の全体の値

■ 鳩待峠(N=254) ■ 大清水(N=58) ■ 沼山峠(N=98) ■ 御池(N=63) ■ 滝沢(N=30)
■ 猿倉(N=20) ■ 馬坂峠(N=3) ■ その他(N=4) ■ 無回答(N=5)



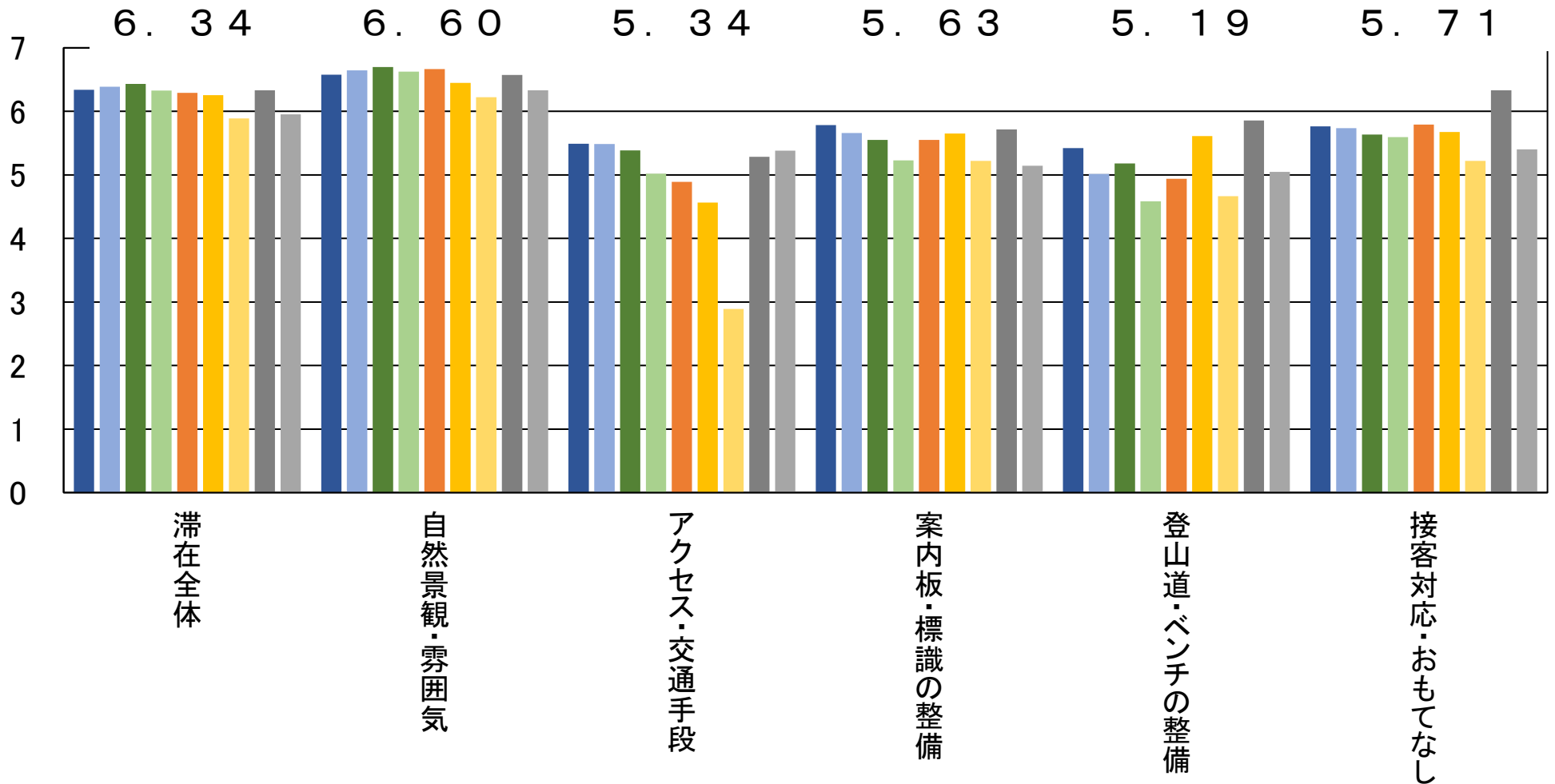
入山口別回答者の尾瀬登山満足度

(N=1525)

グラフの上は各項目の全体の値

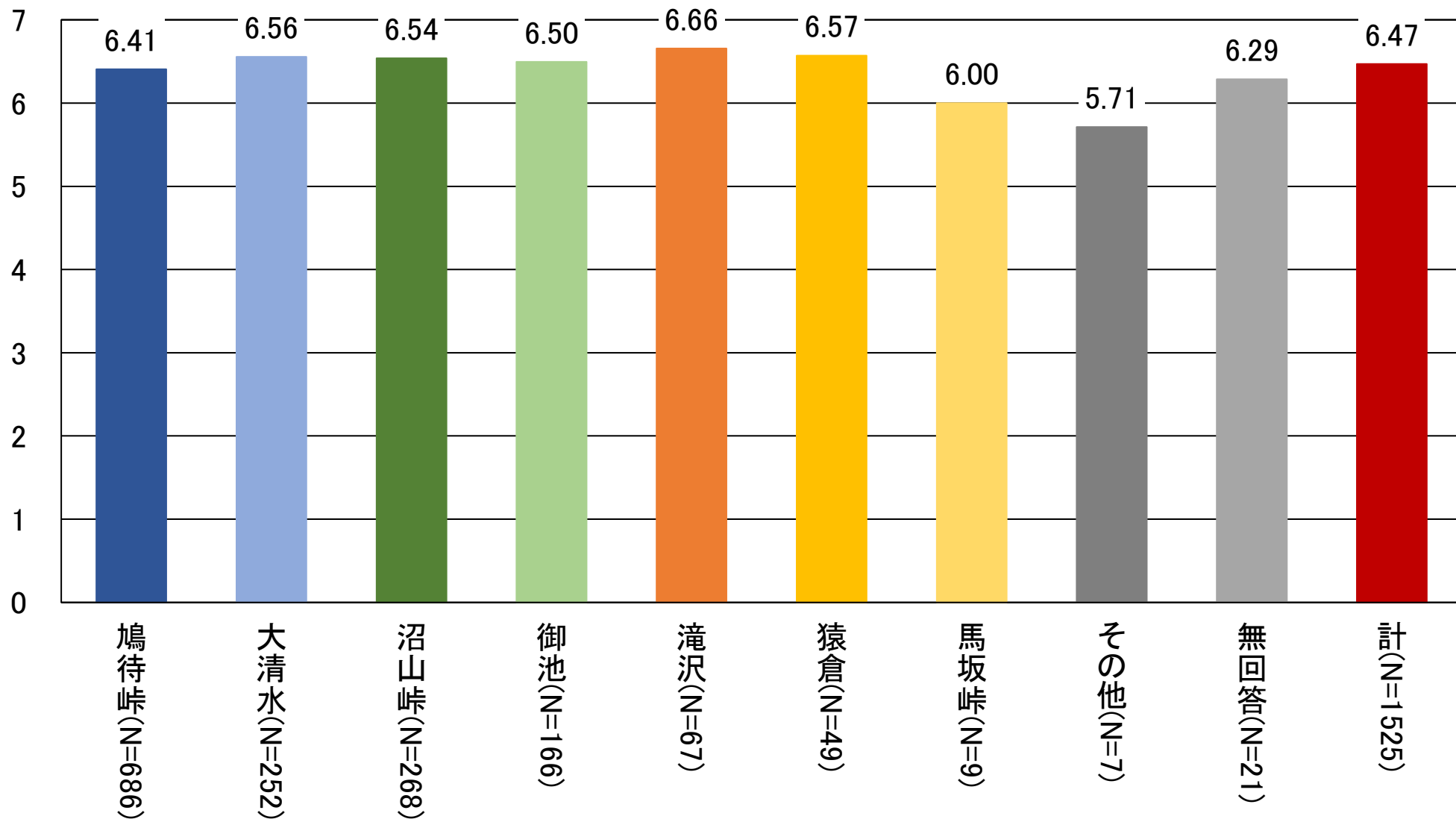
■ 鳩待峠(N=686)
 ■ 大清水(N=252)
 ■ 沼山峠(N=268)
 ■ 御池(N=166)
 ■ 滝沢(N=67)

■ 猿倉(N=49)
 ■ 馬坂峠(N=9)
 ■ その他(N=7)
 ■ 無回答(N=21)



入山口別回答者の再訪意向

(N=1525)

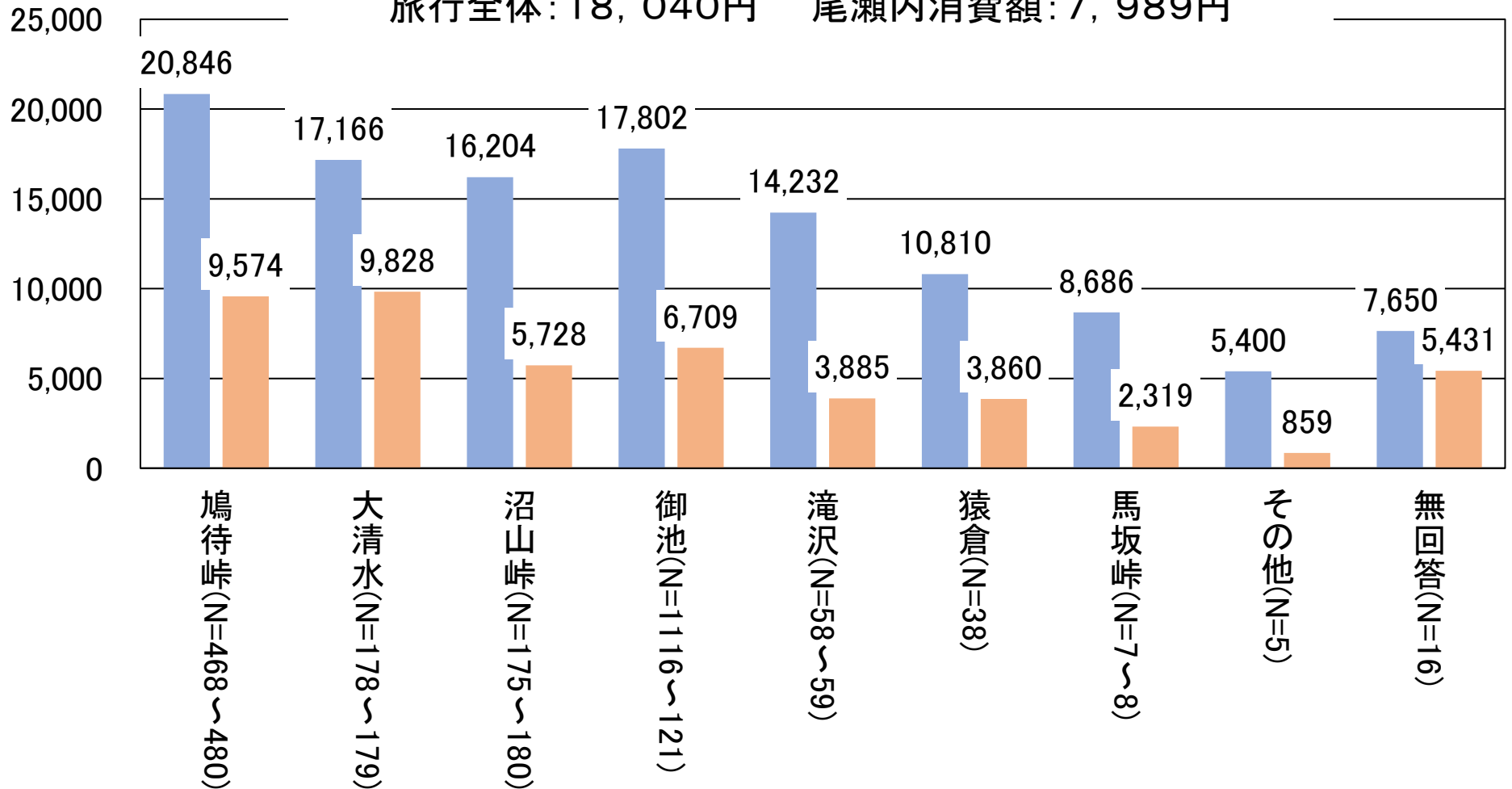


入山口別回答者の1人あたりの旅行消費額

(N=1525) 無回答は回答から除外
グラフの上は各項目の全体の値

■ 旅行全体 ■ 尾瀬内消費額

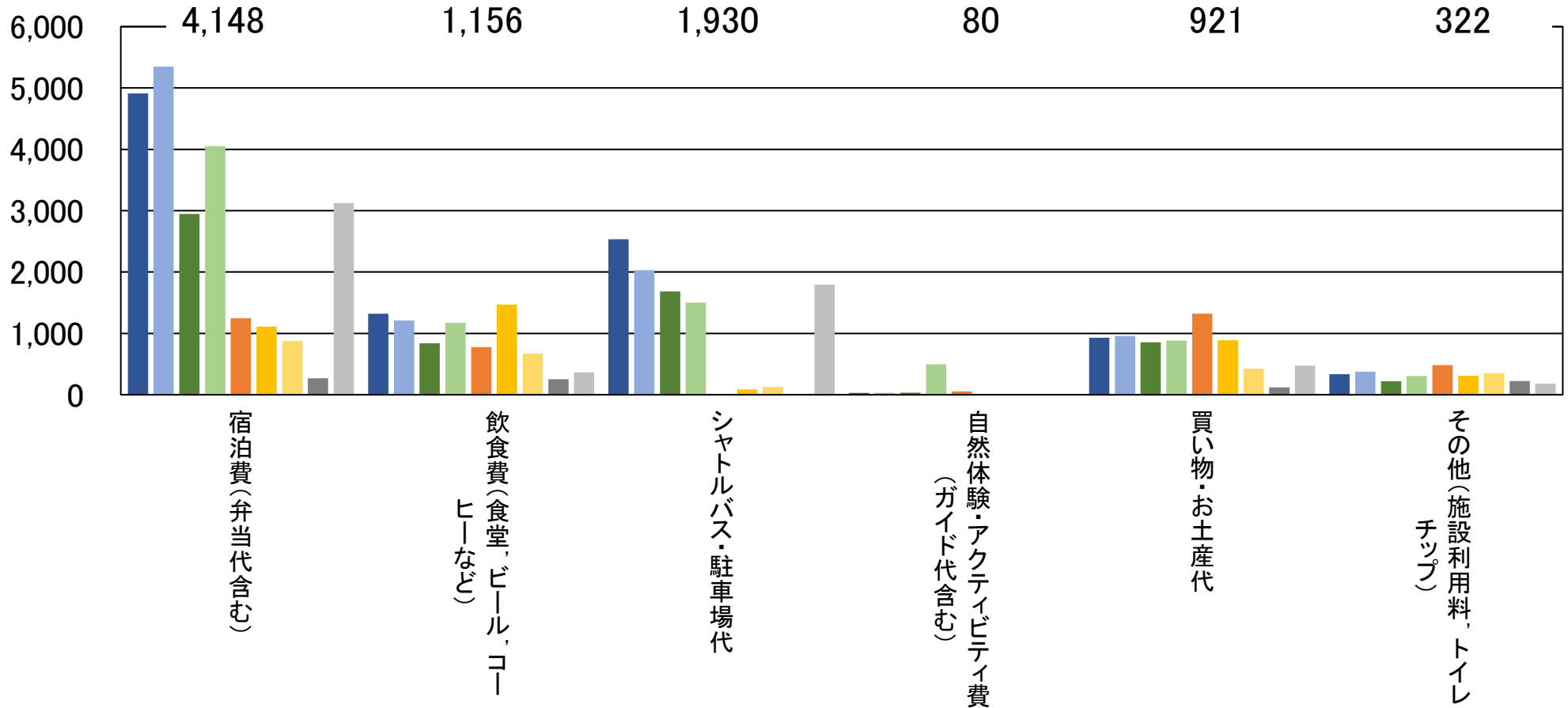
旅行全体: 18,040円 尾瀬内消費額: 7,989円



項目別1人あたりの尾瀬地域内旅行消費額

(N=1525) 無回答は回答から除外
グラフの上は各項目の全体の値

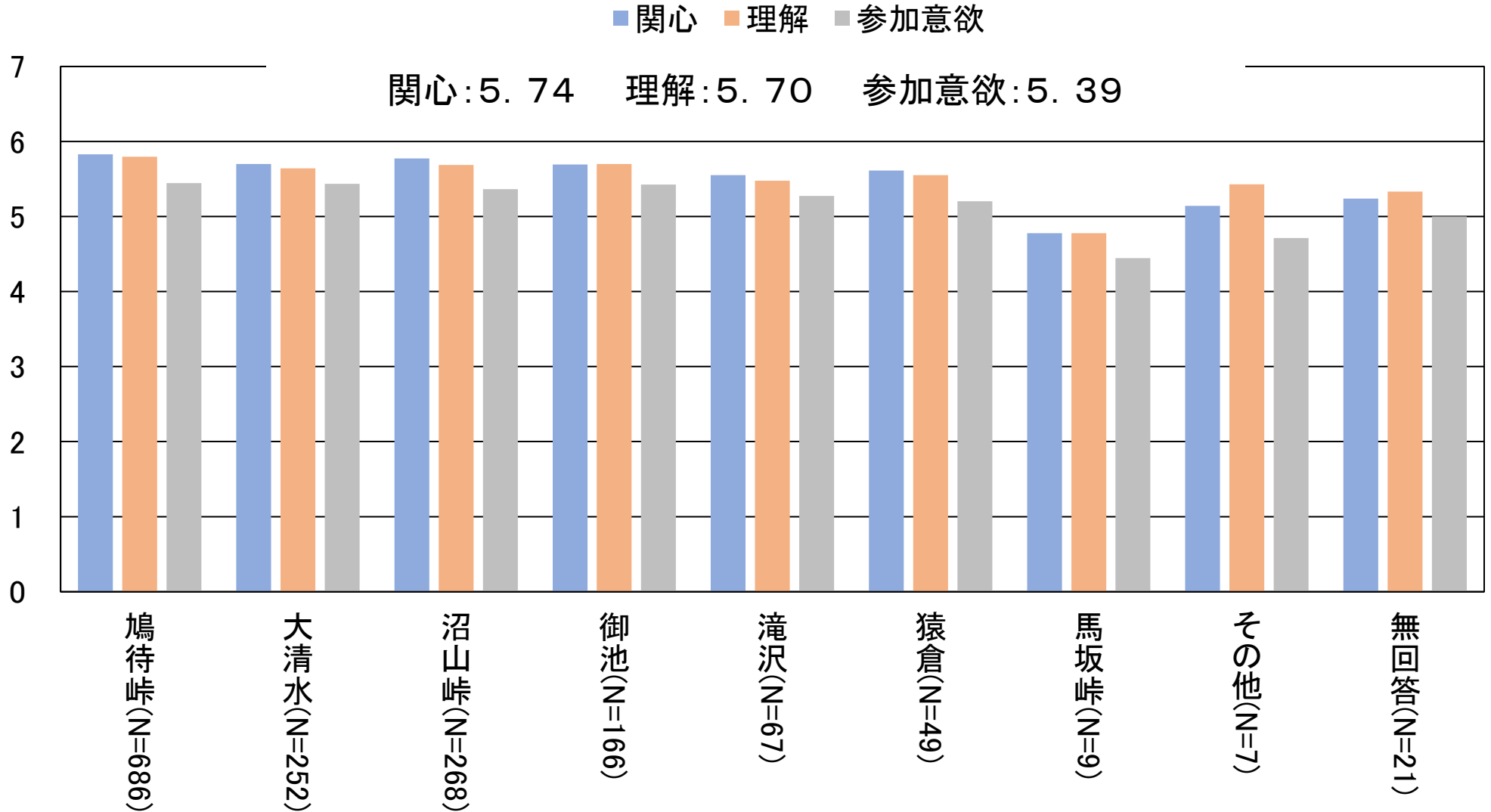
- 鳩待峠(N=468~480) ■ 大清水(N=178~179) ■ 沼山峠(N=175~180)
- 御池(N=1116~121) ■ 滝沢(N=58~59) ■ 猿倉(N=38)
- 馬坂峠(N=7~8) ■ その他(N=5) ■ 無回答(N=16)



尾瀬保全活動に対する関心・理解・参加意欲の変化度

(N=1525)

グラフの上は各項目の全体の値



宿泊の有無による回答の差異

項目	カテゴリー	宿泊あり (N=997)	宿泊なし (N=528)	有意 判定
満足度	全体	6.37	6.31	
	自然	6.63	6.58	
	アクセス	5.34	5.37	
	案内板	5.67	5.57	
	登山道	5.22	5.16	
	接客	5.66	5.80	*(t)
再訪意向		6.49	6.45	
意識変化	関心	5.76	5.73	
	理解	5.74	5.64	
	参加意欲	5.39	5.41	

注) 宿泊の有無に対する無回答をサンプルから除外した。各カテゴリーは7段階評価である。検定は等分散性の検定後にWelch検定, t検定をそれぞれ行い, 有意な差異 (P<.05=*, P<.01=**) か否か判定を行った。

項目	カテゴリー	宿泊あり (N=486)	宿泊なし (N=350)	有意 判定
旅行 消費額 (円)	旅行全体	24,114	8,461	** (welch)
	宿泊費	8,481	0	** (welch)
	飲食費	1,816	567	** (welch)
	バス駐車場	2,177	1,858	
	自然体験	145	29	** (t)
	買い物	1,201	660	** (welch)
	その他	0	0	
尾瀬内計	13,300	3,203	** (welch)	

注) 宿泊の有無に対する無回答をサンプルから除外し, さらに, 宿泊の有無と旅行消費額の回答に整合性が無い回答を除外した。検定は等分散性の検定後にWelch検定, t検定をそれぞれ行い, 有意な差異 (P<.05=*, P<.01=**) か否か判定を行った。

来訪回数(初めてと2回以上)による回答の差異

項目	カテゴリー	初めて (N=430)	2回以上 (N=1086)	有意 判定
満足度	全体	6.34	6.35	
	自然	6.68	6.58	*(welch)
	アクセス	5.27	5.38	
	案内板	5.71	5.60	
	登山道	5.34	5.14	*(t)
	接客	5.72	5.70	
再訪意向		6.37	6.52	*(welch)
意識変化	関心	5.82	5.72	
	理解	5.84	5.65	*(t)
	参加意欲	5.44	5.38	

注) 来訪回数に対する無回答をサンプルから除外した。各カテゴリーは7段階評価である。検定は等分散性の検定後にWelch検定, t検定をそれぞれ行い, 有意な差異 (P<.05=*, P<.01=**) か否か判定を行った。

項目	カテゴリー	初めて (N=216)	2回以上 (N=616)	有意 判定
旅行 消費額 (円)	旅行全体	21,939	15,985	** (welch)
	宿泊費	5,975	4,559	** (t)
	飲食費	1,451	1,241	
	バス駐車場	2,342	1,939	*(t)
	自然体験	51	113	
	買い物	849	1,021	
	その他	0	0	
尾瀬内計	10,472	8,590	** (t)	

注) 来訪回数に対する無回答をサンプルから除外し, さらに, 来訪回数と旅行消費額の回答に整合性が無い回答を除外した。検定は等分散性の検定後にWelch検定, t検定をそれぞれ行い, 有意な差異 (P<.05=*, P<.01=**) か否か判定を行った。

まとめ①

1. 登山者の基本属性と登山特性

- 基本属性をみると、年代は50～60代が56%、関東地方からの来訪者が75%で最も多い。
- 登山特性をみると、リピーターが約7割で多く、年0～2回未満の訪問者が82%で最も多い。

2. 滞在型の国立公園利用にむけて

- 宿泊しない理由としては、日帰り可能な行程だったが最も多く、密・接触を避けるため（コロナ対策）の回答数も一定数みられ、引き続き感染症パンデミックの影響をみてとれる。
- 山小屋に宿泊しない理由としては、宿泊する必要がなかった（尾瀬は日帰り）が多く、次いで、出発地から距離・時間の制約があったが多いが、回答が集中する選択肢はない。

まとめ②

3. 回答者の満足度

- 自然環境・雰囲気の平均評価得点（7点満点評価（以下、同様））が最も高く6.60，登山道・ベンチの整備が最も低く5.19であるが，いずれの項目も肯定的に評価されている。
- 再訪意向は6.47と高い。

4. 旅行消費額

- 旅行全体の消費額の平均は18,040円，尾瀬内旅行消費額の平均は7,989円であり，自然体験・アクティビティ費は80円，買い物・お土産代は921円となり少ない。

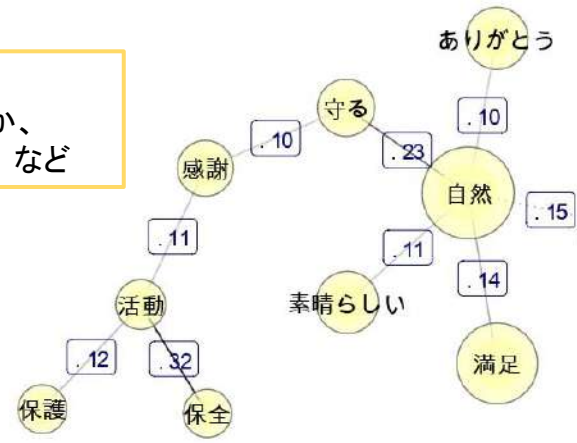
5. 尾瀬保全活動に対する関心・理解・参加意欲

- 関心の変化度（7点段階評価（以下、同様））が最も高く5.74，参加意欲の変化度が最も低く5.39である。
- 変化のきっかけとしては，素晴らしい自然を体感してが78%で最も多く，次いで尾瀬をまもる取組を見てが多い。

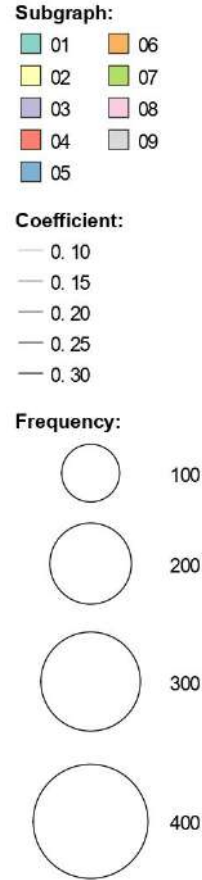
尾瀬利用状況調査(2022年度)における尾瀬への意見・感想(テキストマイニング結果)

※最小出現数30で上位50位まで抽出 ※■は関連キーワードを記載

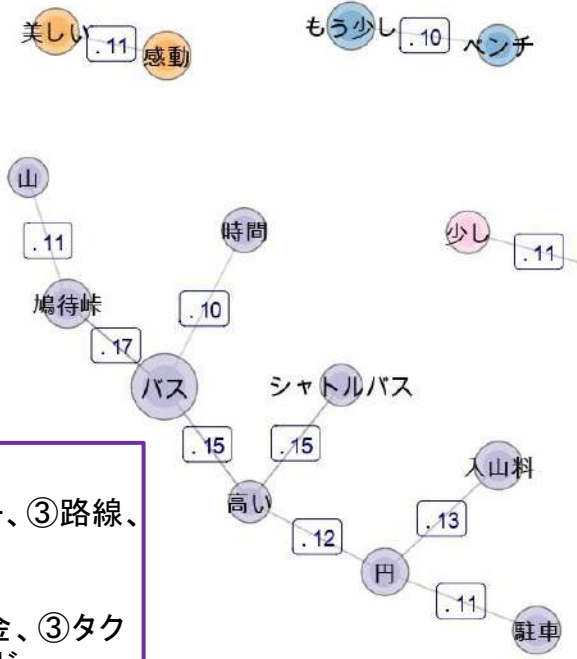
■自然
 ①美しい、②豊か、
 ③環境、④残す など



■木道
 ①整備、②壊れる、
 ③滑る、④傷む など
 ■整備
 ①環境、②お願い、
 ③大変、④欲しい など
 ■トイレ
 ①チップ、②使用、
 ③ない、④沼尻 など
 ■思う
 ①ない、②良い、
 ③欲しい、④必要 など



■バス
 ①乗合、②ツアー、③路線、
 ④運転手 など
 ■高い
 ①感じる、②料金、③タク
 シー、④運賃 など



■案内
 ①標識、②看板、③表示、④ など
 ■分かる
 ①にくい、②ない、③やすい、④づらい など

尾瀬における携帯電話等の通信環境の整備について

<経緯>

平成 28 年度：KDDI (株)からの相談を受け、尾瀬国立公園協議会において山小屋等の室内及びその周辺に限り、携帯電話等の通信環境を整備することについて合意

平成 29 年度：KDDI (株)プレ運用及びモニタリング調査開始

平成 30 年度：KDDI (株)本格運用開始

令和 2 年度：(株)ドコモ CS 及びソフトバンク (株)より参入に向けた相談

令和 3 年度：楽天モバイル (株)より参入に向けた相談

令和 4 年度：(株)ドコモ CS が運用開始

<整備状況>

- ・KDDI (株)：御池・沼山峠・尾瀬沼・見晴・竜宮・山ノ鼻・鳩待地区
- ・(株)ドコモ CS：御池・沼山峠・尾瀬沼・見晴・竜宮・山ノ鼻・鳩待地区

- ・ソフトバンク (株)：未実施
- ・楽天モバイル (株)：未実施

<今後の対応について>

○ソフトバンク (株)及び楽天モバイル (株)の整備内容については、平成 28 年度に合意された内容に沿った整備とするよう指導していく。

○KDDI (株)のモニタリングによって指摘のあった使用可能エリアの周知や山小屋等における充電マナー等の課題については、自然公園法の手続きに際し、環境省から通信各社に周知するとともに、関係者が連携してその対策に努めたい。

尾瀬国立公園協議会設置要綱

(目的)

第1条 今後の尾瀬の保護と利用のあり方を取りまとめた「新・尾瀬ビジョン」の進行促進、進行管理及び実現を目指すとともに、参加型管理運営体制を構築するため、尾瀬国立公園協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の構成等)

第2条 協議会は、別表に掲げる関係機関及び関東地方環境事務所長が委嘱する委員をもって構成する。

- 2 協議会に議長を置く。
- 3 議長は、互選で選出するものとする。

(議長の職務)

第3条 議長は協議会の会務を掌理する。

2 議長に事故あるとき、又は議長が欠けたときは、議長があらかじめ指名した構成員が、その職務を代行する。

(招集)

第4条 協議会の招集は、関東地方環境事務所長が行う。

(議事の公開)

第5条 協議会の議事は公開とする。ただし、構成員の総意により非公開とすることができる。

(代理出席)

第6条 関係機関のうち行政機関及び山小屋組合は、やむを得ない事情により協議会に出席できない場合において、代理の者を指名し、出席させることができる。

(関係者の参加)

第7条 議長は、議事運営上必要があると判断した場合は、議事に関係する者を協議会に参加させることができる。

(事務局)

第8条 協議会の事務をおこなうため関東地方環境事務所に協議会事務局を置く。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、別に定める。

附 則 この要綱は、平成20年1月18日から施行する。
この要綱は、平成25年8月 6日から施行する。
この要綱は、平成29年3月 8日から施行する。
この要綱は、平成30年3月22日から施行する。
この要綱は、令和 5年1月30日から施行する。

尾瀬国立公園協議会 構成員

関係機関

委員

行政機関	
1	環境省関東地方環境事務所長
2	林野庁関東森林管理局計画保全部長
3	福島県生活環境部長
4	栃木県環境森林部長
5	群馬県環境森林部長
6	新潟県環境局長
7	檜枝岐村長
8	南会津町長
9	日光市長
10	片品村長
11	魚沼市長
財団	
12	公益財団法人尾瀬保護財団
土地所有者・管理者	
13	三井物産株式会社サステナビリティ 経営推進部グローバル環境室
14	東京電力リニューアブルパワー株式 会社水力部水利・尾瀬グループ
15	東京パワーテクノロジー株式会社
観光協会	
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会
17	南会津町観光物産協会館岩支部
18	一般社団法人日光市観光協会湯西川 ・川俣・奥鬼怒支部
19	一般社団法人片品村観光協会
20	一般社団法人魚沼市観光協会
山小屋組合	
21	尾瀬山小屋組合 組合長
22	尾瀬山小屋組合 副組合長
地元自然保護・環境教育・ガイドの団体	
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会
24	公益財団法人日本野鳥の会栃木県支 部
25	片品山岳ガイド協会
26	新潟県自然観察指導員の会
その他団体	
27	公益財団法人日本自然保護協会
28	自然公園財団
2829	尾瀬ガイド協会

有識者	
29	齋藤 晋(群馬県立女子大学名誉教授)
2930	長橋 良隆(福島大学教授)
3031	加藤 峰夫(横浜国立大学大学院教授)

2022年11月30日

2022年 尾瀬国立公園の入山者数について

環境省では、尾瀬国立公園の入山者数を把握するため、主要な入山口に赤外線カウンターを設置して、入山者数の調査を行っています。

2022年5～10月の入山者数の合計は、約16万3千人でした。

1. 目的

環境省では、尾瀬国立公園の入山者数の経年変化を把握し、国立公園の適正な利用に資するため、主要な入山口（沼山口、御池口、大清水口、鳩待口（尾瀬ヶ原方面、至仏山方面、アヤマ平方面）、滝沢口、猿倉口、馬坂口の9か所）に赤外線カウンターを設置し、入山者数の調査を行っています。

2. 方法

2022年は、尾瀬国立公園の各入山口に、赤外線カウンターを設置して調査を行いました。

なお、赤外線カウンターの数値は霧などによる誤作動と考えられるデータを削除した上で集計しています※。また、赤外線カウンターの設置期間や設置数は、年によって異なっているため、過年度の入山者数と単純な比較ができない点についてご留意ください。

※ 一般的に、赤外線カウンターは、利用者が集中するところでは実際よりも少なくカウントされ、濃い霧などが発生した場合は誤作動で実際より多くカウントされることがわかっています。

3. 結果

2022年における尾瀬国立公園の入山者数の合計は、163,223人でした。

最も入山者数が多かった月は、7月の37,736人で、次いで6月の35,833人でした。

また、最も入山者数が多かった入山口は、鳩待口（尾瀬ヶ原方面）の82,657人で、次いで沼山口の21,526人でした。

表 尾瀬国立公園の入山口ごとの月別入山者数（2022年5～10月）

	5月	6月	7月	8月	9月	10月	計
沼山口	694	4,704	6,185	3,710	2,761	3,472	21,526
御池口	462	1,399	2,844	2,261	2,012	2,868	11,846
大清水口	458	2,328	2,892	2,583	1,607	1,996	11,864
鳩待口 (尾瀬ヶ原方面)	5,786	23,675	15,512	12,793	10,393	14,498	82,657
鳩待口 (至仏山方面)	—	—	5,497	3,506	918	4,269	14,190
鳩待口 (アヤマ平方面)	300	1,241	1,357	1,018	862	1,492	6,270
滝沢口	224	554	2,168	1,917	2,021	2,815	9,699
猿倉口	—	1,324	959	490	345	571	3,689
馬坂口	—	608	322	189	169	194	1,482
計	7,924	35,833	37,736	28,467	21,088	32,175	163,223

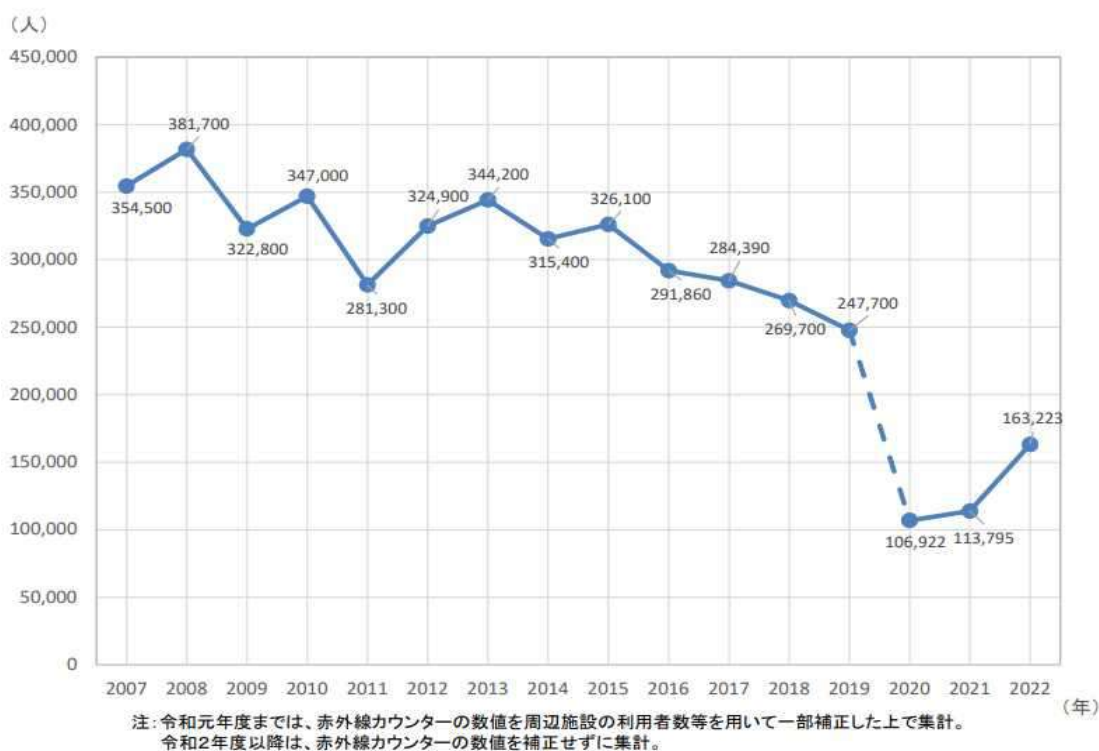


図 尾瀬国立公園の入山者数の推移（参考）

添付資料

- ・赤外線カウンター設置位置及び計測期間

環境省 関東地方環境事務所
 国立公園課長：植竹 朋子
 <問合せ先>
 片品自然保護官事務所（群馬県域）
 担当：服部 優樹（Tel：0278-58-9145）
 檜枝岐自然保護官事務所（福島県域）
 担当：山崎 大輔（Tel：0241-75-7301）

赤外線カウンター設置位置



● 入山口名
(カウンター設置場所)

赤外線カウンター計測期間

年	沼山口		御池口		大清水口		鳩待口(尾瀬ヶ原方面)		鳩待口(至仏山方面)		鳩待口(アヤマ平方面)		滝沢口		猿倉口		馬坂口	
	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日	開始日	終了日
2007	5/19	10/31	5/18	10/31	5/24	10/22	5/17	10/31	7/1	10/31	5/17	10/31	—	—	—	—	—	—
2008	5/23	10/31	5/24	10/31	5/29	10/22	5/23	10/31	7/1	10/31	5/23	10/31	6/1	10/31	6/1	10/31	6/12	10/31
2009	5/25	10/31	5/24	10/31	5/25	10/23	5/26	11/2	6/3	11/2	6/9	11/2	5/26	10/31	5/28	10/31	5/30	10/31
2010	5/25	10/31	5/21	10/31	5/25	10/26	5/20	10/31	7/1	10/31	5/20	10/31	5/26	10/31	6/9	10/31	6/9	10/31
2011	5/25	10/31	5/24	10/31	5/23	10/24	5/25	11/1	7/1	11/1	5/25	11/1	5/24	10/31	6/7	10/31	6/7	10/31
2012	5/25	10/31	5/15	10/31	5/24	10/21	6/1	11/1	7/1	10/31	6/1	11/1	5/15	10/31	6/6	10/31	6/6	10/31
2013	5/21	10/31	5/21	10/31	5/16	10/31	5/17	10/31	5/21	10/31	5/16	10/31	5/21	10/31	6/6	10/31	6/6	10/31
2014	5/19	10/31	5/19	10/31	5/21	10/31	5/21	10/31	7/1	10/31	5/21	10/31	5/19	10/31	6/1	10/31	6/1	10/31
2015	5/17	10/31	5/17	10/31	5/21	10/31	5/21	10/31	7/1	10/31	5/21	10/31	5/28	10/31	6/20	10/31	6/8	10/31
2016	4/27	10/31	4/27	10/31	5/21	10/31	5/21	10/31	7/1	10/31	5/21	10/31	5/18	10/31	6/7	10/31	5/24	10/31
2017	5/24	10/31	5/24	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/25	10/31	6/10	10/31	6/6	10/31
2018	5/8	10/31	5/8	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	6/30	10/31	5/19	10/31	4/28	10/31	6/9	10/31	5/28	10/31
2019	5/20	10/31	5/21	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/14	10/31	6/7	10/31	6/7	10/31
2020	7/1	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	8/7	10/31	—	—
2021	5/25	10/31	5/1	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/8	10/31	6/11	10/31	5/31	10/18
2022	5/26	10/31	5/13	10/31	5/19	10/31	5/19	10/31	7/1	10/31	5/19	10/31	5/13	10/31	6/10	10/31	6/6	10/17

尾瀬国立公園協議会設置要綱

(目的)

第1条 今後の尾瀬の保護と利用のあり方を取りまとめた「尾瀬ビジョン」の進行促進、進行管理及び実現を目指すとともに、参加型管理運営体制を構築するため、尾瀬国立公園協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(協議会の構成等)

第2条 協議会は、別表に掲げる関係機関及び関東地方環境事務所長が委嘱する委員をもって構成する。

- 2 協議会に議長を置く。
- 3 議長は、互選で選出するものとする。

(議長の職務)

第3条 議長は協議会の会務を掌理する。

2 議長に事故あるとき、又は議長が欠けたときは、議長があらかじめ指名した構成員が、その職務を代行する。

(招集)

第4条 協議会の招集は、関東地方環境事務所長が行う。

(議事の公開)

第5条 協議会の議事は公開とする。ただし、構成員の総意により非公開とすることができる。

(代理出席)

第6条 関係機関のうち行政機関及び山小屋組合は、やむを得ない事情により協議会に出席できない場合において、代理の者を指名し、出席させることができる。

(関係者の参加)

第7条 議長は、議事運営上必要があると判断した場合は、議事に関係する者を協議会に参加させることができる。

(事務局)

第8条 協議会の事務をおこなうため関東地方環境事務所に協議会事務局を置く。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営について必要な事項は、別に定める。

附 則 この要綱は、平成20年1月18日から施行する。
この要綱は、平成25年8月 6日から施行する。
この要綱は、平成29年3月 8日から施行する。
この要綱は、平成30年3月22日から施行する。

尾瀬国立公園協議会 構成員

関係機関

委員

行政機関	
1	環境省関東地方環境事務所長
2	林野庁関東森林管理局計画保全部長
3	福島県生活環境部長
4	栃木県環境森林部長
5	群馬県環境森林部長
6	新潟県県民生活・環境部長
7	檜枝岐村長
8	南会津町長
9	日光市長
10	片品村長
11	魚沼市長
財団	
12	尾瀬保護財団
土地所有者・管理者	
13	三井物産（株）環境・社会貢献部社 有林室
14	東京電力ホールディングス株式会社 リニューアブルパワー・カンパニー 水利・尾瀬グループ
15	東京パワーテクノロジー株式会社
観光協会	
16	尾瀬檜枝岐温泉観光協会
17	南会津町観光協会館岩支部
18	湯西川・川俣・奥鬼怒温泉観光協会
19	片品村観光協会
20	魚沼市観光協会
山小屋組合	
21	尾瀬山小屋組合 組合長
22	尾瀬山小屋組合 副組合長
地元団体	
23	尾瀬保護指導員福島県連絡協議会
24	日本野鳥の会栃木県支部
25	片品山岳ガイド協会
26	新潟県自然観察指導員の会
その他団体	
27	日本自然保護協会
28	自然公園財団
29	尾瀬ガイド協会

有識者	
30	斎藤 晋（群馬県立女子大学名誉教授）
31	長橋 良隆（福島大学教授）
32	加藤 峰夫（横浜国立大学大学院教授）

※順不同